2026年度
大学院国際文化研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X2001】国際文化研究A［森村　修］春学期授業/Spring …… 1
【X2002】国際文化研究B［釜土　詳二］秋学期授業/Fall …… 3
【X2003】国際文化共同研究A［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring …… 4
【X2004】国際文化共同研究B［張　勝蘭］秋学期授業/Fall …… 5
【X2005】多言語相関論ⅠA［粟飯原　文子］春学期授業/Spring …… 6
【X2006】多言語相関論ⅠB［粟飯原　文子］秋学期授業/Fall …… 7
【X2009】多言語相関論ⅢA［輿石　哲哉］春学期授業/Spring …… 8
【X2010】多言語相関論ⅢB［輿石　哲哉］秋学期授業/Fall …… 9
【X2011】多言語相関論ⅣA［副島　健作］春学期授業/Spring …… 11
【X2012】多文化相関論ⅠA［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］春学期授業/Spring …… 12
【X2013】多文化相関論ⅠB［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］秋学期授業/Fall …… 13
【X2014】多文化相関論ⅡA［小川　敦］春学期授業/Spring …… 14
【X2015】多文化相関論ⅡB［小川　敦］秋学期授業/Fall …… 16
【X2016】多文化相関論Ⅲ［佐々木　一惠］春学期授業/Spring …… 18
【X2057】多文化芸術論ⅠA［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring …… 20
【X2058】多文化芸術論ⅠB［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall …… 22
【X2018】多文化芸術論Ⅱ［廣松　勲］秋学期授業/Fall …… 24
【X2019】異文化社会論ⅠA［今泉　裕美子］春学期授業/Spring …… 25
【X2020】異文化社会論ⅠB［今泉　裕美子］秋学期授業/Fall …… 27
【X2021】異文化社会論ⅡA［浅川　希洋志］春学期授業/Spring …… 29
【X2022】異文化社会論ⅡB［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall …… 30
【X2025】マイノリティ社会論A［張　勝蘭］春学期授業/Spring …… 32
【X2027】ジェンダー論［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall …… 34
【X2028】多言語社会論A［大中　一彌］春学期授業/Spring …… 36
【X2029】多言語社会論B［大中　一彌］秋学期授業/Fall …… 38
【X2030】多民族共生論ⅠA［松本　悟］春学期授業/Spring …… 40
【X2031】多民族共生論ⅠB［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 41
【X2032】多民族共生論ⅡA［髙柳　俊男］春学期授業/Spring …… 42
【X2033】多民族共生論ⅡB［髙柳　俊男］秋学期授業/Fall …… 43
【X2034】国際ジャーナリズム論［神林　毅彦］秋学期授業/Fall …… 44
【X2035】国際文化交流論ⅡA［木村　真］秋学期授業/Fall …… 45
【X2036】比較宗教文明論［臼杵　陽］秋学期授業/Fall …… 46
【X2037】多文化情報空間論ⅠA［森村　修］春学期授業/Spring …… 48
【X2038】多文化情報空間論ⅠB［森村　修］秋学期授業/Fall …… 49
【X2039】多文化情報メディア論ⅠA［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 50
【X2040】多文化情報メディア論ⅠB［大嶋　良明］秋学期授業/Fall …… 51
【X2041】多文化情報メディア論Ⅱ［重定　如彦］秋学期授業/Fall …… 52
【X2042】外国語実践研究A（英語）［ＭＡＲＫ　Ｅ　ＦＩＥＬＤ］秋学期授業/Fall …… 53
【X2044】外国語実践研究A（ドイツ語）［小川　敦］春学期授業/Spring …… 54
【X2045】外国語実践研究A（ロシア語）［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring …… 55
【X2046】外国語実践研究B（ロシア語）［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall …… 56
【X2047】Thesis Writing A［ＭＡＸＩＭ　ＷＯＯＬＬＥＲＴＯＮ］春学期授業/Spring …… 57
【X2048】Thesis Writing B［ＭＡＸＩＭ　ＷＯＯＬＬＥＲＴＯＮ］秋学期授業/Fall …… 59
【X2049】Oral Presentation［ＭＡＲＫ　Ｅ　ＦＩＥＬＤ］秋学期授業/Fall …… 61

【X2050】 国際協力論［松本　悟］ 春学期授業/Spring 62
【X2051】 国際人権論［藤岡　美恵子］ 春学期授業/Spring 63
【X2054】 国際文化研究日本語論文演習Ａ［板井　美佐］ 春学期授業/Spring 66
【X2055】 国際文化研究日本語論文演習Ｂ［板井　美佐］ 秋学期授業/Fall 68
【X2056】 国際文化研究日本語論文演習Ｃ［板井　美佐］ 春学期授業/Spring 70
【X2070】 修士論文演習Ａ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 春学期授業/Spring 72
【X2071】 修士論文演習Ｂ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 73
【X2072】 修士論文演習Ａ［浅川　希洋志］ 春学期授業/Spring 74
【X2073】 修士論文演習Ｂ［浅川　希洋志］ 秋学期授業/Fall 75
【X2074】 修士論文演習Ａ［大嶋　良明］ 春学期授業/Spring 76
【X2075】 修士論文演習Ｂ［大嶋　良明］ 秋学期授業/Fall 77
【X2078】 修士論文演習Ａ［佐藤　千登勢］ 春学期授業/Spring 78
【X2079】 修士論文演習Ｂ［佐藤　千登勢］ 秋学期授業/Fall 79
【X2080】 修士論文演習Ａ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 春学期授業/Spring 80
【X2081】 修士論文演習Ｂ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 秋学期授業/Fall 81
【X2082】 修士論文演習Ａ［張　勝蘭］ 春学期授業/Spring 82
【X2083】 修士論文演習Ｂ［張　勝蘭］ 秋学期授業/Fall 83
【X2085】 修士論文演習Ｂ［佐々木　一惠］ 秋学期授業/Fall 84
【X2086】 修士論文演習Ａ［大野　ロベルト］ 春学期授業/Spring 85
【X2087】 修士論文演習Ｂ［大野　ロベルト］ 秋学期授業/Fall 86
【X2088】 修士論文演習Ａ［髙柳　俊男］ 春学期授業/Spring 87
【X2089】 修士論文演習Ｂ［髙柳　俊男］ 秋学期授業/Fall 88
【X2090】 修士論文演習Ａ［今泉　裕美子］ 春学期授業/Spring 89
【X2091】 修士論文演習Ｂ［今泉　裕美子］ 秋学期授業/Fall 90
【X2092】 修士論文演習Ａ［粟飯原　文子］ 春学期授業/Spring 91
【X2093】 修士論文演習Ｂ［粟飯原　文子］ 秋学期授業/Fall 92
【X2101】 博士論文演習ＩＡ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 春学期授業/Spring 93
【X2121】 博士論文演習ＩＡ［副島　健作］ 春学期授業/Spring 94
【X2102】 博士論文演習ＩＢ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 95
【X2122】 博士論文演習ＩＢ［副島　健作］ 秋学期授業/Fall 96
【X2103】 博士論文演習ⅡＡ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 春学期授業/Spring 97
【X2104】 博士論文演習ⅡＢ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 98
【X2105】 博士論文演習ⅢＡ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 春学期授業/Spring 99
【X2113】 博士論文演習ⅢＡ［森村　修］ 春学期授業/Spring 100
【X2106】 博士論文演習ⅢＢ（代表シラバス）［重定　如彦、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 101
【X2114】 博士論文演習ⅢＢ［森村　修］ 秋学期授業/Fall 102
【X2117】 博士論文演習ⅡＡ［大野　ロベルト］ 春学期授業/Spring 103
【X2118】 博士論文演習ⅡＢ［大野　ロベルト］ 秋学期授業/Fall 104
【X2111】 博士論文演習ⅢＡ［髙柳　俊男］ 春学期授業/Spring 105
【X2112】 博士論文演習ⅢＢ［髙柳　俊男］ 秋学期授業/Fall 106
【X2115】 博士論文演習ⅢＡ［佐藤　千登勢］ 春学期授業/Spring 107
【X2116】 博士論文演習ⅢＢ［佐藤　千登勢］ 秋学期授業/Fall 108
【X2119】 博士論文演習ⅢＡ［浅川　希洋志］ 春学期授業/Spring 109
【X2120】 博士論文演習ⅢＢ［浅川　希洋志］ 秋学期授業/Fall 110
【X2131】 博士ワークショップＩＡ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 春学期授業/Spring 111
【X2132】 博士ワークショップＩＢ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 112
【X2133】 博士ワークショップⅡＡ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 春学期授業/Spring 113
【X2134】 博士ワークショップⅡＢ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 114
【X2135】 博士ワークショップⅢＡ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 春学期授業/Spring 115
【X2136】 博士ワークショップⅢＢ［佐藤　千登勢、小川　敦］ 秋学期授業/Fall 116

OTR500G1 – 001（その他 / Others 500）

国際文化研究Ａ

森村　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「国際文化研究A」は、新入生（修士課程１年生）が大学院生として必要とする文献調査および講読、講義ノートの作成や整理に必要な技術を身につけることに主眼を置く。

【到達目標】
(1) 研究上必要な書誌情報にアクセスする方法を理解している。
(2) 本研究科における研究の学際性について、本研究科に在籍する修士１年生にふさわしい認識を有している。
(3) みずからの関心を研究成果につなげていくための方法論について、本研究科に在籍する修士１年生にふさわしい認識を有している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1)第１回～第４回：大学院生として研究をおこなう上での基礎知識や、本研究科を取り巻く環境に慣れるための授業をおこなう。
(2)第５回～第13回：毎回異なるスピーカー（本研究科の専任教員）が、修士１年生向けに講義をおこなう。
(3)第14回：全体のまとめをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介・関心紹介、授業計画について説明を行う。
第2回	リサーチデザイン(第1回)	・大学院における学習・研究について解説する。 ・受講学生たちのこれまでの研究状況を確認する。
第3回	リサーチデザイン(第2回)	・引き続き、大学院における学習・研究について解説する。 ・研究計画作成の重要性について意識を高める。
第4回	図書館ガイダンス	図書館員による図書館ガイダンスを利用しつつ、法政大学図書館を介した文献調査のイロハを学ぶ。
第5回	オムニバス形式の講義（第1回）	浅川希洋志先生（ポジティブ心理学、文化心理学）が講義を行う。 ・テーマ「フロー経験がもたらす心理的ウェルビーイングと持続的幸福感への可能性」
第6回	オムニバス形式の講義（第2回）	松本悟先生（開発研究、メコン地域研究、環境社会配慮、NGO論）が講義を行う。
第7回	オムニバス形式の講義（第3回）	廣松勲先生（フランス語圏文学研究）が講義を行う。
第8回	オムニバス形式の講義（第4回）	佐々木一惠先生（歴史学）が講義を行う。 ・テーマ「エゴ・ドキュメントから捉えるトランスナショナル・ヒストリー」
第9回	オムニバス形式の講義（第5回）	大中一彌先生（政治学・政治思想）が講義を行う。
第10回	オムニバス形式の講義（第6回）	レティツィア・グアリーニ先生（文学研究、ジェンダー研究）が講義を行う。
第11回	オムニバス形式の講義（第7回）	大嶋良明先生（情報学、統計的言語処理、ディジタル信号処理）が講義を行う。
第12回	オムニバス形式の講義（第8回）	副島健作先生（日本語教育、言語学、現代日本語文法）が講義を行う。
第13回	オムニバス形式の講義（第9回）	今泉裕美子先生（国際関係学、国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究）が講義を行う。
第14回	総括	これまでの議論を踏まえて補足授業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
別途指示する。

【参考書】
別途指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、下記の①＋②の提出物などを総合的に判断して行う。
①「リサーチデザイン」＋②9つのオムニバス形式の講義ごとに「ミニ課題」にて採点：10％×10

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションをファシリテートする際に受講生をグループで分けて論点を示す必要があります。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出などは、主にLMS（HoppiiやGoogle Classroom）を通じて行う。ただし、社会人学生などで、日中の授業に参加することが継続的に難しいＭ１生がいる場合、Zoomで授業を録画し、当該のＭ１生と共有する。当該のＭ１生（社会人学生）の発表担当についても、動画やLMSを介した双方向のやりとりを行う。

【その他の重要事項】
修士課程1年は必ず履修すること。

【担当教員の専門分野等】
森村　修
＜専門領域＞
現代哲学（フッサール現象学・フランス現代思想）・現代倫理学（ケアの倫理学）・近代日本哲学・芸術哲学
＜研究テーマ＞
1.フッサール現象学を主として、その影響下にある数理哲学者オスカー・ベッカー哲学（存在論・美学）を研究している。
2.フーコー、ドゥルーズ、デリダを中心としたフランス構造主義以後のフランス哲学。最近では、カトリーヌ・マラブーの哲学（社会的トラウマの問題）を研究している。
3.京都学派（特に、西田幾多郎・田辺元・九鬼周造・和辻哲郎）の哲学研究
4.美学理論・芸術哲学
5.〈ケア〉の形而上学の構築と展開
＜主要研究業績＞
1.『ケアの倫理』大修館書店、2000年
2.『ケアの形而上学』大修館書店、2020年
3.オスカー・ベッカーの「パラ存在論」法政大学国際文化学部『異文化』24、2024年

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the foundations of the Graduate School of Intercultural Communication according to three domains of interdisciplinary research: multicultural interrelations, multiethnic coexistence, and multicultural informatics.
(Learning Objectives)
(1) To understand how to access bibliographic information necessary for research.
(2) To understand the interdisciplinary nature of research at the Graduate School of Intercultural Communication.

(3) To understand the methodologies used at this Graduate School to translate one's interests into research results.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are expected to read the reference material and prepare for each class meeting (one to three hours for each session).
（Grading Criteria /Policy）
Assignments for each topic: 100% (10%x10 topics)

OTR500G1 – 002（その他 / Others 500）

国際文化研究Ｂ

釜土　詳二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「国際文化研究Ｂ」では、参加者の研究に寄与するような、発表・ディスカッションの実践を積み重ねていく。

【到達目標】
(1) 研究発表に必要な資料を、大学院生にふさわしく、適切な仕方で作成することができる。
(2) 研究テーマが異なる他の参加者に対して、みずからの研究の意義を適切なしかたで説明することができる。
(3) アカデミックな表現や国際文化研究における基本的な概念を使って、学際的な場におけるディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1)第1回：全体のイントロダクションを行う。
(2)第2回～第13回：「国際文化情報学会」などにおける研究発表を念頭に、授業参加者が口頭発表や資料作成の進捗報告を行う。ただし、履修者数により、口頭発表の方法や課題提出のあり方を変える。
(3)第14回：全体のまとめと授業内容の補足を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自分の研究テーマを中心とした自己紹介、本授業の進め方とスケジュール決定。
第2回	学生による発表(1)	発表者1、2による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第3回	学生による発表(2)	発表者3、4による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第4回	学生による発表(3)	発表者5、6による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第5回	学生による発表(4)	発表者7、8による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第6回	学生による発表(5)	発表者9、10による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第7回	学生による発表(6)	発表者11、12による1回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第8回	学生による発表(7)	発表者1、2による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第9回	学生による発表(8)	発表者3、4による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第10回	学生による発表(9)	発表者5、6による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第11回	学生による発表(10)	発表者7、8による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第12回	学生による発表(11)	発表者9、10による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第13回	学生による発表(12)	発表者11、12による2回目の口頭発表と資料作成の進捗状況報告。発表内容については、参加者全員で討論を行う。
第14回	総括	これまでの議論を踏まえて、授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
別途指示する。

【参考書】
別途指示する。

【成績評価の方法と基準】
自分の発表時の内容40%、討論での貢献度30%、平常点30%を目安に、総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・活発な議論の場を築けるよう心掛けます。
・発表後のグループディスカッションや質疑応答を大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出などは、主にLMS（HoppiiやGoogle Classroom）を通じて行う。ただし、社会人学生などで、日中の授業に参加することが継続的に難しいＭ１生がいる場合、Zoomで授業を録画し、当該のＭ１生と共有する。当該のＭ１生（社会人学生）の発表担当についても、動画やLMSを介した双方向のやりとりを行う。

【その他の重要事項】
修士課程1年は必ず履修すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
倫理学、宗教哲学、哲学的人間学
＜研究テーマ＞
承認論などの人間存在をめぐる倫理的問題の研究。例えば、西田幾多郎の宗教哲学等を参照しつつ、人間存在の基底から、「人間の尊厳」「他者に対する責任や義務」「自己と他者の承認関係」等について考察する。
＜主要研究業績＞
【単著】釜土詳二『愛と承認をめぐる闘争―チャールズ・テイラーと西田幾多郎の宗教哲学』株式会社インプレス、2020年
【論文】釜土詳二「愛と承認をめぐる闘争―承認論の原型をめぐって―」、『法政大学大学院紀要』第81号、2018年
【論文】釜土詳二「自己と善――チャールズ・テイラーと西田幾多郎」、比較思想学会編『比較思想研究』第43号、2017年
【論文】釜土詳二「バーリンとテイラーにおける「自由」概念の差異：多元性を擁護する「自由」にかんする比較思想的考察」、法政大学国際文化学部編『異文化 論文編』第17号、2016年

【Outline (in English)】
This course is a continuation from the spring semester and is mandatory for all first-year graduate students. It offers opportunities for practicing presentations and engaging in discussions to enhance students' studies.
Students are expected to dedicate a total of 4 hours to reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria are as follows: 40% for presentations, 30% for contribution, and 30% for participation. Students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade.

OTR600G1 － 003（その他 / Others 600）

国際文化共同研究Ａ

佐藤　千登勢

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本科目は修士課程２年次在籍者の必修科目で、１年次の「国際文化研究Ａ」「国際文化研究Ｂ」に繋がるものですが、修士論文あるいはリサーチペーパーの完成にむけた履修者各自の発表と議論を重ねる場となります。
　ここで言う「共同研究」とは、テーマこそ多岐にわたるとはいえ、修士論文作成という共通の課題に向けてM2のみなさんと博士課程在籍者、担当教員が多様な観点から議論を重ね、協力し合うことを指します。
　研究科の３領域、「異文化相関関係」「多文化共生」「多文化情報空間」に目配りしつつ、自分の研究の位置づけや方法論などを他者のそれと比較し再検証することを通して、学際的方法論に依拠したより完成度の高い論文を目指します。

【到達目標】
　上記の「授業の概要と目的」を念頭に置き、受講者各自がそれに見合った修士論文を完成させることを、本科目の最大の到達目標としますが、まずは修士論文構想発表会に向けてプレゼンテーションの準備を行い、修士論文完成に向けての道筋をつけていきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　修士論文構想発表会に向けたプレゼンテーションを行なってもらいます。発表者はレジュメもしくはパワーポイント、発表原稿を作成して発表を行い、他の出席者からの質問・意見・助言等をまじえ、全員で討論していくかたちをとります。
　基本的には修士論文構想発表会を想定したプレゼンテーションとなりますが、さらに修士論文完成を見据えた研究上の悩みや問題点を受講者・教員間で共有していきます。
　受講生の状況により、オンライン授業に変更する場合もありますが、基本的には対面での授業となります。授業形態の変更については、Hoppii「お知らせ」により適宜連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自分の研究テーマを中心とした自己紹介、本授業の進め方とスケジュール決定。
2	修士論文構想発表(1)	発表者1,2,3による1回目の発表。昨年度の国際文化情報学会でのフィードバックを踏まえ、修論構想の修正や確認を中心に発表。質疑応答。
3	修士論文構想発表(2)	発表者4,5,6による1回目の発表。昨年度の国際文化情報学会でのフィードバックを踏まえ、修論構想の修正や確認を中心に発表。質疑応答。
4	修士論文構想発表(3)	発表者7,8,9による1回目の発表。昨年度の国際文化情報学会でのフィードバックを踏まえ、修論構想の修正や確認を中心に発表。質疑応答。
5	修士論文構想発表(4)	発表者10,11,12による1回目の発表。昨年度の国際文化情報学会でのフィードバックを踏まえ、修論構想の修正や確認を中心に発表。質疑応答。
6	修士論文構想発表(5)	発表者13,14による1回目の発表。昨年度の国際文化情報学会でのフィードバックを踏まえ、修論構想の修正や確認を中心に発表。質疑応答。
7	修士論文構想発表(6)	発表者1,2,3による2回目の発表。第1回目発表のフィードバックを踏まえ、修論構想発表会のリハーサルを行う。質疑応答。
8	修士論文構想発表(7)	発表者4,5,6による2回目の発表。第1回目発表のフィードバックを踏まえ、修論構想発表会のリハーサルを行う。質疑応答。
9	修士論文構想発表(8)	発表者7,8,9による2回目の発表。第1回目発表のフィードバックを踏まえ、修論構想発表会のリハーサルを行う。質疑応答。
10	修士論文構想発表(9)	発表者10,11,12による2回目の発表。第1回目発表のフィードバックを踏まえ、修論構想発表会のリハーサルを行う。質疑応答。
11	修士論文構想発表(10)	発表者13,14による2回目の発表。第1回目発表のフィードバックを踏まえ、修論構想発表会のリハーサルを行う。質疑応答。
12	修士論文構想発表(11)	発表者12、13による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
13	修士論文構想発表　反省会まとめ１	修士論文構想発表会でのフィードバックを中心に反省会を行う（１～７の発表者について）。
14	修士論文構想発表　反省会まとめ２	修士論文構想発表会でのフィードバックを中心に反省会を行う（８～14の発表者について）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)自分の発表時に出された質問・批判・助言を参考にし、常に自分の論文の質を高めるよう努めること。
(2)他者の発表時に得られたヒントや着想を自らの論文に活かす可能性を常に考え、質の向上をはかること。
(3)修士論文のテーマを常に念頭におき、アイデアを遊ばせながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
教場で、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　自分の発表時の内容40%、他者の発表時の貢献度30%、平常点30%を目安に、総合的に評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
担当が初年度であるため、学生からの意見は得られておりません。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使って報告する場合はパソコンを持参してください。
Hoppii「掲示板」「お知らせ」などを常に確認・利用できる環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
・受講生の人数によって、授業計画が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
●Course outline
The seminar is designed to enhance participants' knowledge and methodologies in three key areas of study - intercultural correlation studies, multiculturalism studies, and multicultural information space studies.
At the end of the course, participants are expected to improve their interdisciplinary thinking and to write up the Master's thesis/the Research paper.
●Learning Objectives
This seminar is designed to facilitate the development of the Master's thesis/the Research paper by providing feedback and support from other students, seniors and instructors. Students may update on their progress and discuss tasks they accomplish for the thesis. Based on【Outline】of the seminar, students are expected to prepare for thesis proposal presentation and to complete the thesis.
●Learning activities outside of classroom
(1) Students should develop the Master's thesis/the Research paper based on questions, comments and advice given in the class.
(2) Students should develop the Master's thesis/the Research paper by discussing and reviewing other students' work.
(3)Students are expected to refine their research subject.
The standard time required for preparatory study and review for this course are 2 hours each.
●Grading Criteria /Policy
Presentation（40％）, Contribution(30%), Participation (30%)
Students are required to take more than 60% score in total to pass.

OTR600G1 － 004（その他 / Others 600）

国際文化共同研究Ｂ

張　勝蘭

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、修士論文あるいはリサーチペーパーの完成に向けて、受講する2年次の院生と教員で切磋琢磨する授業で、1年次の「国際文化研究A」「国際文化研究 B」、2年次春学期の「国際文化共同研究A」の延長線上にある。
「共同研究」というと、通常は共通テーマのもと、複数人が分担しながらともに研究することを意味するが、この場合の「共同」には、修士論文作成という共通の課題に向けて、それぞれ知恵を出し合い、協力し合う意味が込められている。
研究科の3領域、すなわち「異文化相関関係」「多文化共生」「多文化情報空間」に目配りしつつ、自分の研究の位置づけや方法論などを他者のそれと比較し、再検証することを通して、より完成度の高い論文を目指す。
とりわけ、本研究科の特色である学際的思考を組み込んでいく。

【到達目標】
上記の「授業の概要と目的」を念頭に置き、受講者各自がそれに見合った修士論文を完成させることを、本科目の最大の到達目標とする。
一定の構成・分量と主張をもつ論文の執筆は、誰にとってもたやすいことではない。一人で悩んだり、壁にぶつかって立ち往生することなく、同様の課題に直面している他の受講生からアドバイスをもらい、この道の先輩である教員の体験を聴くことで、困難な作業を順調に進めることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
修士論文の進捗状況に関する受講者の発表を中心に進めていく。発表者はレジュメもしくはパワーポイントを作成して発表を行い、他の出席者からの疑問・意見・助言等をまじえ、全員で討論していく。
修士論文中間発表会、修士論文の提出を二つの大きな節目と捉え、それに向けての進捗状況や研究上の悩み・問題点を受講者・教員間で共有していく。
社会情勢や受講生の状況により、オンライン授業に変更する場合もある。授業方法や進め方の変更については、学習支援システムの「お知らせ」により適宜連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自分の研究テーマを中心とした自己紹介、本授業の進め方とスケジュール決定。
2	修士論文中間発表(1)	発表者1、2、3による1回目の発表。7月に実施される研究科の構想発表会から、修士論文がどう進展し、何が変更されたかに重点を置きながら、進捗状況を報告する。
3	修士論文中間発表(2)	発表者4、5、6による1回目の発表。7月に実施される研究科の構想発表会から、修士論文がどう進展し、何が変更されたかに重点を置きながら、進捗状況を報告する。
4	修士論文中間発表(3)	発表者7、8、9による1回目の発表。7月に実施される研究科の構想発表会から、修士論文がどう進展し、何が変更されたかに重点を置きながら、進捗状況を報告する。
5	修士論文中間発表(4)	発表者10、11、12による1回目の発表。7月に実施される研究科の構想発表会から、修士論文がどう進展し、何が変更されたかに重点を置きながら、進捗状況を報告する。
6	修士論文中間発表(5)	発表者13による1回目の発表および発表者1による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
7	修士論文中間発表(6)	発表者2、3による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
8	修士論文中間発表(7)	発表者4、5による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
9	修士論文中間発表(8)	発表者6、7による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
10	修士論文中間発表(9)	発表者8、9による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
11	修士論文中間発表(10)	発表者10、11による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
12	修士論文中間発表(11)	発表者12、13による2回目の発表。研究の過程で直面している問題や課題を明確にしながら、進捗状況を報告する。
13	論文提出前ディスカッション	修士論文提出を間近に控え、各自が直面している問題や課題について議論し、その解決策等を検討する。
14	まとめ	提出した修士論文を振り返り、反省会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)自分の発表時に出された質問・批判・助言などを参考にし、常に自分の論文の質を高めるよう努めること。
(2)他者の発表時に得られたヒントや着想を、常に自らの論文に活かし、質の向上をはかること。
(3)自分の研究テーマを常に頭の片隅におき、アイデアを遊ばせながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自分の発表時の内容40%、他者の発表時の貢献度30%、平常点30%を目安に、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が論文執筆について疑問や不安に感じていることを、できるだけ授業内で共有し、適切なアドバイスを得られるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントなどを使って報告する場合は、パソコンを持参し、対面授業の場合は教室でプロジェクターの準備をしておくこと。
学習支援システムの「掲示板」「お知らせ」などを滞りなく確認・利用できる環境を準備すること。

【その他の重要事項】
・この授業は対面授業であるが、適宜ハイブリッド・オンラインも併用する予定。また受講生の人数によって、授業計画が変更される場合もある。

【Outline (in English)】
The seminar is designed to enhance participants' knowledge and methodologies in three key areas of study - intercultural correlation studies, multiculturalism studies, and multicultural information space studies.
At the end of the course, participants are expected to improve their interdisciplinary thinking and to write up the Master's thesis/the Research paper.
【Learning Objectives】
This seminar is designed to facilitate the development of the Master's thesis/the Research paper by providing feedback and support from other students, seniors and instructors. Students may update on their progress and discuss tasks they accomplish for the thesis. Based on【Outline】of the seminar, students are expected to prepare for interim presentation and to complete the thesis.
【Learning activities outside of classroom】
(1) Students should develop the Master's thesis/the Research paper based on questions, comments and advice given in the class.
(2) Students should develop the Master's thesis/the Research paper by discussing and reviewing other students' work.
(3)Students are expected to refine their research subject.
The standard time required for preparatory study and review for this course are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Presentation（40％）, Contribution(30%), Participation (30%)
Students are required to take more than 60% score in total to pass.

LIN500G1 － 101（言語学 / Linguistics 500）

多言語相関論ⅠA

粟飯原　文子

サブタイトル：アフリカ文学概論Ⅰ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代アフリカ文学のさまざまな作品に触れ、歴史的・社会的文脈をふまえつつ、主題、手法、表現を学ぶ。いくつかのトピックに分けて、作家と作品へのアプローチをおこない、アフリカ文学の主要なテーマを学び、その全体像と魅力をとらえる。またテクストにあわせて研究論文や批評の抜粋を読み、分析の手がかりにする。

【到達目標】
・アフリカ文学についての基礎的な知識を身につける。
・アフリカ（出身）の作家が書いた小説（日本語訳）を歴史的・社会的文脈と関連づけて読み解く力を養う。
・文学テクストを精読し、研究論文をあわせて読むことで、分析・批評の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義とディスカッションを組み合わせて進めていく。
・アフリカ文学を理解するために必要な知識や背景は講義形式で解説。作品の歴史・社会的文脈についても、そのつど説明する。映像作品を用いることもある。
・毎週または隔週で、日本語訳のある小説を配布するので、事前にしっかりと読んでくること。
・受講者全員が文献を精読し、積極的にディスカッションに参加すること。
＊「授業計画」の内容はあくまで予定であり、受講者の理解や関心にもとづいて適宜変更する可能性がある。
＊春学期と秋学期の授業を連続して受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～文学をどう読むか～	(1) 授業の進め方、予習の方法について説明。 (2) テクストを読んで分析する方法を学ぶ。
第2回	アフリカ文学小史	アフリカ文学のこれまでの歩みを概観する。
第3回	チヌア・アチェベ①作家について	ナイジェリアのチヌア・アチェベの来歴について学ぶ。
第4回	チヌア・アチェベ②作品の背景	アチェベの小説『崩れゆく絆』の背景を理解する。
第5回	チヌア・アチェベ③作品の全体像	『崩れゆく絆』の全体像を把握する。
第6回	チヌア・アチェベ④登場人物の分析	『崩れゆく絆』の登場人物について分析する。
第7回	グギ・ワ・ジオンゴ①作家について	ケニアのグギ・ワ・ジオンゴの来歴について学ぶ。
第8回	グギ・ワ・ジオンゴ②作品の背景	グギの小説『一粒の麦』の背景を理解する。
第9回	グギ・ワ・ジオンゴ③作品の全体像	『一粒の麦』の全体像を把握する。
第10回	グギ・ワ・ジオンゴ④登場人物の分析	『一粒の麦』の登場人物について分析する。
第11回	チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ①作家について	ナイジェリアのチママンダ・ンゴズィ・アディーチェの来歴について学ぶ。
第12回	チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ②作品の背景	アディーチェのさまざまな作品の背景と特徴を理解する。
第13回	チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ③短篇小説の分析	アディーチェの短篇小説をいくつか読んで分析する。
第14回	チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ④作品の主題の分析 今学期のまとめ	(1) アディーチェの短篇小説の主題について考える。 (2) 春学期に学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次週のための準備・予習は必ずおこなうこと。
・授業で扱うテクスト以外にも、その他の参考文献を積極的に読むことが望ましい。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回コピーかデータで配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表（60％）、授業への貢献（40％）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・さまざまな関心をもつ学生に対応できる授業にしたい。
・今年度も授業の進め方と内容を大幅に変えることにした。引き続き受講生の自主的な学習、積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【担当教員の専門分野等】
アフリカ文学、アフリカ地域研究
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/34/0003319/profile.html

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course will introduce students to a wide range of literary texts from Africa and the African diaspora. The goal is for students to acquire a general understanding of some of the most important issues in African literature. The course will also serve as an introduction to literary studies, and thus will focus on reading and writing skills, as well as basic techniques of literary analysis.
[Learning objectives]
Students will be expected to develop skills of critical reading of literary texts with attention to their historical and social contexts.
[Learning activities outside of classroom]
Before each session, students will be expected to have read the assigned materials. The required study time is at least four hours for each class session.
[Grading policy]
Final grade will be decided based on the following: presentation 60% and in-class contribution 40%.

LIN500G1 – 102（言語学 / Linguistics 500）

多言語相関論ⅠB

粟飯原　文子

サブタイトル：アフリカ文学概論Ⅱ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代アフリカ文学のさまざまな作品に触れ、歴史的・社会的文脈をふまえつつ、主題、手法、表現を学ぶ。いくつかのトピックに分けて、作家と作品へのアプローチをおこない、アフリカ文学の主要なテーマを学び、その全体像と魅力をとらえる。またテクストにあわせて研究論文や批評の抜粋を読み、分析の手がかりにする。

【到達目標】
・アフリカ文学についての基礎的な知識を身につける。
・アフリカ（出身）の作家が書いた小説（日本語訳）を歴史的・社会的文脈と関連づけて読み解く力を養う。
・文学テクストを精読し、研究論文をあわせて読むことで、分析・批評の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義とディスカッションを組み合わせて進めていく。
・アフリカ文学を理解するために必要な知識や背景は講義形式で解説。作品の歴史・社会的文脈についても、そのつど説明する。映像作品を用いることもある。
・毎週または隔週で、日本語訳のある小説を配布するので、事前にしっかりと読んでくること。
・受講者全員が文献を精読し、積極的にディスカッションに参加すること。
＊「授業計画」の内容はあくまで予定であり、受講者の理解や関心にもとづいて適宜変更する可能性がある。
＊春学期と秋学期の授業を連続して受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～アフリカ文学を読むために～	(1) 授業の進め方、予習の方法について説明。 (2) アフリカ文学を読むために必要な前提知識を学ぶ。
第2回	センベーヌ・ウスマン① 作家について	セネガルのセンベーヌ・ウスマンの来歴について学ぶ。
第3回	センベーヌ・ウスマン② 作品の背景	センベーヌの小説『神の森の木々』の背景を理解する。
第4回	センベーヌ・ウスマン③ 作品の全体像	『神の森の木々』の全体像を把握する。
第5回	センベーヌ・ウスマン④ 登場人物の分析	『神の森の木々』の登場人物について分析する。
第6回	ナディン・ゴーディマー①作家について	南アフリカのゴーディマーの来歴について学ぶ。
第7回	ナディン・ゴーディマー②作品の背景	ゴーディマーの小説『バーガーの娘』の背景を理解する。
第8回	ナディン・ゴーディマー③作品の全体像	『バーガーの娘』の全体像を把握する。
第9回	ナディン・ゴーディマー④登場人物の分析	『バーガーの娘』の登場人物について分析する。
第10回	アブドゥルラザク・グルナ①作家について	ザンジバルのアブドゥルラザク・グルナの来歴について学ぶ。
第11回	アブドゥルラザク・グルナ②作品の背景	グルナの小説『楽園』の背景を理解する。
第12回	アブドゥルラザク・グルナ③作品の全体像	『楽園』の全体像を把握する。
第13回	アブドゥルラザク・グルナ④登場人物の分析	『楽園』の登場人物について分析する。
第14回	今学期のまとめ	秋学期に学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次週のための準備・予習は必ずおこなうこと。
・授業で扱うテクスト以外にも、その他の参考文献を積極的に読むことが望ましい。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回コピーかデータで配布する

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表（60％）、授業への貢献（40％）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・さまざまな関心をもつ学生に対応できる授業にしたい。
・今年度も授業の進め方と内容を大幅に変えることにした。引き続き受講生の自主的な学習、積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【担当教員の専門分野等】
アフリカ文学、アフリカ地域研究
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/34/0003319/profile.html

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course will introduce students to a wide range of literary texts from Africa and the African diaspora. The goal is for students to acquire a general understanding of some of the most important issues in African literature. The course will also serve as an introduction to literary studies, and thus will focus on reading and writing skills, as well as basic techniques of literary analysis.
[Learning objectives]
Students will be expected to develop skills of critical reading of literary texts with
attention to their historical and social contexts.
[Learning activities outside of classroom]
Before each session, students will be expected to have read the assigned materials. The required study time is at least four hours for each class session.
[Grading policy] Final grade will be decided based on the following: presentation 60% and in-class contribution 40%.

LNG500G1 – 105

多言語相関論III A

奥石　哲哉

サブタイトル：言語の研究方法を学ぶ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語・英語や他の言語を比較対照しながら言語研究の仕方を学んでいくことが，本授業のテーマです．国際文化研究科の研究には様々な点で言語との関係が切っても切れないものが多いですが，言語の研究法についてはテクニカルなところがあり，なかなか理解が難しいのが現実です．本授業では，それを克服すべく，基本的な文献を読みながら言語研究の基本である音声研究を学んでいきます．

【到達目標】
1）言語研究の基本的な概念や方法論に習熟すること．
2）その概念，方法論を様々な言語に適用させ，より広い一般化の道筋を模索していくこと．
3）外国語（特に英語）で文献を読むのに慣れていくこと．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」の達成のために特に重要であり，「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に対面での開講となります．各回の授業計画は変更はありませんが，もし変更がある場合には，「学習支援システム」で提示します．
授業形式は講義としてありますが，演習の要素を多く採り入れながら行います．授業では学生にどんどん意味を問いかけていき，教材を日本語に訳していただき説明を加えます．この際，重要なのは，
1）全員が担当箇所を前もってひと通り読んでおくこと，
2）分からない場合，積極的に質問したり，意見を出し合うこと，
の2点です．
課題や授業内容については，「学習支援システム」を用いて，基本的に事後に詳細なコメントを担当者が出しますので，それをさらなる研究等に活かしてください．
最終授業だけでなく，中途でも，折を見て，フィードバックの時間を設けますので，内容についての質問等には随時対処していきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	本科目の概略，学習の仕方等についての説明．その上で，教材を読み始める．
2	Organs of Speech	発話に用いられるところの器官について学ぶ．
3	Speech Sounds, Classification of Vowels	言語音，母音の分類について学ぶ．
4	Classification of Vowels	母音の分類について学び，様々な言語の母音を概観する．
5	Further Classification of Vowels	母音の分類についてさらに見る．
6	Classification of Consonants	子音の分類について学ぶ．
7	Classification of Consonants	子音の発音について，様々な言語からの例を見ながら具体的に学ぶ．
8	Classification of Consonants	子音の発音について，様々な言語からの例を見ながら具体的に学ぶ．
9	Classification of Consonants, Further Analysis of Consonants	子音の発音について見た後，副次的調音について学ぶ．
10	Combination of Sounds	音の連続について学ぶ．
11	Syllables	言語の音声記述で重要な概念である音節という概念について学ぶ．
12	Quantity, Accent	音長，アクセントについてその概略を学ぶ．
13	Phonemes	言語の研究で非常に重要な概念である音素について，学ぶ．
14	Phonemes	言語の研究で非常に重要な概念である音素について，引き続き学ぶ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，必ず内容について質問しますので，必ず読んできてください．さらに関与する概念で新しいものについては，先にご自身で調べておくと，非常に理解が深まります．
まず，文献を読むべく，英語に習熟することが非常に重要です．常に英語力の向上に努めてください．発表に関しては，発表の担当者は，担当箇所をきちんと読んだ上で，発表の準備を怠りなくすること．他の受講者も，ひと通りその箇所を読み，自分なりの意見を持つようにすること，の2点が大切です．
大学設置基準に鑑みた場合，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，あくまで標準としてご理解ください．

【テキスト（教科書）】
Takebayashi, Shigeru (1976). *A Primer of Phonetics*. Tokyo: Iwasaki Linguistic Circle.[入手困難なため，授業支援システム等により配布します．]

【参考書】
以下に，辞書と年鑑・地図を挙げておきます．一般的なものですが，役に立ちます．
・高橋作太郎ら（編集）.『リーダーズ英和辞典』. 第三版. 東京：研究社.
学習者用辞書ではなく，一般用の辞書で，英語を読むのには必須です．
・Janssen, S. (ed.) (2025). *The World Almanac and Book of Facts 2026*. New York: The World Almanac Books.
・Philip's Maps (2024). *Philip's Modern School Atlas*. (101st edition.) London: Philip's.
以上の2冊は，英語の文献を読むときとても役に立ちます．

【成績評価の方法と基準】
授業での発表（50％），討論への参加（50％）．欠席は基本的に認めません．
この評価法をもとに，本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
アンケート非実施につき，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用しますので，パソコンなどの情報端末を用意してください．

【その他の重要事項】
言語研究の基礎として，音声に関する研究のアプローチを知っておくことは非常に重要です．今回のテキストは，とても基礎的なテキストですので，初歩から言語学・音声学の考え方が分かるような構成になっています．
授業では，教材の内容を理解するだけではなく，その後の理論的な流れやより詳細な情報を皆さんが得られるように，一緒に議論しながら解説を加えていきます．言語の研究の基礎固めをしたい方，構造主義を基本から理解したい方には，特にオススメの内容になっています．
言語に興味のある他専攻の方の履修も歓迎します．なお，進め方などについては，履修者の状況を見ながら変更をしていくことがあります．

【担当教員の専門分野等】
言語学，英語学（形態論，統語論，音声学），英語史など．

【カリキュラム上の位置づけ】
言語・文化に関して，比較・対照するということを軸に学んでいく2単位の科目です．（今年度は言語の研究法の基本をを学んでいきます．）

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The objective of this course is to provide you with the basic understanding of how you can conduct contrastive studies between Japanese, English, and other languages. Language is indeed a key for understanding various topics in our Graduate School. There are, however, many difficult technicalities in the research field of linguistics, to the extent that they become really high hurdles. So, this course hopefully works as an easy introduction to that research field. In this semester, we are going to do this by reading a textbook on phonetics, which constitutes the foundation of linguistic studies.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three-fold:
1. to familiarise yourself with basic concepts and methodology of language studies,
2. to pursue generalisations through applying them,
3. to get accustomed to reading literature in foreign language(s).
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You should read in advance and be ready for being asked various questions, or being asked for giving comments. According to the MEX regulation, the course of this type expects you to spend 4 hours for preparation and reviewing.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Basically, no absence allowed. Active participation in class sessions 50%, presentations 50%.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LNG500G1 – 106

多言語相関論III B

奥石　哲哉

サブタイトル：言語の研究方法を学ぶ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語・英語や他の言語を比較対照しながら言語研究の仕方を学んでいくことが，本授業のテーマです．国際文化研究科の研究には様々な点で言語との関係が切っても切れないものが多いですが，言語の研究法についてはテクニカルなところがあり，なかなか理解が難しいのが現実です．本授業では，それを克服すべく，基本的な文献を読みながら，主に音声研究以外の言語研究の基本を固めていきます．

【到達目標】
1）言語研究の基本的な概念や方法論に習熟すること．
2）その概念，方法論を様々な言語に適用させ，より広い一般化の道筋を模索していくこと．
3）外国語（特に英語）で文献を読むのに慣れていくこと．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」の達成のために特に重要であり，「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います．授業では学生にどんどん意味を問いかけていき，教材を日本語に訳していただき，説明を加えます．この際，重要なのは，
1）全員が担当箇所を前もってひと通り読んでおくこと，
2）分からない場合，積極的に質問したり，意見を出し合うこと，
の2点です．
課題や授業内容については，「学習支援システム」を用いて，基本的に事後に詳細なコメントを担当者が出しますので，それをさらなる研究等に活かしてください．
最終授業だけでなく，中途でも，折を見て，フィードバックの時間を設けますので，内容についての質問等には随時対処していきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入，音声学と音韻論について	本科目の概略，学習の仕方等についての説明．その上で，教材を読み始める．
第2回	音韻論について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第3回	音韻論について	担当者に順次発表してもらい，第2回の次の部分を読み進め，関連トピックをさらに議論，考察していく．
第4回	形態論について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第5回	形態論について	担当者に順次発表してもらい，第4回の次の部分を読み進め，関連トピックをさらに議論，考察していく．
第6回	統語論について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第7回	統語論について	担当者に順次発表してもらい，第6回の次の部分を読み進め，関連トピックをさらに議論，考察していく．
第8回	統語論について	担当者に順次発表してもらい，第7回の次の部分を読み進め，関連トピックをより詳細に議論，考察していく．
第9回	意味論について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第10回	語用論について	担当者に順次発表してもらい，第9回の次の部分を読み進め，関連トピックをさらに議論，考察していく．
第11回	言語と文化について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第12回	社会言語学について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第13回	言語接触について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．
第14回	言語変化について	担当者に順次発表してもらい，関連トピックを議論，考察していく．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，必ず内容について質問しますので，必ず読んできてください．さらに関与する概念で新しいものについては，先にご自身で調べておくと，非常に理解が深まります．
まず，文献を読むべく，英語に習熟することが非常に重要です．常に英語力の向上に努めてください．発表に関しては，発表の担当者は，担当箇所をきちんと読んだ上で，発表の準備を怠りなくすること．他の受講者も，ひと通りその箇所を読み，自分なりの意見を持つようにすること，の2点が大切です．
大学設置基準に鑑みた場合，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，あくまで標準としてご理解ください．

【テキスト（教科書）】
基本的に，*Language Files*, 12th edition (2016 年版，Department of Linguistics, The Ohio State University, Columbus: The Ohio State University Press) を用いますが，内容は選択します．その他を用いる場合には，授業で指示します．いずれも，「学習支援システム」等を通じ配布します．

【参考書】
以下に，辞書と年鑑・地図を挙げておきます．一般的なものですが，役立ちます．
・高橋作太郎ら（編集）.『リーダーズ英和辞典』. 第三版．東京：研究社.
学習者用辞書ではなく，一般用の辞書で，英語を読むのには必須です．
・Janssen, S. (ed.) (2025). *The World Almanac and Book of Facts 2026*. New York: The World Almanac Books.
・Philip's Maps (2024). *Philip's Modern School Atlas*. (101st edition.) London: Philip's.
以上の2冊は，英語の文献を読むときとても役に立ちます．

【成績評価の方法と基準】
報告，発表（50％），討論への参加（50％）．場合によっては，小論文を課すこともあります（その場合，「討論への参加」に代えて，「小論文」が50％となります）．欠席は基本的に認めません．
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
アンケート非実施につき，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用しますので，パソコンなどの情報端末を用意することが望ましいです．

【その他の重要事項】
言語研究の基礎として，様々な領域の研究のアプローチを知っておくことは非常に重要です．今回のテキストは非常に基礎的なテキストで，初歩から言語の研究についての考え方が分かるように書かれています．授業では，教材の内容を理解するだけではなく，その後の理論的な流れやより詳細な情報を皆さんが得られるように，一緒に議論しながら解説を加えていきます．
言語の研究の基礎固めをしたい人には，特にオススメの内容です．言語に興味のある他専攻の方の履修も歓迎します．なお，進め方など，履修者の状況を見ながら変更をしていくことがあります．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞英語学，音声学，言語学
＜研究テーマ＞英語の形態論を中心とする領域．
＜主要研究業績＞
Koshiishi, Tetsuya (2011). *Collateral Adjectives and Related Issues*. Bern: Peter Lang.

【カリキュラム上の位置】
言語・文化に関して，比較・対照するということを軸に学んでいく2単位の科目です．（今年度は言語の研究法の基本をを学んでいきます.）

【オフィスアワーについて】
基本的に，水曜日の昼休みに設定していますが，担当者宛にメールをいただければ，随時設定することが可能です．

【進行に関しての注記】
2021年度がそうでしたが，受講者の理解を見て，進路を遅らせます．昨年度の場合には，具体的には，11月半ばまでを，音韻論に費やし，その後形態論に入っただけで，統語論には入りませんでした．
これは，言語学の考え方そのものに，時間をかけて慣れていただくためです．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The objective of this course is to provide you with the basic understanding of how you can conduct contrastive studies between Japanese, English, and other languages. Language is indeed a key to understanding various topics in our Graduate School. There are, however, many difficult technicalities in the research field of linguistics, to the extent that they become really high hurdles. So, this course hopefully works as an easy introduction to that research field. In this semester, we are going to do this by reading some of the basic literature related to the fields other than phonetics.
【到達目標（Learning Objectives）】
The objective of this course is three-fold:
1. to familiarise yourself with basic concepts and methodology of language studies,
2. to pursue generalisations through applying them,
3. to get accustomed to reading literature in foreign language(s).
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

You should read in advance and be ready for being asked various questions, or being asked for giving comments. According to the MEX regulation, the course of this type expects you to spend 4 hours for preparation and reviewing.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Basically, no absence allowed. Active participation in class sessions 50%, presentations 50%.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LNG500G1 – 107

多言語相関論IV A

副島　健作

サブタイトル：多文化共生のための日本語言語学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない学習者に日本語を教えるという視点から、日本語に関する知識を深め、日本語学習者の母語と他の言語との相違点を理解する。また、コミュニケーションのための文法や語彙について考察し、多文化共生社会における日本語の役割とその言語学的側面について理解を深める。

【到達目標】
1）言語の実態と、一般的な母語話者が持っている言語的知識を区別し，広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
2）言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
3）相手の感情を害する誤用とはどういうものか，発話スタイルなど，誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか，考える。
4）日本語教育のための日本語学の研究動向について、自分の言葉で説明できる。
5）日本語学に関する研究と日本語教育実践の関係性について、自分の意見を具体的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP4」の達成のために重要である。また，「DP3」の達成のために望ましい。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義および受講者の発表から成ります。講義では、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の背後にある法則性を見つけ出します。受講者には、トピックに関する論文を選び要約し、討論することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 具体的エピソード	テキストの紹介・配布。 授業の進め方の確認。 外国人の日本語使用から「気づく」日本語の使用上の問題点を確認する
第2回	日本語の音	日本語の音声や音韻の構造について理解し，知識を深める
第3回	形態素・接辞，活用	形態素・接辞や活用形について理解し，知識を深める
第4回	品詞と文の成分	品詞と文の構成要素について理解し，知識を深める
第5回	格と述語	格と述語の役割について理解し，知識を深める
第6回	動詞の自他とヴォイス（受身文・使役文）	動詞の自他とヴォイス（受身文・使役文）について理解し，知識を深める
第7回	テンス・アスペクト・モダリティ	テンス・アスペクト・モダリティについて理解し，知識を深める
第8回	条件表現	条件表現の使い分けについて理解し，知識を深める
第9回	複文	複文について理解し，知識を深める
第10回	副詞	副詞の機能と用法について理解し，知識を深める
第11回	省略・主題と主格	省略や主題と主格の使い分けについて理解し，知識を深める
第12回	授受表現	授受表現について理解し，知識を深める
第13回	のだ文，終助詞・とりたて助詞	「のだ」文や終助詞・とりたて助詞について理解し，知識を深める
第14回	学期末試験	今学期の内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各トピックに関する日本語の現象について，身近な例をたくさん集め，意識的に観察し，自分なりに真剣に考えてくる。
　本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書及び参考文献は初回授業で指示する。

【参考書】
庵功雄 (2012)『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版』スリーエーネットワーク
高橋太郎（2005)『日本語の文法』ひつじ書房
日本語文法学会（編）(2014)『日本語文法辞典』大修館書店
益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版
ブラウン＆レヴィンソン／田中典子監訳(2011)『ポライトネス』研究社
滝浦真人(2005)『日本の敬語論』大修館書店
井出祥子(2006)『わきまえの語用論』大修館書店
三宅和子(2011)『日本語の対人関係把握と配慮表現行動』ひつじ書房
トマス／浅羽亮一監修(1998)『語用論入門』研究社
オーティー編／浅羽亮一監修(2004)『異文化理解の語用論』研究社
他多数

【成績評価の方法と基準】
本授業の到達目標がどれくらい達成できているかを以下の方法により合計１００点で評価する。
　レポート（40％）＝（興味のある研究論文について紹介し、自分の意見を述べる）
　発表のパフォーマンス（20％）
　課題（20％）
　平常点（受講態度など）（20％）
　この成績評価の方法をもとに総合的に判定し、60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
受講生の発表やディスカッションが中心になるため、積極的な参加を歓迎します。
少しでも日本語教師に興味があるならば、適宜相談に乗ります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代日本語文法、言語学、日本語教育
＜研究テーマ＞
コミュニケーション重視の日本語教育、文法構造を中心とした「日本語らしさ」の通言語的研究
＜主要研究業績＞
副島 健作 (2025)「音声言語における人為的結果の多様性－韓国語の受動表現と自動詞－」　『異文化』26, 59-80.
副島健作 (2024)「音声言語における結果表現の使い分け」『社会言語科学』27(1), 127-136.
副島健作 (2023)「受身や自動詞とその周辺構文による結果の表現－日本語，韓国語，ロシア語，エストニア語を対象に－」『異文化』24, 104-128.

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to introduce the perspective of teaching Japanese to non-native learners, deepen knowledge of the Japanese language, and understand the differences between the learners' native languages and Japanese. Additionally, the course examines grammar and vocabulary for communication to enhance understanding of the role of the Japanese language and its linguistic aspects in a multicultural society.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
(1) Distinguish between the reality of language and the linguistic knowledge possessed by native speakers in general, and learn to perceive the Japanese language from a broad and relative perspective.
(2) Learn how to extract linguistic phenomena from linguistic materials.
(3) Reflect on what kinds of misuses are harmful to the feelings of others, and consider whether factors such as speech style affect the feelings of others.
(4) Explain research trends in Japanese linguistics for Japanese language education in one's own words.
(5) State one's own opinions concretely about the relationship between research on Japanese linguistics and the practice of Japanese language education.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be sure to access the assignments that are mentioned in each case, and try to develop your own areas to handle. The contents will be the subject of question-and-answer sessions and discussions, if necessary.
　Your required study time is at least four hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
　Report (40%) =(Introduce a research paper of your interest and state your opinion)
　Performance of the presentation (20%)
　Assignments to check for understanding (20%)
　Attitude and others (20%)

CUA500G1 – 107（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

多文化相関論ＩＡ

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

サブタイトル：ジェンダー理論から現代文化を読み解く

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、サラ・アーメッド『幸福の約束』（花伝社、2025年）を読んで、ジェンダー理論やクィア理論の視点から文化を考察する力を養う。

【到達目標】
1）ジェンダー理論やクィア理論についての基礎的な知識を身につける。
2）クィアの視座から表象文化について論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP2」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サラ・アーメッド『幸福の約束』（花伝社、2025年）を読む。毎回、1名の発表者が、担当する章の内容をまとめ、論点整理やディスカッションのための問題提起を行う（発表時間は20分程度）。
また、文学作品や映像作品を取り上げ、グループでディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。発表の順番を決める。
第2回	『幸福の約束』序文	序「なぜ幸福？　なぜいま？」についてディスカッションを行う。
第3回	『幸福の約束』第1章（1）	第1章「幸福の対象」（前半）についてディスカッションを行う。
第4回	『幸福の約束』第1章（2）	第1章「幸福の対象」（後半）についてディスカッションを行う。
第5回	『幸福の約束』第2章（1）	第2章「フェミニスト・キルジョイ」（前半）についてディスカッションを行う。
第6回	『幸福の約束』第2章（2）	第2章「フェミニスト・キルジョイ」（後半）についてディスカッションを行う。
第7回	『幸福の約束』第3章（1）	第3章「不幸なクィアたち」（前半）についてディスカッションを行う。
第8回	『幸福の約束』第3章（2）	第3章「不幸なクィアたち」（後半）についてディスカッションを行う。
第9回	『幸福の約束』第4章（1）	第4章「メランコリックな移民」（前半）についてディスカッションを行う。
第10回	『幸福の約束』第4章（2）	第4章「メランコリックな移民」（後半）についてディスカッションを行う。
第11回	『幸福の約束』第5章（1）	第5章「幸福な未来」（前半）についてディスカッションを行う。
第12回	『幸福の約束』第5章（2）	第5章「幸福な未来」（後半）についてディスカッションを行う。
第13回	『幸福の約束』結論	結論「幸福、倫理、可能性」についてディスカッションを行う。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
課題のテキストを必ず事前に読む。
発表者は、テキストの内容をまとめ、議論を喚起する形で発表できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
サラ・アーメッド『幸福の約束』（花伝社、2025年）価格￥ 4,400

【参考書】
アーメッド、サラ『フェミニスト・キルジョイ: フェミニズムを生きるということ』（人文書院、2022年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023 年）
森山至貴『LGBTを読みとく: クィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】
研究発表とグループワーク 60 %、学期末レポート（2000字程度） 40%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き受講生のニーズに合わせてオンラインで授業参加を可とする。

【学生が準備すべき機器他】
発表やレポートを準備するためのパソコンなど。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近現代文学、ジェンダー理論、表象文化論
＜研究テーマ＞現代日本社会における家族、とりわけ父親や父娘関係の表象について研究している。また、「身体」についても文化表象の観点から考察している。トランスカルチュラリズムの研究も行っている。
＜主要研究業績＞
Guarini, Letizia.　"Does Japan Have No Future?　Compulsory Allosexuality and Asexual Experiences in Koi senu futari (2022) and Sobakasu (2022)." In The Routledge International Handbook of Global Asexualities and Aromanticisms, edited by Yo-Ling Chen and Ela Przyby□o. Routledge, forthcoming.
Guarini, Letizia. "Old Fathers and (Un)caring Daughters: Narratives of Father-Daughter Relationships in Contemporary Japanese Literature and Film." In Ageing Asia: Multimedia Representations of Ageing and Older Adults in Asian Societies," edited by Sung-Ae Lee and Bernard Wilson. Palgrave Macmillan, forthcoming.
Guarini, Letizia.　"Trans Bodies and Gender Fluid Fatherhood in Contemporary Japanese Literature." In Gender Fluidity in Japanese Arts and Culture.　Critical Essays, edited by Dean Conrad and Sayuri Hirano. McFarland Publishing, 2025.
Guarini, Letizia.　"Dismantling the Family Ideology in Contemporary Japanese Literature:　Hatred and Disgust in Three Family Stories by Kakuta Mitsuyo." In The Asian Family in Literature and Film : Changing Perceptions in a New Age-East Asia, Volume I, edited by Bernard Wilson and Sharifah Aishah Osman.　Palgrave Macmillan, 2024.
グアリーニ・レティツィア「異国の共同体で居場所を見つける―須賀敦子の越境性をめぐって―」『昭和文学研究89号』（2025年）

【【Prerequisite】】
None.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, we will discuss "The Promise of Happiness" by Sara Ahmed, (Duke University Press, 2010).　Students will learn about gender and queer theory applied to the analysis of culture and representation.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Acquire basic knowledge about gender and queer theory.
2) Read literary and cultural works from the perspective of gender and queer studies.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).　They are also expected to be prepared to deliver presentations in class.
（Grading Criteria /Policy）
The final grade will be decided based on the following:
Involvement during discussion and presentation: 60%
Final essay: 40%

CUA500G1 – 108（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

多文化相関論ＩＢ

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

サブタイトル：ポップカルチャーとファンダム文化のクィアネス

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ヨン・ヘウォン（編）『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』（河出書房新社、2024年）を読んで、ポップカルチャーとクィアネスの関係性について考える。またクィア理論の観点から表象文化を分析する力を養う。

【到達目標】
1. ポップ・カルチャー批評の理論とクィア理論の概念を理解する。
2. 幅広くメディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP2」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ヨン・ヘウォン（編）『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』（河出書房新社、2024年）を読む。毎回、発表者が担当する章の内容をまとめ、論点整理やディスカッションのための問題提起を行う（発表時間は20分程度）。
また、様々なメディアを分析しながらグループでディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。発表の順番を決める。
第2回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第1章	第1章「世代論から読み解くK-POPのクィアネス」についてディスカッションを行う。
第3回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第2章	第2章「K-POPとK-POPのディーバネス」についてディスカッションを行う。
第4回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第3章	第3章「「男性アイドルが好きなレズビアン」のための弁論：レズビアンのコミュニティ内で警戒される、「非常にレズビアンっぽい」欲望について」についてディスカッションを行う。
第5回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第4章	第4章「「当事者性」を構成する：BL、幻想、欲望」についてディスカッションを行う。
第6回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第5章	第5章「ファン・フィクション・クィアパディズム：クィア文化の様々な体位」についてディスカッションを行う。
第7回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第6章	第6章「Twilight Zone：女ドル・ファンフィクにおける愛という世界観―私が魅了された物語、その眩しさを目撃した者の証言」についてディスカッションを行う。
第8回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第7章	第7章「男性アイドルのアルペス文化におけるトランス嫌悪：「トランス的な」世界で起きている「トランス嫌悪」について」についてディスカッションを行う。
第9回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第8章	第8章「典型的ではない女性アーティストの系譜：トムボーイ、ガールクラッシュ、そして女ドクのクィアリング」についてディスカッションを行う。
第10回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第9章	第9章「女性- クィア・フェミニストがガールズグループを愛する方法」についてディスカッションを行う。
第11回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第10章	第10章「K-POPのジェンダー・クィアな美学」についてディスカッションを行う。
第12回	『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』第11章	第11章「身体とジェンダーの隙間で連帯する：アイドルが遂行するトランス・フェミニズム」についてディスカッションを行う。
第13回	個人研究の発表	修士論文について発表をしてもらう。
第14回	まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
課題のテキストを必ず事前に読む。
発表者は、テキストの内容をまとめ、議論を喚起する形で発表できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
ヨン・ヘウォン（編）『K-POPはなぜマイノリティを惹きつけるのか―クィアとアイドルの交差するところ』（河出書房新社、2024年））￥ 2,640

【参考書】
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
ストーリー、ジョン『ポップ・カルチャー批評の理論―現代思想とカルチュラル・スタディーズ』（小鳥遊書房、2023年）
村山敏勝『（見えない）欲望へ向けて ―クィア批評との対話』（筑摩書房、2022年）
森山至貴『LGBTを読みとく: クィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】
研究発表とグループワーク 60%、学期末レポート（2000字程度）40%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き受講生の状況に合わせてオンラインで授業参加を可とします。

【学生が準備すべき機器他】
発表やレポートを準備するためのパソコンなど。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近現代文学、ジェンダー理論、表象文化論
＜研究テーマ＞現代日本社会における家族、とりわけ父親や父娘関係の表象について研究している。また、「身体」についても文化表象の観点から考察している。トランスカルチュラリズムの研究も行っている。
＜主要研究業績＞
Guarini, Letizia. "Does Japan Have No Future? Compulsory Allosexuality and Asexual Experiences in Koi senu futari (2022) and Sobakasu (2022)." In The Routledge International Handbook of Global Asexualities and Aromanticisms, edited by Yo-Ling Chen and Ela Przyby☒o. Routledge, forthcoming.
Guarini, Letizia. "Old Fathers and (Un)caring Daughters: Narratives of Father-Daughter Relationships in Contemporary Japanese Literature and Film." In Ageing Asia: Multimedia Representations of Ageing and Older Adults in Asian Societies," edited by Sung-Ae Lee and Bernard Wilson. Palgrave Macmillan, forthcoming.
Guarini, Letizia. "Trans Bodies and Gender Fluid Fatherhood in Contemporary Japanese Literature." In Gender Fluidity in Japanese Arts and Culture. Critical Essays, edited by Dean Conrad and Sayuri Hirano. McFarland Publishing, 2025.
Guarini, Letizia. "Dismantling the Family Ideology in Contemporary Japanese Literature: Hatred and Disgust in Three Family Stories by Kakuta Mitsuyo." In The Asian Family in Literature and Film: Changing Perceptions in a New Age-East Asia, Volume I, edited by Bernard Wilson and Sharifah Aishah Osman. Palgrave Macmillan, 2024.
グアリーニ・レティツィア「異国の共同体で居場所を見つける―須賀敦子の越境性をめぐって―」『昭和文学研究89号』（2025年）

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, we will discuss "Why Does K-Pop Attract Minorities? — Where Queer Identity and Idol Culture Intersect" edited by Yeon Haewon (trans. Kim Sei-young et al., Kawade shobo shinsha, 2024).
This course is designed to enhance students' understanding of the relationship between pop culture and queerness. Students will learn to analyze literary and cultural texts from the perspective of queer theory.
(Learning objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Understand concepts in cultural theory and queer theory.
2) Analyze representations of gender and sexuality issues in a wide range of media.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session). They are also expected to be prepared to deliver presentations in class.
（Grading Criteria /Policy）
The final grade will be decided based on the following:
Involvement during discussion and presentation: 60%
Final essay: 40%

CUA500G1 – 109（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

多文化相関論 II A

小川　敦

サブタイトル：多言語社会を考える

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多言語社会や移民社会における言語と教育や言語と格差についての文献を読み、考え、議論します。
ここでいう「多言語社会」とは、シンガポールやカナダのような複数の公用語が存在する国や社会だけを指すのではありません。母語（母方言）と標準語を使う場合、話し言葉と書き言葉が異なる場合、外国語として様々な言語を学ぶ場合も広く「多言語」として考え、広い視野で考えるようにしたいと思います。

【到達目標】
・複数の言語が用いられる社会にもさまざまな形があることを理解する。
・多言語社会における社会のありよう、とくに言葉と教育、社会の格差のありようについて理解し、自らの研究の糧とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業で扱う文献の候補を初回授業に提示します。受講生の希望によっては社会言語学の基本書を読むこともあります。
受講生は必ずレジュメを作って発表していただきます。
受講者が少ない場合、毎回発表という形式にはせず、課題としている論文等についてディスカッションポイントを受講者各人に提示していただき、議論を展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱う資料を選定し、担当者を決めます
第2回	授業テーマに関する文献講読-1	多言語社会に関する文献から1章を選び、発表をし、議論を行います。
第3回	授業テーマに関する文献講読-2	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第4回	授業テーマに関する文献講読-3	多言語社会に関する文献から前回と異なる1章を選び、発表をし、議論を行います。
第5回	授業テーマに関する文献講読-4	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第6回	授業テーマに関する文献講読-5	言語と教育に関する文献から1章を選び、発表をし、議論を行います。
第7回	授業テーマに関する文献講読-6	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第8回	授業テーマに関する文献講読-7	言語と教育に関する文献から前回とは異なる1章を選び、発表をし、議論を行います。
第9回	授業テーマに関する文献講読-8	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第10回	授業テーマに関する文献講読-9	言語と格差に関する文献から1章を選び、発表をし、議論を行います。
第11回	授業テーマに関する文献講読-10	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第12回	授業テーマに関する文献講読-11	言語と格差に関する文献から前回とは異なる1章を選び、発表をし、議論を行います。
第13回	授業テーマに関する文献講読-12	前回扱った章について、デュスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当する章や論文のレジュメを準備します。充実した議論にするため、他の受講生は次回扱われる章や論文をよく読んで自分なりのディスカッションポイントを考えてきてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。受講生の希望や関心を聞いた上で、授業で読む文献をいくつかの候補から選びます。 PDFまたは紙で配布します。

【参考書】
授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート50％、授業への積極的な参加50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の希望や意見に常に耳を傾け、授業の改善につとめます。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末があると便利です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会言語学、言語政策（主にドイツ語圏）
＜研究テーマ＞
多言語社会研究、移民社会の言語教育政策、ルクセンブルク研究
＜主要研究業績＞
小川敦（2025）「ルクセンブルクを代表する言語とは何か ―移民による社会の多言語化と国語としてのルクセンブルク語の位置づけ―」『ことばと社会』27号、21-44頁
小川敦（2022）「「ルクセンブルク語振興戦略」とその成立背景に関する一考察 」『エネルゲイア』47号、29-50頁
小川敦（2021）「多言語社会ルクセンブルクにおける言語イデオロギーの「対抗」」柿原武史・仲潔・布尾勝一郎・山下仁（編著）『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』（三元社）37-66頁
大澤麻里子・小川敦・境一三「イタリア・南チロルにおけるCLIL －ドイツ語系学校への導入を巡って－」『言語政策』16号、29-52頁

【Outline (in English)】
【Course outline】
The issues of language and education and language and inequality in multilingual and migrant societies will be the subject of discussion and debate.
【Learning Objectives】
Students will understand that there are various forms of societies in which more than one language is used.
Students will develop an understanding of the different forms of multilingual societies, particularly in relation to language, education and social inequalities.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final report 50%
Active participation 50%

CUA500G1 – 110（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

多文化相関論 II B

小川　敦

サブタイトル：多文化共生と言語政策を考える

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献を読みながら、国内外の事例を参考に、移民社会における言語と教育、格差、権利、言語政策について考え、議論します。
ここでいう「多言語社会」とは、シンガポールやカナダのような複数の公用語が存在する国や社会だけを指すのではありません。母語（母方言）と標準語を使う場合、話し言葉と書き言葉が異なる場合、外国語として様々な言語を学ぶ場合も広く「多言語」として考え、広い視野で考えるようにしたいと思います。

【到達目標】
・複数の言語が用いられる社会にもさまざまな形があることを理解する。
・言語に関する政策を体系的に理解する。
・多言語社会における社会のありよう、とくに言葉と教育、社会の格差のありようについて理解し、自らの研究の糧とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業で扱う文献の候補を初回授業に提示します。テーマはあまり変わりませんが、春学期からの連続で受講することも考慮して、春学期とは別の文献を扱います。
受講生は必ずレジュメを作って発表していただきます。
受講者が少ない場合、毎回発表という形式にはせず、課題としている論文等についてディスカッションポイントを受講者各人に提示していただき、議論を展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱う資料を選定し、担当者を決めます
第2回	授業テーマに関する文献講読-1	多言語社会と言語政策に関する文献から1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第3回	授業テーマに関する文献講読-2	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第4回	授業テーマに関する文献講読-3	多言語社会と言語政策に関する文献から前回までとは異なる1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第5回	授業テーマに関する文献講読-4	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第6回	授業テーマに関する文献講読-5	移民社会と言語に関する文献から1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第7回	授業テーマに関する文献講読-6	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第8回	授業テーマに関する文献講読-7	移民社会と言語に関する文献から前回までとは異なる1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第9回	授業テーマに関する文献講読-8	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第10回	授業テーマに関する文献講読-9	言語と人権に関する文献から1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第11回	授業テーマに関する文献講読-10	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第12回	授業テーマに関する文献講読-11	言語と人権に関する文献から前回までとは異なる1章を選び、発表してもらい、議論を行います。
第13回	授業テーマに関する文献講読-12	前回扱った章について、ディスカッションポイントを提示しあいながら、さらに議論を深めます。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当する章や論文のレジュメを準備します。充実した議論にするため、他の受講生は次回扱われる章や論文をよく読んで自分なりのディスカッションポイントを考えてきてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。受講生の希望や関心を聞いた上で、授業で読む文献をいくつかの候補から選びます。 PDF または紙で配布します。

【参考書】
授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート50％、授業への積極的な参加50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の希望や意見に常に耳を傾け、授業の改善につとめます。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末があると便利です。
春学期とは別の文献を扱いますので、継続しての受講、秋学期からの受講可です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会言語学、言語政策（主にドイツ語圏）
＜研究テーマ＞
多言語社会研究、移民社会の言語教育政策、ルクセンブルク研究
＜主要研究業績＞
小川敦（2025）「ルクセンブルクを代表する言語とは何か ―移民による社会の多言語化と国語としてのルクセンブルク語の位置づけ―」『ことばと社会』27号、21-44頁
小川敦（2022）「「ルクセンブルク語振興戦略」とその成立背景に関する一考察 」『エネルゲイア』47号、29-50頁
小川敦（2021）「多言語社会ルクセンブルクにおける言語イデオロギーの「対抗」」柿原武史・仲潔・布尾勝一郎・山下仁（編著）『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』（三元社）37-66頁
大澤麻里子・小川敦・境一三「イタリア・南チロルにおけるCLIL －ドイツ語系学校への導入を巡って－」『言語政策』16号、29-52頁

【Outline (in English)】
【Course outline】
The issues of language and education and language and inequality in multilingual and migrant societies will be the subject of discussion and debate.
【Learning Objectives】

-Students will understand that there are various forms of societies in which more than one language is used.
-Students will develop a systematic understanding of language-related policies.
-Students will develop an understanding of the different forms of multilingual societies, particularly in relation to language, education and social inequalities.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final report 50%
Active participation 50%

HIS500G1 – 111（史学 / History 500）

多文化相関論III

佐々木　一惠

サブタイトル：歴史学の諸アプローチ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、歴史学における方法論的展開の概要を理解することを目指します。また、歴史学の方法論に基づき研究論文を執筆していけるようになることを目的とします。
今年度は保苅実氏の『ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』を一緒に読んで議論していきます。
「異なる他者の営為を〈歴史実践〉と捉え、複数の声の共奏可能性を全身で信じ抜く――根源的多元性の前に立ちすくむ世界に、人文学という希望をもって対峙するための魅力的な仕掛けに満ちた畢生の名著、ついに復刊！　(解説=本橋哲也)」岩波書店の案内より

【到達目標】
１．歴史学におけるこれまでの方法論的特徴とその展開について理解できるようになる。
２．歴史学の方法論に基づき一次史料を用いて研究論文を書いていけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、発表者が文献に関する説明をレジュメに沿って行うと共に、教員が必要に応じて補足説明を行う。授業の後半では、文献をベースにディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	授業概要の説明
2回	ケネディ大統領はアボリジニに出会ったか―幻のブック・ラウンチ会場より①	第１章の前半を読み議論します。
3回	ケネディ大統領はアボリジニに出会ったか―幻のブック・ラウンチ会場より②	第１章の後半を読み議論します。
4回	歴史をメンテナンスする―歴史する身体と場所①	第２章の前半を読み議論します。
5回	歴史をメンテナンスする―歴史する身体と場所②	第２章の後半を読み議論します。
6回	キャプテン・クックについて―ホブルス・ダナイヤリの植民地史分析①	第３章の前半を読み議論します。
7回	キャプテン・クックについて―ホブルス・ダナイヤリの植民地史分析②	第３章の後半を読み議論します。
8回	植民地主義の場所的倫理学―ジミー・マンガヤリの植民地史分析①	第４章の前半を読み議論します。
9回	植民地主義の場所的倫理学―ジミー・マンガヤリの植民地史分析②	第４章の後半を読み議論します。
10回	ジャッキー・バンダマラ―白人の起源を検討する①	第５章の前半を読み議論します。
11回	ジャッキー・バンダマラ―白人の起源を検討する②	第５章の後半を読み議論します。
12回	歴史の限界とその向こう側の歴史―歴史の再魔術化へ①	第７章の前半を読み議論します。
13回	歴史の限界とその向こう側の歴史―歴史の再魔術化へ②	第７章の後半を読み議論します。
14回	まとめ	あとがきを参照しつつ、総括の議論をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献を読み、自分が関心を持った概念や内容について、意見をまとめてGoogle Classroomに授業が始まる1時間前までにアップロードしてください。
・文献の発表者はレジュメをパワー・ポイントで作成してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
保苅実氏『ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』（岩波現代文庫、2018年）。

【参考書】
長谷川貴彦『エゴ・ドキュメントの歴史学』（岩波書店、2020年）。
槇原茂編『個人の語りがひらく歴史：ナラティヴ/エゴ・ドキュメント/シティズンシップ』（ミネルヴァ書房、2014年）。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度・参加度（50点）、提出物（50点）で、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
この授業ではGoogle Classroomを使用します。初回の授業の後に、Google Classroomへの登録をお願いします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
アメリカ合衆国史 思想史　ジェンダー
＜研究テーマ＞
・アメリカ革新主義思想の宗教・ジェンダー・セクシュアリティからの再考
・２０世紀転換期アメリカにおける個人主義・リベラリズム・資本主義に抗する信仰運動としての米国聖公会のアングロ・カトリシズム
＜主要研究業績＞
○「『神に奉献した生』とプロテスタントの女性主体 ―19 世紀後半のアメリカにおける聖マリア修女会の実践から―」『異文化』24号、2023年。
○「善き生の回復を求めてーラルフ・アダムズ・クラムの教会建築論に見る革新主義期アメリカに抗するアングロ・カトリシズムの想像力(イマジェリー)」『年報アメリカ研究』第56号、2022年。
○「プロテスタンティズムの倫理と革新主義期アメリカの精神―アングロ・カトリシズムの視点から見る生政治―」『異文化』23号、2022年。
○「聖十字架修女会の会員とセツルメント運動 ――生と活動の様式としてのアングロ・カトリシズム 」『ジェンダー史学』16号、2020年。
○「『第三者』性のポリティクスー19世紀末ニューヨークの聖公会員の社会改革運動と公共領域の再編 」『アメリカ史研究』42号、2019年。

○「ジェンダーからみるグローバル・ヒストリー ―女子教育とジャンヌ=ダルクの『普遍化』から」、上智大学アメリカ・カナダ研究所、イベロアメリカ研究所、ヨーロッパ研究所共編『グローバル・ヒストリーズーナショナルを超えて』上智大学出版社、２０１８年。
○ Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Ithaca, NY: Cornel University Press, 2016).
○ “Excludable Aliens vs. One National People: The U.S. Chinese Exclusion Policy and the Racialization of Chinese in the United States and China,” The Japanese Journal of American Studies (no.23, 2012).

【Outline (in English)】
The course introduces basic historiographical issues in the discipline of history. Students are expected to develop the ability to apply historical methods of inquiry to the analysis of their Master's theses/Research papers.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the methodological developments in the discipline of modern history and 2) write research papers based on historical methodology using primary sources.
Students will be expected to read assigned materials and upload one-page summary of the assigned text and the points of interest to Google Classroom before class begins. Presenters of assigned materials should prepare presentations in PowerPoint format.
The final grade is determined by presentations (50%) and assignments (50%).

ART500G1 – 114（芸術学 / Art studies 500）

多文化芸術論ＩＡ

佐藤　千登勢

サブタイトル：映画を読む

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、芸術テクストを審美的快楽の体験の場としてのみならず、社会批判の装置として捉え直し、その表現、表象の語る多義性と重層性について考え、議論します。ロシア（ソ連）、チェコ（チェコスロバキア）、ポーランドの映画作品を対象とし、それぞれの国々の社会、経済、文化、歴史、国家間の勢力均衡を解読する作業を通して、多義的記号体系を分析・洞察する力を養います。さらに受講生は、それぞれの専門分野の観点から映画作品を分析することで、学際的手法への視野を拡大することも可能となります。

【到達目標】
　映画作品を中心に、芸術言語が担う審美的機能と社会批判の機能という一見相反する多義的な表現の読解を重ねることで、これを自身の見解や思考の組み立て方に役立てて、論理的に議論やプレゼンテーションを展開する力を獲得することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　旧社会主義国家で創造された芸術テクストは、その国の文化や社会構造、イデオロギー、歴史的背景、国家間の関係を濃厚に映し出す、いわば、体制と人間社会の縮図モデルです。しかし、多義的で重層的な言語（映画言語、音楽言語を含む）により、それは、多様な解釈を許容するとともに、作者の真の意図やメッセージを解読すべき錯綜した迷宮のような作品となっていることも少なくありません。私たちは、手法や表象、形式といった審美的観点に着目すると同時に、《抑圧》《イデオロギーによる民族統合》《民族差別》《冷戦》《ソ連邦崩壊と離散》《ナショナリズム》といった社会学的・歴史的キーワードを基に、二重構造の芸術テクストを分析・批評していきます。授業でなされた議論や自身の見解をA4一枚程度にまとめたリアクションペーパーを毎回、提出してもらいます。リアクションペーパーは、次週の授業にてコメントを加えるか、あるいはコメントを加えたものを学習支援システムで返却するかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	芸術の機能について - - シクロフスキーの《異化》の発見から日常批判へ（1）	ロシア・フォルマリズム宣言としても名高いシクロフスキーの『手法としての芸術』を基に、「異化- 自動化」「日常- 非日常」「手法ー素材」等の二項対立の芸術上の、また日常における意義を考える。
第2回	芸術の機能について - - シクロフスキーの《異化》の発見から日常批判へ（2）	ロシア・フォルマリズムの主導者シクロフスキーが提唱した「異化」の概念について具体例を確認しつつ、理解を深める。
第3回	煽動と挑発- - モンタージュ派：エイゼンシテイン	エイゼンシテイン『戦艦ポチョムキン』、『十月』の煽動的なモンタージュについて概説。
第4回	煽動と挑発- - モンタージュ派：ジガ・ヴェルトフ	都市化と複製技術の発達を背景としたヴェルトフの手法としてのモンタージュについて考察。
第5回	プロパガンダ- - プドフキンの映画言語『アジアの嵐』	プドフキン『アジアの嵐』における多様なモンタージュを分析して審美的側面を確認しながら、同時にこの作品が呈示する多民族併合や社会主義革命の正当化という多層的テーマを読む。
第6回	プロパガンダ- - トゥーリンの映画言語『トゥルクシブ』	プロパガンダ的煽動性の記号や表象を現前化させずに、宗教的煽動とも言える超越的力の存在と崇高さの創出、サブリミナル的手法によるプロパガンダの力を分析していく。
第7回	面従腹背の二重構造 - - エイゼンシテイン『イワン雷帝』	エイゼンシテインの世界的影響力を配下におくためにスターリンが制作依頼した『イワン雷帝』。この作品にはスターリンを批判・揶揄する記号や表象、表現が構造化されている。作品をめぐってのスターリンとエイゼンシテインとの闘争という背景も交えつつ、概説。
第8回	銃後の女性から描く反戦	雪解け期を象徴する『鶴は翔んでゆく』（ミハイル・カラトーゾフ）。スターリン時代には禁忌であった反戦思想の描き方を見る。
第9回	面従腹背の二重構造 - - アンジェイ・ワイダの映画言語	ポーランドがソ連の衛星国であった時代、当局の批判やソ連軍の糾弾は不可能であった。そこで、ワイダがポーランド国民に向けたメッセージの二重構造とはいかなるものだったか、映画テクストにおける表象や象徴の解釈の多様性、ならびに共通のコードについて考える。『灰とダイヤモンド』を扱う。
第10回	抵抗と挑発- - ヴェラ・ヒティロヴァの映画言語	旧チェコスロバキアの統制から自由になろうとする国民の意志を、二人の自由闊達な少女たちを通してスタイリッシュに描出するセンス、そして映画言語の二重性、台詞と映像の不一致や台詞の重みについて考察。
第11回	審美的「イソップ言語」–セルゲイ・パラジャーノフの映画言語	「目で飲む映画」と評されるほどに美的なパラジャーノフ作品に、寓意による体制批判を見る：『ざくろの色』を中心に。
第12回	審美的挑発–アンドレイ・タルコフスキーの映画言語	「償いようもない負い目の感情」「永遠の憐憫の情」と「母胎回帰」について：『惑星ソラリス』を中心に。
第13回	寓話的諷刺と不条理 - - カレン・シャフナザーロフ『ゼロ・シティ』	ソ連社会を幾重にもパロディ化した不条理作品の珠玉『ゼロ・シティ』を基に、終末期のソ連の表象、シャフナザーロフの映画言語を考察する。また、父親（国家）とは何か？　について考える。
第14回	寓話的諷刺と不条理 - - テンギズ・アブラゼ『懺悔』	ソ連で社会現象となった映画『懺悔』。スターリンとヒトラーを融合させたような支配者、彼に両親を粛清された少女。支配者の一族のその後の償いの物語は、史実とシュールな感覚やユーモアを交えて表現される。その寓話性に着目しつつ、史実、記憶、不条理について考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　レジュメの内容や視聴した映像資料に対する自身の見解をA4一枚（800字程度）にまとめたリアクションペーパーを次週回の前日（木曜の正午）までに提出する（学習支援システムを利用）。リアクションペーパー作成に要する時間は1.5時間程度。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。教員の作成した資料を、教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
参考書は使用しませんが、参考文献は、随時、レジュメに掲載します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、リアクションペーパー（50％）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60％以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して資料配付、課題提示を行うことがありますので、ネットの通信環境を整えておいてください。

【担当教員の専門分野等】
20世紀ロシア文学。ロシア・フォルマリズムを中心とした芸術理論。ソ連およびロシア、中東欧の映画。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/23/0002283/profile.html

【Outline (in English)】
●Course outline
We consider artistic texts not only as a place for experiencing aesthetic pleasures but also as a device of social criticism, and discuss the polysemy and multiplicity of their expressions and representations.
●Learning Objectives
The aim is to acquire the ability to logically develop discussions and presentations by repeatedly watching movie works and using them to formulate one's own views and thoughts.
●Learning activities outside of classroom
After each class meeting, you will be expected to submit a reaction paper that summarizes your own views on the video materials you watched by the next week. It takes about 1 hour to create the reaction paper.
●Grading Criteria/ Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50％) and short reports(50％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ART500G1 – 115（芸術学 / Art studies 500）

多文化芸術論ＩＢ

佐藤　千登勢

サブタイトル：映画を読む

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20206年度の新設科目で、「多文化芸術論ＩA」に続くものです。
映画作品を、審美的快楽の体験の場としてのみならず、社会批判の装置としても捉え直し、その表現や表象が語る多義性・重層性について考察し、議論していく点は春学期と同様です。
東欧民主化革命およびソ連邦崩壊を大きな転換期と位置づけ、それ以降のロシア、チェコ、ポーランド、ハンガリー、エストニアの映画作品を対象とします。各国の社会・経済・文化的背景や時代状況を踏まえつつ、映画の多義的な記号体系を分析・洞察する力を養います。さらに受講生は、それぞれの専門分野の観点から映画作品を分析することで、学際的手法への視野を拡大することも可能となります。

【到達目標】
映画作品を中心に、芸術言語が担う審美的機能と社会批判の機能という一見相反する多義的な表現の読解を重ねることで、これを自身の見解や思考の組み立て方に役立てて、論理的に議論やプレゼンテーションを展開する力を獲得することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
旧社会主義国家で創造された芸術テクストは、その国の文化や社会構造、イデオロギー、歴史的背景、国家間の関係を濃厚に映し出す、いわば、体制と人間社会の縮図モデルです。しかし、多義的で重層的な言語（映画言語、音楽言語を含む）により、それは、多様な解釈を許容するとともに、作者の真の意図やメッセージを解読すべき錯綜した迷宮のような作品となっていることも少なくありません。私たちは、手法や表象、形式といった審美的観点に着目すると同時に、《抑圧》《イデオロギーによる民族統合》《冷戦とその後》《ソ連邦崩壊と離散》《ナショナリズム》《マイノリティ》《ジェンダー》といったキーワードを基に、二重構造の芸術テクストを分析・批評していきます。授業でなされた議論や自身の見解をA4一枚（800字程度）にまとめたリアクションペーパーを毎回、提出してもらいます。リアクションペーパーは、次週の授業にてコメントを加えるかたちで、あるいはコメントを加えたものを学習支援システムで返却するかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国家の表象、あるいは「父殺し」の物語１- - パーヴェル・チュフライ『パパって何？』	ソ連崩壊後のロシア国民のメンタリティを、《父》に裏切られた「息子」の回想に重ね合わせた寓話的手法とその重みについて。《父殺し》の伝統についても考察。
第2回	国家の表象、あるいは「父殺し」の物語２- - バフティヤル・フドイナザーロフ『ルナ・パパ』	「父を探す旅」の変型物語をソ連邦崩壊の寓話として解読する試み。
第3回	国家の表象、あるいは「父殺し」の物語３- - アンドレイ・ズビャギンツェフ『父、帰る』	ソ連邦と新生ロシア、キリストと使徒の家父長的構図と一家族の物語について。
第4回	国家の表象、あるいは「父殺し」の物語４- - パールフィ・ジョルジ『タクシデルミア』	親子三代の物語を国の歴史の寓話として考察する。
第5回	国家の表象５- - イジー・メンツェル『英国王給仕人に乾杯！』	時代に翻弄される主人公ヤンが象徴するものを指標としてチェコスロバキアの歴史をみる。
第6回	国家の表象６–サース・ヤーノシュ『悪童日記』	双子の決断と運命が示唆するハンガリーとオーストリアの国境について考える。
第7回	国家と個人–パヴェウ・パヴリコフスキ『Cold War』	ノスタルジーとして歴史を描く危うさについて。
第8回	時代と個人–『私、オルガ・ヘプナロヴァー』	マイノリティの諸相を考察すると同時にルサンチマンについて再考する。
第9回	現代社会と宗教–『きみはひとりじゃない』	「生きづらさ」を抱える現代人の諸相について。カトリックに対置されるスピリチュアリズムが象徴するものについて。
第10回	現代社会の移民–『ゆれる人魚』	移民や性的マイノリティら「他者」の表象について。他者の問題を描くエンターテインメントの可能性。
第11回	現代社会の「生きづらさ」：『心と体と』	「生きづらさ」を抱える人々の諸相について。食肉工場が象徴するものを考える。
第12回	ナショナリズムの表象–『ノベンバー』	エストニアの伝承、死生観の表象にみるナショナリズムと現代におけるその意義。
第13回	体制と個人–『親愛なる同志たちへ』	国家の過去の過ちを現代からいかに問い直し、描くか。その可能性を考える。
第14回	ソ連からの解放–『ファイアバード』	エストニアでの同性婚法制化を後押ししたと言われる作品。政治を動かす映画の力について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメの内容や視聴した映像資料に対する自身の見解をA4一枚程度にまとめたリアクションペーパーを次週回の前日（木曜の正午）までに提出してもらいます（学習支援システムを利用）。リアクションペーパー作成に要する時間は1.5時間程度。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。教員の作成した資料を、教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
参考書は使用しませんが、参考文献は、随時、レジュメに掲載します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、リアクションペーパー（50％）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60％以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
新設科目のため、学生からのフィードバックはまだ得られていません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して資料配付、課題提示を行いますので、ネットの通信環境を整えておいてください。

【担当教員の専門分野等】
20世紀ロシア文学。ロシア・フォルマリズムを中心とした芸術理論。ソ連およびロシア、中東欧の映画。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/23/0002283/profile.html

【Outline (in English)】

●Course outline

We consider artistic texts not only as a place for experiencing aesthetic pleasures but also as a device of social criticism, and discuss the polysemy and multiplicity of their expressions and representations.

●Learning Objectives

The aim is to acquire the ability to logically develop discussions and presentations by repeatedly watching movie works and using them to formulate one's own views and thoughts.

●Learning activities outside of classroom

After each class meeting, you will be expected to submit a reaction paper that summarizes your own views on the video materials you watched by the next week. It takes about 1 hour to create the reaction paper.

●Grading Criteria/ Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50％) and short reports(50％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ART500G1 – 113（芸術学 / Art studies 500）

多文化芸術論 II

廣松　勲

サブタイトル：フランコフォニー文学と社会

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　複数文化に広がる社会文化的現象を分析するために、この授業では「カナダ・ケベック州」と「カリブ海域諸島のフランス海外県」という、2つの「フランス語圏（フランコフォニー）」に注目する。いずれの地域もアメリカ大陸の一部であり、「英語圏（アングロフォニー）」とも密接に関わる地域でもある。
　これらの地域の芸術は、作品の形式に集中した「内在分析」だけではとらえ切れない豊饒な問題系を抱えている。そのため、文学・映画テクストに「社会学的なテクスト分析」を施すことで、テクストとコンテクストとの繋がりを、各地域の作品をもとに分析する。
　このような具体的な作品分析を行うため、事前に各地域の社会文化的・言語学的状況を紹介することになる。

【到達目標】
　この授業では、複数の言語・文化が併存する地域において生産される芸術作品（主に文学と映画）を分析対象として、いかに社会文化的現象が芸術作品に書き込まれるのかを検討する。
　とりわけ、英語文化とフランス語文化が併存する「カナダ・ケベック州」、そしてフランス語文化とクレオール語文化が併存する「カリブ海域諸島」を分析対象にしつつ、学生には文学・映画テクストの「社会学的なテクスト分析」の方法を身に付けてもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　日本語による講義を行う。受講者は関心のあるテーマまたは作品について調査・分析を行い、それを基にした期末レポートを提出してもらう。
　なお、期末レポートについては、フランスまたはフランス語圏に少しでも関連するならば、自らの研究テーマに即した発表を行うこともできる（比較分析など）。
　さらに、毎回の授業においてコメントシートを提出してもらうことで、学生の理解度・考えなどを把握しておきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：フランス語圏とは何か？	「フランコフォニー」や「アングロフォニー」の歴史・地理
第2回	カリブ海域諸島のフランス語圏①	カリブ海域諸島の社会文化的・言語学的状況
第3回	カリブ海域諸島のフランス語圏②	エメ・セゼールの長編詩『帰郷ノート』
第4回	カリブ海域諸島のフランス語圏③	エドゥアール・グリッサンの小説『レザルド川』
第5回	カリブ海域諸島のフランス語圏④	パトリック・シャモワゾーの小説『素晴らしきソリボ』
第6回	カリブ海域諸島のフランス語圏⑤	カリブ海域諸島の思想
第7回	カリブ海域諸島のフランス語圏⑥	カリブ海域諸島の映画：『マルチニックの少年』
第8回	カナダ・ケベック州のフランス語圏①	カナダ・ケベック州の社会文化的・言語学的状況
第9回	カナダ・ケベック州のフランス語圏②	ジャック・ゴドブーの小説『やぁ、ガラルノー！』
第10回	カナダ・ケベック州のフランス語圏③	エミール・オリヴィエの小説『パッサージュ』（邦訳なし）
第11回	カナダ・ケベック州のフランス語圏④	ダニー・ラフェリエールの小説『吾輩は日本作家である』
第12回	カナダ・ケベック州のフランス語圏⑤	カナダ・ケベック州の思想
第13回	カリブ海域諸島からケベック州へ	カリブ海域とケベック州とのつながり：セゼールのドキュメンタリ－を介して
第14回	総括	社会と芸術とのつながり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本講義で扱う文学作品については、一作を除いて、ほぼ全て邦訳が存在する。受講生には、できるだけ翻訳文献にも触れてほしい。
・授業で扱うアメリカ大陸のフランス語圏については、それぞれ自分自身でも社会状況などを事前に調べておいて欲しい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・毎回資料を配布します。

【参考書】
・平野千香子著『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002年.
・鳥羽美鈴著『多様性のなかのフランス語』関西学院大学出版会，2012年.
・秋田茂著『イギリス帝国の歴史』中公新書，2012年.
・井野瀬久美惠著『興亡の世界史 大英帝国という経験』講談社学術文庫, 2017年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
　①平常点（コメントシートなど）：30%
　②期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】
・講義科目ではあるが、できるだけ学生が自らの考え・反応などを講義中に述べられるような雰囲気づくりに努めたい。
・内容について、学生の関心に合わせて調整する必要があるため、学生とよく相談したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞フランコフォニー文学
＜研究テーマ＞ 脱植民地化以後のメランコリー、トランスカルチャ－等
＜主要研究業績＞ "Mélancolie postcoloniale : relecture de la mémoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Patrick Chamoiseau et Émile Ollivier"（モントリオール大学提出博士論文）

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of literature of French speaking world (especially in the Americas) to students taking this course. They can learn also the methodology of literary research while reading literary text and social context at the same time.
The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of francophone literature.
Before and after each class meeting　students will be expected to spend four hours reading the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%, term-end report: 70%.

POL500G1 – 114（政治学 / Politics 500）

異文化社会論ＩＡ

今泉　裕美子

サブタイトル：オーラル・ヒストリーからのアプローチ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植民地社会（植民地的な状況にある社会も含む）を、異なる文化をもつ人及びその集団同士の関係、移動によって形成される地域として捉え、それらが国際関係をいかに構成し、変化させているのかを学ぶ。
本年度は、人びとの植民地経験をオーラル・ヒストリーからアプローチする方法について学ぶ。
オーラル・ヒストリーは今や、さまざまな専門分野で当たり前のように用いられるようになり、これを収集する手法に関する表現は、インタビュー、聞き（聴き）取り、聞き（聴き）書き、質的調査など多様である。これらの表現は、専門分野における方法論や手法の違いを示すものであるが、近年は、学際的な取り組みのなかで、オーラル・ヒストリー研究としての発展もある。
そこで本授業では、吉沢南（1943 – 2001）のベトナム戦争に関する著作をテキストに、植民地社会（脱植民地化のプロセスも含む）の経験を、オーラル・ヒストリーの方法や内容とともに、吉沢の以下のような研究方法からも学ぶ。すなわち、吉沢は研究する対象が、研究者が生きてきた時代と重なり合う「同時代史」を提唱し、研究対象を国際関係のなかで特徴づけながら、個人や人の集団の「行為」、「経験」、「記憶」の分析、フィールドワークの方法、歴史研究とジャーナリズムの関係、を追究してきた。また、吉沢のベトナム戦争に関する分析（例えば、米国の第三世界政策と軍事戦略、日本の植民地支配との関係、ゲリラ戦争、多様な背景をもつ兵士、化学兵器、PTSD、日本本土や沖縄の米軍基地の役割、ベトナム反戦運動、など）を、現代国際関係への理解につなげる。
歴史研究を専門としない受講生、ベトナムが専門ではない／関心がない受講生も歓迎する。

【到達目標】
１．植民地社会を人および人の集団の移動、運動、くらし、経験などから考察し、これに必要な基本的な概念、理論、思想について理解できる。
２．植民地支配体制と植民地社会の相互の連関、この連関から国際関係の動態を把握し、植民地支配が過去にもたらした／形を変えて今なお再生産される問題を、諸地域の人びとの取り組みから理解し、解決への手がかりを見出すことができる。
３．自身とは異なる研究テーマや研究方法を、自らの研究テーマに引き付けて考えたり、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．報告者は割り当てられたテキストあるいは資料を要約し、ディスカッションのための論点を2つ以上提示、報告者以外は、質問やコメントを準備する。ディスカッションを行うことを基本とするが、必要に応じて講義を行う場合もある。
２．本授業に関連する国内外の情勢、受講生の理解度、関心に応じて授業計画を一部変更することがある。
３．対面で行うことを原則とするが、オンラインで実施する回がある可能性がある（【その他の注意事項】を確認して下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要説明。受講生の関心を聞く。
2	テキスト①	テキスト①から選んだ論文について、論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
3	テキスト①	テキスト①から選んだ論文について、論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
4	テキスト②-はじめに、1章	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
5	テキスト②－2章	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
6	テキスト②－3章	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
7	テキスト②ー4章	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
8	テキスト②ーおわりに	テキスト②の総括とオーラル・ヒストリーの方法について学ぶ。
9	中間総括	第8回までの授業の総括、史料とオーラル・ヒストリーの関係及び調査方法、フィールドワーク、同時代史について学ぶ。
10	テキスト④ー「はじめに」、第2章「虚偽」「アメリカ化1965年」	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
11	テキスト④ー第2章「「北爆」下」、第3章「北の戦場」	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
12	テキスト④ー第3章「南の戦場」	テキストの論旨の要約と論点提示、学術用語・学術的表現、歴史事項を確認し、ディスカッションする。
13	テキスト④ー「おわりにかえて」と④の総括	テキスト④の総括とオーラル・ヒストリーの方法について学ぶ。
14	授業の総括	オーラルヒストリー、フィールドワーク、同時代史に関する学びを、本授業の到達目標に即して総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間を標準とする。準備としては、報告者は割り当てられたテキストあるいは資料を要約し、ディスカッションのための論点を2つ以上提示、報告者以外は、質問やコメントを準備する。復習としては、授業時のディスカッションや教員からのコメントを整理し、自身の学びをまとめて、次の授業内容につなげる作業を行う。

【テキスト（教科書）】
本授業の目的、内容に即して受講生の希望を聞きながらリスト以外の文献からも選ぶこともある。
①吉沢南『同時代史としてのベトナム戦争』有志社、2010年。
②吉沢南『私たちの中のアジアの戦争: 仏領インドシナの「日本人」』有志舎、2010年（初版は朝日新聞社より1986年）。

③『シリーズ中国にとっての20世紀海を渡る“土兵”、空を飛ぶ義和団―民衆文化と帝国主義』青木書店、2010年。（受講生の関心に即して使用する）
④吉沢南『ベトナム戦争－民衆にとっての戦場』吉川公文館、1999年。

【参考書】
とりあえず以下を提示するが、随時追加する。
a)歴史学研究会編『事実の検証とオーラル・ヒストリー』歴史学研究会、1988年。
b）法政大学大原社会問題研究所編『人文・社会科学研究とオーラル・ヒストリー』お茶の水書房、2009年。
c）御厨貴『オーラル・ヒストリーに何ができるか―作り方から使い方まで』岩波書店、2019年。
d）日本オーラル・ヒストリー学会編『日本オーラル・ヒストリー研究』Vol.19、2023年。
e）歴史科学協議会編『歴史評論　特集／オーラル・ヒストリーがひらく世界』第892号、2024年8月号。

【成績評価の方法と基準】
授業での討論、参加度など30％、報告30％、レポートなどの提出物40％を総合し、60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業では、パソコンかタブレットを用い、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。

【その他の重要事項】
Hoppiiはこまめにチェックすること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際関係学、日本・ミクロネシア関係史、植民地研究、ミクロネシア研究、沖縄研究、移民研究
＜研究テーマ＞日本の南洋群島統治、日本本土、沖縄、日本の旧植民地地域・占領地からの「南洋移民」及び戦時動員・引揚げ・引揚げ後の各地域での戦後史。委任統治と信託統治。第二次世界大戦後のミクロネシアの脱植民地化及び地域協力。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course approaches colonial societies — including the societies in the process of decolonization — as regions shaped by the relationships and movements of individuals and groups with different cultures. Students will study how these societies contribute to the formation and transformation of international relations.
This year, we will focus on colonial experiences depicted through oral history.
Oral history is now widely used across various academic disciplines, and the terms for collecting such histories are diverse. These expressions reflect methodological differences among fields, but recently, oral history research has also developed through interdisciplinary efforts.
Then we will read Minami Yoshizawa's (1943－ 2001) writings on the Vietnam War to explore the experiences of colonial societies, including the process of decolonization, through both the methods and content of oral history, as well as Yoshizawa's unique research approaches.
Yoshizawa advocated for “contemporary history,” where the subject of study overlaps with the era lived by the researcher. He characterized his subjects within the context of international relations and analyzed individual and group actions, experiences, and memories, as well as fieldwork methods and the relationship between historical research and journalism. In addition, Yoshizawa's analysis of the Vietnam War（ex. U.S. Third World policy and military strategy, Japan's colonial rule, guerrilla war, soldiers from diverse backgrounds, chemical weapons, PTSD, the roles of U.S. bases in mainland Japan and Okinawa, the anti-war movement in Vietnam, and so on）will help our deep understanding of current international relations.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
①Understand as an actor to develop and change international relations.
② Analyze the issues of colonial societies in the evolution of international relations with understanding of relevant concepts, theories, and thought.
③Relate research topics and methods different from their own to their own research themes and apply them.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this course are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and contribution:30%; Presentation :30 %; Essay and feedback:40%.
Students are required to take more than 60% score in total to pass.

POL500G1 – 115（政治学 / Politics 500）

異文化社会論ⅠB

今泉　裕美子

サブタイトル：文化からアプローチする人の移動・地域・国際関係

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる文化をもつ人及びその集団同士の関係、移動によって形成される社会を「地域」として捉え、国際関係の展開との関連、人びとのくらしや労働が織りなす文化から理解する。
本年度は、日本ーオセアニアー東南アジアー中国をめぐる人の移動や地域社会の歴史を、ナマコ（海鼠）文化からアプローチしたテキストを読んだうえで、その学びを深めるため、受講者の関心に即したテキストを選ぶ。

【到達目標】
1.地域社会を人の移動、諸運動、くらし、労働などから特徴づけ、また文化の側面から考察するために必要な概念、理論を理解し、分析に用いることができる。
2.国際関係と地域社会の相互の関係を歴史的文脈のなかで把握する。
3.テキストを的確に理解することができる。
4.史資料を批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１．毎回報告者を決め、割り当てられたテキストあるいは資料に関する報告、報告者以外は、質問やコメントを準備し、ディスカッションを行うことを基本とする。必要に応じて講義を行う場合もある。
２．本授業に関連する国内外の情勢、受講生の理解度、関心に応じて授業計画を一部変更することがある。
３．対面で行うことを原則とするが、オンラインで実施する回がある可能性がある（【その他の注意事項】を確認して下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容と進め方、注意事項の確認。本授業について受講生の関心を聞く。
2	テキスト『ナマコの眼』第1部太平洋の島々	第1部の前半のブックレポートとディスカッション。
3	テキスト『ナマコの眼』第1部太平洋の島々	第1部の後半のブックレポートとディスカッション。
4	テキスト『ナマコの眼』第2部アボジリニーの浜辺	第2部の前半のブックレポートとディスカッション。
5	テキスト『ナマコの眼』第2部アボジリニーの浜辺	第2部の後半のブックレポートとディスカッション。
6	テキスト『ナマコの眼』第3部＜東インド諸島＞の人びと	第3部の前半のブックレポートとディスカッション。
7	テキスト『ナマコの眼』第3部＜東インド諸島＞の人びと	第3部の後半のブックレポートとディスカッション。
8	中間のまとめ	ここまでの授業の論点を整理し、後半の授業につなげる。
9	受講生の関心に即したテキスト①を読む	テキストのブックレポートとディスカッション。
10	受講生の関心に即したテキスト②を読む	テキストのブックレポートとディスカッション。
11	受講生の関心に即したテキスト③を読む	テキストのブックレポートとディスカッション。
12	受講生の関心に即したテキスト④を読む	テキストのブックレポートとディスカッション。
13	第9回から12回の総括	論点の整理と総括。
14	本授業の総括	【到達目標】に照らしてながら総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間を標準とする。準備としては、報告者は割り当てられたテキストあるいは資料を要約し、ディスカッションのための論点を2つ以上提示、報告者以外は、質問やコメントを準備する。復習としては、授業時のディスカッションや教員からのコメントを整理し、自身の学びをまとめて、次の授業内容につなげる作業を行う。

【テキスト（教科書）】
鶴見良行『ナマコの眼』筑摩書房、1990年（文庫版は1993年）。
その他、受講生の研究テーマや関心に即して選ぶ。映像を用いる場合もある。

【参考書】
・埼玉大学共生社会研究センター編『歩く学問ナマコの思想』コモンズ、2005年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業での討論、参加度など30％、報告30％、レポートなどの提出物40％を総合し、60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
・オンライン授業では、パソコンかタブレットを用い、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。

【その他の重要事項】
・Hoppiiはこまめにチェックすること。本科目からの通知をONにしておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際関係学、日本・ミクロネシア関係史、植民地研究、ミクロネシア研究、沖縄研究、移民研究
＜研究テーマ＞日本の南洋群島統治、日本本土、沖縄、日本の旧植民地地域・占領地からの「南洋移民」及び戦時動員・引揚げ・引揚げ後の各地域での戦後史。委任統治と信託統治。第二次世界大戦後のミクロネシアの脱植民地化及び地域協力。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course examines societies influenced by the interactions and movements of individuals from diverse cultural backgrounds, and analyzes these dynamics in relation to the development of international relations.
This year, students will read a text that approaches the history of people's movement among Japan, Oceania, Southeast Asia, and China from the perspective of "namako" (sea cucumber) culture. After reading this text, students will select the other texts according to their interests to deepen their learning.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
1. Understand and apply the concepts and theories.
2.Grasp the mutual relationship between international relations and local communities within a historical context.
3.Accurately comprehend texts.
4. Critically analyze information and documents in historical context.
【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this course are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and contribution:30%; Presentation :30 %; Essay and feedback:40%.
Students are required to take more than 60% score in total to pass.

PSY500G1 – 116（心理学 / Psychology 500）

異文化社会論 II A

浅川　希洋志

サブタイトル：文化はどのように人の心を形成するのか

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会で生きるとき、私たちは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、私たちは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。
本授業では、文化心理学や心理人類学に関わる文献（特に、河合隼雄著『日本文化のゆくえ』、東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』、斎藤環著『ひきこもり文化論』等）を読み解きながら、心の働きと文化の関連性について学んでいく。

【到達目標】
心の働きと文化の関連性、特に家庭でのしつけや学校教育が子どもたちに何を期待し、そのような期待と文化の間にどのような関連があり、そのような期待を内在化した教育システムの中で、子どもたちがどのような心の働きを身につけていくのか、を理解する。また、私たちが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能（心の働き）がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式（文献の輪読）で行う。受講者による報告、討論を中心に進めるため、受講者の関心、授業の展開などによって授業計画の一部変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要を説明し、報告順を決定する。
2	河合隼雄『日本文化のゆくえ』第1章「『私』さがし」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
3	河合隼雄『日本文化のゆくえ』第7章「異文化体験の軌跡」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
4	東洋『日本人のしつけと教育』第1章「意欲の構造」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
5	東洋『日本人のしつけと教育』第2章「役割社会と受容的勤勉性」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
6	東洋『日本人のしつけと教育』第3章「内在モデルとしての『いい子』」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
7	東洋『日本人のしつけと教育』第4章「『気持ち』への関心」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
8	東洋『日本人のしつけと教育』第5章「滲み込み型のしつけと教育」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
9	東洋『日本人のしつけと教育』第6章「道徳意識と道徳判断」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
10	恒吉僚子『人間形成の日米比較』第1章「リサの疑問」、第2章「かくれたカリキュラム」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
11	恒吉僚子『人間形成の日米比較』第3章「集団の中の個人」、第4章「小さな選民たち」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
12	恒吉僚子『人間形成の日米比較』第5章「キング先生の戦い」、第6章「内なるアメリカ、内なる日本」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
13	『ひきこもり文化論』第4章「『甘え文化』と『ひきこもり』―比較文化的考察」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
14	授業の総括	授業のまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波書店、2000 年）
②東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）
③恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）
④斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016 年）
＊テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
「評価基準」：（1）授業で扱う文献の予習に裏付けられた討論（討論への参加）と（2）報告担当日の十分な下調べに基づくレジュメ作成と発表（担当日の発表）により、下記の配分で評価する。
「配分（%）」：討論への参加（50％）＋ 担当日の発表（50％）

【学生の意見等からの気づき】
受講生が自身の研究を発展させる上で、本授業で扱う内容がどのような視点をそれに与え得るのかを考えさせながら授業を展開していくことで、本授業が受講生にとって、より身近なものになるのではないかと考えている。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ポジティブ心理学、文化心理学
＜研究テーマ＞（1）フロー経験と心理的ウェルビーイングの関連性について、（2）文化と心理機能の関連性について、（3）フロー経験と生理指標の関連性について。
＜主要研究業績＞
『フロー理論の展開』世界思想社（2003 年）、「フロー経験の諸側面」島井哲志編『ポジティブ心理学： 21 世紀の心理学の可能性』ナカニシヤ出版（2006 年）、“Flow experience, culture, and well-being: How do autotelic Japanese college students feel, behave, and think in their daily lives?” Journal of Happiness Studies（2010 年）、『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造』学文社（2011 年）、「楽しさと最適発達の現象学―フロー理論」鹿毛雅治編『モティベーションを学ぶ12の理論』金剛出版（2012 年）、『クリエイティヴィティ』チクセントミハイ著 浅川希洋志監訳 世界思想社（2016 年）、"Universal and cultural dimensions of optimal experiences." Japanese Psychological Research（2016 年）、「持続的な幸福（マーティン・セリグマン）―ポジティブ心理学と感情」『臨床心理学』（第 20 巻第 3 号）金剛出版（2020 年）、「心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの」『心と社会』（第 53 巻第 2 号）日本精神衛生会（2022 年）、”Factor Associated with Flow in Fulfilling and Enjoyable Situations in Japanese." The European Conference on Positive Psychology 2024（学会発表、2024 年）、”Co-variability of Psychological Flow Intensity and Hear Rate during Startup Weekend, an Enterpreneurial Education Program." The 46th Annual Conference of the IEEE Engineering in Medicine &Biology Society（学会発表、2024 年）、"A Preliminary Study on Immersion Levels in Various Work Processes for Collaboration between Remote Operators and Semi-Autonomous Robots." The 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics（学会発表、2025 年）。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
In this seminar, students will explore issues related to culture and psychological functioning by reading more like anecdotal books and articles, and discuss how culture shapes psychological processes of people. Each student's own experiences they have had in different cultures will be welcomed to deepen class discussions.
(2) Learning Objectives
One of the main objectives of this seminar is to understand how educational practices in a culture are intended to bring up children as culturally desired and also expected adults through the educational process of the culture.
(3) Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on following:
In-class contribution (50%), Class-presentation (50%).

PSY500G1 – 117（心理学 / Psychology 500）

異文化社会論ⅡB

浅川　希洋志

サブタイトル：文化はどのように人の心を形成するのか

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化社会論ⅡAでは文化の違いから生じる教育システムの違いやそれによって培われる心のあり方に関する文献を読み、心の働きと文化の関連について考察していくが、本授業ではそのような「文化と心」にまつわる事象を文化心理学の枠組み、つまり文化心理学における理論として捉えなおすことを主たる目的とする。授業では、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』等をテキストとして用い、掘り下げた議論の必要なトピックスに関しては適宜、英語論文を含めた原著にあたっていく。また、授業全般を通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを考えていく。

【到達目標】
心の働きと文化の関連性を文化心理学の枠組みの中で捉えることができる。特に、Markus &Kitayama が提唱した文化的自己観のモデルに注目し、人々の持つ文化的自己観が彼らの認知、感情、モチベーションなどとどのように関連しているのかが理解できること。また、授業で扱ったトピックスを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかが理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式（文献の輪読）で行う。受講者による報告、討論を中心に進めるため、受講者の関心、授業の展開などによって授業計画の一部変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要を説明し、報告順を決定する。
2	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第1章「古代ギリシャ人と中国人は世界をどう捉えたか」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
3	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第2章「思考の違いが生まれた社会的背景」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
4	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第3章「西洋的な自己と東洋的な自己」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
5	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第4章「目に映る世界のかたち」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
6	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第5章「原因推測の研究から得られた証拠」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
7	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第6章「世界は名詞の集まりか、動詞の集まりか」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
8	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第7章「東洋人が論理を重視してこなかった理由」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
9	ニスベット『木を見る西洋人森を見る東洋人』第8章「思考の本質が世界共通でないとしたら」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
10	北山忍『自己と感情：文化心理学による問いかけ』第2章「自己」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
11	北山忍『自己と感情：文化心理学による問いかけ』第3章「感情」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
12	北山忍『自己と感情：文化心理学による問いかけ』第4章「欧米における自己高揚と日本における自己批判」を読む	学生報告にもとづき、クラス討論を行う。
13	ディスカッション	授業で扱った文化心理学的知見が、受講者の修士論文のテーマを発展させる上で、何らかの新しい視点を与え得るものだったかどうかを討論する。
14	授業の総括	授業のまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）
②リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）
＊テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】
増田貴彦著『ボスだけを見る欧米人みんなの顔まで見る日本人』（講談社＋α新書、2010年）。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「評価基準」：（1）授業で扱う文献の予習に裏付けられた討論（討論への参加）と（2）報告担当日の十分な下調べに基づくレジュメ作成と発表（担当日の発表）により、下記の配分で評価する。
「配分（%）」：討論への参加（50%）＋ 担当日の発表（50%）

【学生の意見等からの気づき】
受講生が自身の研究を発展させる上で、本授業で扱う内容がどのような視点をそれに与え得るのかを考えさせながら授業を展開していくことで、本授業が受講生にとって、より身近なものになるのではないかと考えている。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ポジティブ心理学、文化心理学
＜研究テーマ＞（1）フロー経験と心理的ウェルビーイングの関連性について、（2）文化と心理機能の関連性について、（3）フロー経験と生理指標の関連性について。
＜主要研究業績＞
『フロー理論の展開』世界思想社（2003年）、「フロー経験の諸側面」島井哲志編『ポジティブ心理学：21世紀の心理学の可能性』ナカニシヤ出版（2006年）、“Flow experience, culture, and well-being: How do autotelic Japanese college students feel, behave, and think in their daily lives?” Journal of Happiness Studies（2010年）、『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造』学文社（2011年）、「楽しさと最適発達の現象学―フロー理論」鹿毛雅治編『モティベーションを学ぶ12の理論』金剛出版（2012年）、『クリエイティヴィティ』チクセントミハイ著 浅川希洋志監訳 世界思想社（2016年）、"Universal and cultural dimensions of optimal experiences." Japanese Psychological Research（2016年）、「持続的な幸福（マーティン・セリグマン）―ポジティブ心理学と感情」『臨床心理学』（第20巻第3号）金剛出版（2020年）、「心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの」『心と社会』（第53巻第2号）日本精神衛生会（2022年）、”Factor Associated with Flow in Fulfilling and Enjoyable Situations in Japanese." The European Conference on Positive Psychology 2024（学会発表、2024年）、”Co-variability of Psychological Flow Intensity and Hear Rate during Startup Weekend, an Enterpreneurial Education Program." The 46th Annual Conference of the IEEE Engineering in Medicine &Biology Society（学会発表、2024年）、"A Preliminary Study on Immersion Levels in Various Work Processes for Collaboration between Remote Operators and Semi-Autonomous Robots." The 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics（学会発表、2025年）。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
This seminar will read theory-oriented books and articles in cultural psychology and try to understand relevant issues with a theoretical framework of cultural psychology. Main topics of this seminar will be on how cultural settings shape people’s emotion, cognition, motivation, and relationships. In addition, what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies will be argued throughout the course.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people’s emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.
(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on following:
In-class contribution (50%), Class-presentation (50%).

CUA500G1 – 203（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

マイノリティ社会論A

張　勝蘭

サブタイトル：日本とイギリスにおける中国系移民の教育とアイデンティティ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　グローバル化の進展に伴う移民現象は、個人が主体となって国境を越えて移動するという特徴を持つ。本授業では、四大移民の一つである中国系移民（華僑）を事例として、日本とイギリスにおける移住プロセス、コミュニティの形成、ホスト社会との関係、ならびにアイデンティティの変容について検討する。とりわけ、第二世代以降の教育に焦点を当て、言語や文化の継承と変容がいかにして生じているのかを、トランスカルチュラリズムの視点から比較的に考察する。
　本授業の目的は、中国系移民を事例として、マイノリティとしてのコミュニティおよび文化の変遷を理解し、特に定着後におけるアイデンティティの形成と変容に関する知見を身につけることである。その上で、移民の教育経験および教育実態を手がかりに、ホスト社会における多文化共生の可能性と課題について実証的・理論的に深く考察する力を養う。

【到達目標】
　中国系移民を事例に、マイノリティとしてのコミュニティと文化の変遷、ならびに定着後のアイデンティティ形成と変容を理解し、理論的枠組みを用いて多文化共生について深く考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP3」と「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は、選定した文献やテキストの講読を中心に進め、日本とイギリスにおける中国系移民の事例を比較しながら、内容に基づいた議論を行う。
　受講者は、各回の文献について要点整理や問題提起を行い、担当した文献をより深く理解するため、関連論文を1本紹介する。可能な限り自身の研究テーマとの関連性を意識しながら、コメントや質問を行い、議論を深める。
　課題に対するフィードバックは、授業内のほか、学習支援システムおよびメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のアウトラインおよび進め方について説明を行う。あわせて、受講者による自己紹介（研究テーマ、本授業を選択した理由等）を行い、教材の配布および今後の講読分担を決定する。
第2回	講義1	移民研究とエスニシティ研究の主要な理論、およびトランスカルチュラリズムの概念について講義する。
第3回	講義２	日本への移住過程について概説したうえで、関連映像を視聴し、その内容を踏まえて討論を行う。
第4回	講読と討論1-1	中華学校の歴史的変遷に関する文献を講読し、多文化教育のあり方について議論を行う。
第5回	講読と討論1-2	日本の華僑社会と中華学校教育の変容に関する文献を講読し、議論を行う。
第6回	講読と討論1-3	中華民国系の東京中華学校と横浜中華学院に関する文献を講読し、議論を行う。
第7回	講読と討論1-4	中華人民共和国系の横浜山手中華学校、神戸中華同文学校に関する文献を講読し、議論を行う。
第8回	関連映像鑑賞と討論	神戸、横浜、東京の中華学校の関連映像を視聴し、その内容を踏まえて日本の華僑学校について議論を行う。
第9回	講義3	前半の内容を振り返りつつ、文化境界とアイデンティティをめぐる理論的枠組みについて講義する。
第10回	講読と討論2-1	イギリスへの移住過程、学校教育の展開について文献を講読し、討論する。
第11回	講読と討論2-2	コミュニティ、家庭、補習校などの側面から教育の現状を論じる文献を講読し、議論を行う。
第12回	講読と討論2-3	第二世代の立場から彼らのアイデンティティの形成を考察する文献を講読し、議論を行う。
第13回	講読と討論2-4	教育とアイデンティティの形成に焦点を当てた文献を講読し、討論する。
第14回	まとめと考察	日本とイギリスにおける中国系移民の文化とアイデンティティの変遷を比較し、授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業では、テキストの講読および討論を行う。受講者は、各自の分担部分を事前に読み込み、レジュメを作成することが求められる。
　具体的な文献リスト等については、初回の授業で説明する。
　本授業における準備学習および復習に要する時間は、各回につき2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テーマごとにテキストを配布する。

【参考書】
白璐、柳本雄次「日本の中華学校における歴史的変遷からみた多文化教育の展開とその要因：横浜山手中華学校を中心に」『東京福祉大学・大学院紀要』10(1・2) p.121-131、2020年
陳 天璽「長崎から横浜へ・横浜中華街の変貌：広東系老華僑から福建系新華僑へ (特集 華僑華人：グローバルとローカルのダイナミズム) 」『多文化社会研究』 4 p.193-216、 2018年
陳 天璽「虹のメタファー」から多文化共生を再考する：移動する華人やチャイナタウンを事例として (特集 東アジアにおける人の移動と多文化共生) 」『21世紀東アジア社会学』 (7) p.50-61、2015年
石川朝子「日本の華僑社会と中華学校教育の変容： 華僑教育から華文教育へ」『帝京大学宇都宮キャンパス研究年報. 人文編』 (21) p.23-50、2015年
Ｓ.カースルズ/M. J. ミラー（関根正美・関根薫監訳）『国際移民の時代〔第４版〕』名古屋大学出版会、2011年（1993年）
張建国「東京中華学校の現状から日本の教育の明日を考える」 (特集 華人とは誰か：教育とアイデンティティ) 日本華僑華人学会編『華僑華人研究』((8)p.49-54、2011年
潘民生「横浜山手中華学校の過去、現在、未来」『華僑華人研究』((8)p.55-61、2011年
李慈満「百年の華僑学校の見証」『華僑華人研究』((8)p.62-70、2011年
陳來幸「神戸中華同文学校にみる多文化共生とアイデンティティ」『華僑華人研究』((8)p.71-74、2011年
杉村美紀「変容する中華学校と国際化時代の人材育成」『華僑華人研究』((8)p.75-77、2011年

山本須美子『文化境界とアイデンティティーロンドンの中国系第二世代』九州大学出版会、2002年
裘暁蘭『多文化社会と華僑・華人教育 - 多文化教育に向けての再構築と課題』青山ライフ出版、2012年
朱彗玲『華僑社会の変貌とその将来』日本僑報社、1999年
江淵一公編『トランスカルチュラリズムの研究』明石書店、1998年
また授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、発表および討論への参加度（60％）と期末レポート（40％）に基づいて行う。
これらの評価を総合し、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が積極的に発言・議論に参加できるよう、発言しやすい授業環境の形成に努める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域研究（中国南部の少数民族地域）、文化人類学、歴史学
＜研究テーマ＞中国少数民族の歴史・社会・文化、アイデンティティの変遷、少数民族社会と漢族（華人）社会との関係、苗（ミャオ・Hmong）族研究
＜主要研究業績＞
「「改装」政令にみる苗族服飾の変遷と苗族アイデンティティ―清朝期及び民国期の貴州省を中心に―」『21世紀アジア学研究』第20号（国士舘大学21世紀アジア学会）2021年
「土司統治の変遷から見る高坡苗族の伝統文化－中曹長官司長官謝氏を中心に」工藤元男教授退休記念論集編集委員会編『中国古代の法・政・俗』汲古書院、2019年
「貴州高坡苗族「敲牛祭祖」について―高坡郷一帯を中心に」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO.6、（早稲田大学総合人文科学研究センター）2018年、など。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course deals with education and ethnic identity of Chinese migrant in Japan and the United Kingdom.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to （1）obtain basic knowledge about the relationship between education and ethnic identity of Chinese migrant in Japan and the United Kingdom, (2) enhance the basic concept of transculturalism.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, participants will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and prepared a resume . Your required study time is two hours for each class meeting. Your study time will be two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution（60％）and term-end report（40％）.

GDR500G1 – 205（ジェンダー / Gender 500）

ジェンダー論

佐々木　一惠

サブタイトル：ジェンダー史の展開

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダーの視点から歴史を捉えていきます。これまでのジェンダー史の取り組みや成果をたどるとともに、方法論としてのジェンダー史学について考察していきます。そこから、国際文化学におけるジェンダー史の研究論文を書いていけるようになることを目指します。今年度はグリゼルダ・ポロックの『視線と差異：フェミニズムで読む美術史』を読み、ジェンダー、セクシュアリティと表象・権力の問題を議論していきます。

【到達目標】
1．ジェンダー史の視点や方法論について基礎的な理解ができるようになること。
2．ジェンダー史の視点や方法論を、自分自身の研究に応用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、文献の概要を発表者がレジュメに沿って説明します。適宜、教員が補足説明を行います。授業の後半では、各自がGoogle Classroomにアップロードしたコメントをベースにディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要に関する説明 ＊できれば、荻原弘子氏の『視線と差異』訳者あとがきに目を通してきてください。
第2回	・フェミニズム視点で芸術の歴史に踏み込む	【テクスト】 『視線と差異』第１章
第3回	・視線、声、権力：フェミニスト美術史学とマルクス主義①	【テクスト】 『視線と差異』第２章 1. フェミニズムの視点に立つ芸術の社会史？ 2. マルクス主義の功績と落とし穴 3. フェミニズムの諸理論
第4回	・視線、声、権力：フェミニスト美術史学とマルクス主義②	【テクスト】 『視線と差異』第２章 4. フェミニスト美術史学のいくつかの流れ 5. ケース・スタディー：フェミニスト美術史学で行われている議論
第5回	・女性性（フェミニニティ）の空間とモダニティ①	【テクスト】 『視線と差異』第３章 ・イントロダクション
第6回	・女性性（フェミニニティ）の空間とモダニティ②	【テクスト】 『視線と差異』第３章 ・モダンな生活を描く画家 ・女と、モダンな外の世界 ・私的な領域の男と女 ・女と視線
第7回	・プレ・ラファエロ派文献における記号としての女：エリザベス・シダルはどう表現されたか①	【テクスト】 『視線と差異』第４章 前半（253頁まで）
第8回	・プレ・ラファエロ派文献における記号としての女：エリザベス・シダルはどう表現されたか②	【テクスト】 『視線と差異』第４章 後半（254頁から）
第9回	・記号としての女：その精神分析的解読ーロセッティの「美人画」は意味をもたないか？ ①	【テクスト】 『視線と差異』第６章 I、II、III、IV
第10回	・記号としての女：その精神分析的解読ーロセッティの「美人画」は意味をもたないか？ ②	【テクスト】 『視線と差異』第６章 V、VI、VII
第11回	・1970年代を検証する：フェミニズム視点に立つ創作実践に見るセクシュアリティと表現ーブレヒト的展望①	【テクスト】 『視線と差異』第７章ーI
第12回	・1970年代を検証する：フェミニズム視点に立つ創作実践に見るセクシュアリティと表現ーブレヒト的展望②	【テクスト】 『視線と差異』第７章ーII、III
第13回	・1970年代を検証する：フェミニズム視点に立つ創作実践に見るセクシュアリティと表現ーブレヒト的展望③	【テクスト】 『視線と差異』第７章ーIV
第14回	・総括	【テクスト】 『視線と差異』 「ラウトリッジ・クラシックス」版のための序文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献を読み、自分が関心を持った概念や内容について、意見をまとめてGoogle Classroomに授業が始まる1時間前までにアップロードしてください。
・文献の発表者はレジュメを作成してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○グリゼルダ・ポロック（荻原弘子訳）『視線と差異：フェミニズムで読む美術史』（ちくま学芸文庫、2025年）。（＊各自、購入するようにしてください。定価1,700円＋税）
======
出版社による本書の概要説明
なぜ美術史から女の存在が抹消されてきたのか？　西洋近代芸術の歴史が記述・記録される過程において強力に働いてきたさまざまな偏りを明らかにし、その学としてのあり方自体に内在する権力構造と性差別を指摘する。その一方で、フェミニズムからの美術史の問いなおしは、往々にして「ニュー・アート・ヒストリー」というかたちで旧来的な美術史の語りに再包摂されてきた。そうした現状についても鋭く批判し、緻密な検証を積み重ねることで美術史そのものに根源的な変革を迫る論争の書。

【参考書】
授業の中で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献度・参加度（５０%）、提出課題（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
N／A

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
アメリカ合衆国史　思想史　ジェンダー
＜研究テーマ＞
・アメリカ革新主義思想の宗教・ジェンダー・セクシュアリティからの再考
・２０世紀転換期アメリカにおける個人主義・リベラリズム・資本主義に抗する信仰運動としての米国聖公会のアングロ・カトリシズム
＜主要研究業績＞
○「『神に奉献した生』とプロテスタントの女性主体 ―19 世紀後半のアメリカにおける聖マリア修女会の実践から―」『異文化』24号、2023年。
○「善き生の回復を求めてーラルフ・アダムズ・クラムの教会建築論に見る革新主義期アメリカに抗するアングロ・カトリシズムの想像力(イマジェリー)」『年報アメリカ研究』第56号、2022年。
○「プロテスタンティズムの倫理と革新主義期アメリカの精神―アングロ・カトリシズムの視点から見る生政治―」『異文化』23 号、2022年。
○「聖十字架修女会の会員とセツルメント運動 ――生と活動の様式としてのアングロ・カトリシズム 」『ジェンダー史学』16号、2020年。
○「『第三者』性のポリティクスー19世紀末ニューヨークの聖公会員の社会改革運動と公共領域の再編 」『アメリカ史研究』42号、2019年。
○「ジェンダーからみるグローバル・ヒストリー ―女子教育とジャンヌ=ダルクの『普遍化』から」、上智大学アメリカ・カナダ研究所、イベロアメリカ研究所、ヨーロッパ研究所共編『グローバル・ヒストリーズーナショナルを超えて』上智大学出版社、２０１８年。
○ Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Ithaca, NY: Cornel University Press, 2016).
○ “Excludable Aliens vs. One National People: The U.S. Chinese Exclusion Policy and the Racialization of Chinese in the United States and China,” The Japanese Journal of American Studies (no.23, 2012).

【Outline (in English)】
The course introduces an overview of the standpoints and methodologies of gender history so that students can develop the ability to examine issues of gender cross-culturally and inter-racially.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) acquire a basic understanding of the perspectives and methodologies of gender history and 2) use the perspectives and methodologies of gender history to their own research.
Students will be expected to read assigned materials and upload one-page summary of the assigned text and the points of to Google Classroom before class begins. Presenters of assigned materials should prepare presentations in PowerPoint format.
The final grade will be decided by contribution to class discussion (30%) and presentation (70%).

ARSa500G1 – 206（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 500）

多言語社会論Ａ

大中　一彌

サブタイトル：青の政治学Ⅰ　～現代ヨーロッパの基礎研究～

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「多言語社会論A」を紹介する動画です　https://x.gd/nsS4Y
（約６分３９秒；学内者のみ視聴できます）
・この科目「多言語社会論Ａ」では、色彩と文化のつながりについて考えます。
・とりあげる事例は、主にヨーロッパ史のさまざまな局面で《青》という色彩がもつ意義です。
・本研究科の特色である、学際的なアプローチにもとづき、この事例に近づいていきます。
・なお、この科目「多言語社会論Ａ」には、作品を鑑賞する時間帯も含まれています。
・2025年度には、授業時間内に、都内の美術館を見学しました。
・ヨーロッパ地域の文化に詳しくない人も、研究のうえでの刺激やヒントを得られるよう心がけています。
・この授業を紹介する動画（約６秒）をご覧ください　https://youtube.com/shorts/3UOSE5N_uD0

【到達目標】
コースの終わりまでに、参加者の皆さんは次のことができるようになるでしょう：
1)「青」のような色彩の認識を、ただ自然の特徴を映し出す視覚の問題としてだけ考えるのではなく、色を分類し表現する言葉をもった人類の文化や社会に由来する現象として考えることができる。
2) 文章や画像、映像など、人間が創り出す表現を検討する際に、単に表現を感覚的に捉えるだけでなく、そうした表現に影響をおよぼす政治・経済的な条件について想像をめぐらせることができる。
3) 検討する時代や、社会階級が異なれば、ヨーロッパ地域における「青」のような、ひとつの文化要素についても、それがもつ意味合いに、さまざまな違いやニュアンス、価値の逆転などが生じるという前提に立って、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練り上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（ア）この科目は基本的に「対面」です。
（イ）体調不良などの理由により、オンラインで授業に参加する場合、柔軟に対応します。ただし、学生からの連絡が直前の場合、教員側のメールのチェックが間に合わない場合が多いです。お手数をおかけしますが、クラスの他の参加者とも連絡をとりあうなどして、教員に連絡が伝わるようにしてください（じっさい、院生同士の連絡が密であり、そのような形で2025年度は進行できました）。
（ウ）学生の皆さんの都合や関心によりますが、美術展などを学外で見学する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！	シラバスの説明や自己紹介、美術館見学に興味があるかどうか、など
2	色を言葉でどう表現するか	島々が連なる青いエーゲ海は絶景というほかない。しかし、西洋文明の源流に位置づけられ、古代ギリシアを代表するとされる、詩人ホメロスがエーゲ海を描くとき、「青」という言葉は使われないらしい。目の前に青い海が思いっきり広がっていたはずなのに…なぜ？
3	色彩語によるスペクトルの分割	人間は経験を言葉で表現する。色彩の分類は言語や文化ごとに異なるのか、それとも言語や文化の垣根を超えて、色彩にかんする人類共通の分類がありうるのか？
4	光の波長と、ヒトが知覚する色は（ある程度）対応する。	ニュートンはプリズムを使った分光実験により、スペクトルを赤、橙（だいだい）、黄、緑、青、藍（あい）、菫（すみれ）の７色に分けた。だがなぜ７色？
5	陰翳（いんえい）のなかでほのかに浮かび上がる色彩	ゲーテが色彩論の冒頭で扱うのは、薄明りのなかで残像として立ち現れる、想像的・空想的な色彩だ。暗い北方のドイツから見た、アルプスの彼方の鮮やかな色彩？
6	ブルーは寒色ではないのか	映画化もされたジュリー・マロのバンド・デシネ『ブルーは熱い色』。ゲーテの色彩論では青は寒色に分類されるが、『青の歴史』を書いた歴史家パストゥローは逆のゲーテ解釈を示す。思春期の女性の同性に対する愛を繊細に描くマロの作品内容と関係は？
7	古代から中世にかけての青	古代エジプト人は人類初の合成顔料となるエジプト青を開発。ケルト人やゲルマン人は身体を青く染めたとされる。ローマ人は？
8	青く染めることの政治経済学	諸説あるが、ケルト人やゲルマン人が身体を青く染めるのに使ったのは、ホソバタイセイといわれる。タイセイ産業は中世～近世、フランス南西部に繁栄をもたらすが、インド藍（インディゴ）の普及により壊滅。イギリス植民地においてインディゴ産業が発展する。
9	色は光なのか？　―青と信仰 ―	シャルトルの青に代表され、中世に花開いたステンドグラス芸術。だが人間の技巧が作り出す多彩な色は、ほんとうの神の光なのか？　「黒いマリア」信仰や、2019年の火災以降のノートルダム寺院をめぐる現状にも触れる。
10	王権と青	12世紀末以降、カペー王家は「青地に金色のユリの花の散らし模様」の紋章を使うようになった。王冠や王笏、戴冠式の衣装、ルイ14世が購入したブルー・ダイヤモンドについても触れる。
11	中間ふりかえり	作品鑑賞
12	色彩と社会的排除①	中世ヨーロッパにおける芸人、娼婦、ユダヤ人の服装と多色嫌悪［クロモフォビア］
13	色彩と社会的排除②	中世ヨーロッパのキリスト教社会において罪は暗い色をしていたのか

14	まとめ	第13回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
下記【その他の重要事項】にあるリンク先をご覧ください。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への毎週の参加（平常点）50%（※１）
2. 授業中における発言や、掲示板等への書き込み　50%（※２）
3. 【希望者のみ】この授業に関連する作品の鑑賞や話題提供など（※３）
（※１）この科目「多言語社会論」は対面の授業とカリキュラム上位置づけられています。そのため、教室で授業に出席することが基本となりますが、１学期１４回のうち、７回まではZoomでのリアルタイム・オンラインによる授業参加をすることができます。Zoomで参加する場合は、Zoomで参加する授業回ごとに、事前に担当教員までメールで連絡をください。ただし、Zoomで参加する場合、対面授業（教室）において共有されている資料を共有できない場合があります。
（※２）項目2.は、授業内容に対する学生さんひとりひとりの反応を主に念頭においています。
（※３）項目3.は、100%の枠外で5〜20%程度の加点をします。学外の美術展を訪問し、その内容についてこの科目「多言語社会論」で運用しているGoogle ClassroomやHoppiiに、学生さんひとりひとりが投稿する場合を主に想定しています。また、その学生さんにとって第１言語（その人が受けてきた学校教育で最も長い期間使ってきた言語）ではない言語を参照した場合、基本的に加点します。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパ地域のさまざまな文化をめぐる学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この多言語社会論Aは、「青」という、多くの人が知る色を軸とした組み立てとすることにより参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。
・致所有中国留学生：☒我☒用日☒了解欧洲文化（谷歌翻☒）

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやタブレット、ノートパソコンのような情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる作品、参考文献についての詳しいことは、次のリンク先をご覧ください。https://x.gd/Ej8tV

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>　政治学、政治思想
< 研究テーマ>　言語や文化のはざまにいる人たちや、そうした人たちがどのように主体になっていくのかについて関心があります。
< 主要研究業績>　法政大学学術研究データベースをご覧ください。
https://x.gd/BbudE

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.
[Learning Objectives]
1) By taking this course, students, including those who have not necessarily studied modern Europe in a specialized way, will acquire the knowledge necessary to conduct independent research at the graduate level.
2) Textbook readings will provide students with a basic knowledge of French history and culture.
3) Students will watch video clips in class to help them relate historical knowledge from the textbook readings to contemporary political, social, and cultural topics in Europe.
[Learning activities outside of classroom]
(a) Read the textbook assigned each session.
(b) Post a link and a text for your topic in the classroom on the designated LMS (Learning Support System - Hoppii or Google Classroom) before each session.
(c) The study time required for preparation and review for this course will be the time required to do (a) and (b) above. Since this course is taken by students with different levels of proficiency in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be indicated. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for a two-credit lecture or seminar should be at least four hours per session.
[Grading Criteria/Policy]
1. Class participation 50%
2. Remarks and questions in class 50%
3. [For those who wish to do so] Presentation of a topic involving preparation outside of class (*)
4. Contribution to class management (*)
(*) Items 3. and 4. will be added as an extra 10% outside of the total of items 1. and 2. for each topic or contribution.

ARSa500G1 – 207（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 500）

多言語社会論Ｂ

大中　一彌

サブタイトル：青の政治学Ⅱ　～現代ヨーロッパの基礎研究～

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「多言語社会論Ｂ」を紹介する動画です　https://x.gd/ZTqye
（約７分１２秒）
・この科目「多言語社会論Ｂ」では、色彩と文化のつながりについて考えます。
・とりあげる事例は、主にヨーロッパ史のさまざまな局面で《青》という色彩がもつ意義です。
・本研究科の特色である、学際的なアプローチにもとづき、この事例に近づいていきます。
・なお、この科目「多言語社会論Ｂ」には、作品を鑑賞する時間帯も含まれています。
・2025年度、「多言語社会論Ａ」の授業時間内に、都内の美術館を見学しました。
・ヨーロッパ地域の文化に詳しくない人も、研究のうえでの刺激やヒントを得られるよう心がけています。
・この授業を紹介する動画（約６秒）をご覧ください　https://youtube.com/shorts/r3tgZKGFHAM

【到達目標】
コースの終わりまでに、参加者の皆さんは次のことができるようになるでしょう：
1)「青」のような色彩の認識を、ただ自然の特徴を映し出す視覚の問題としてだけ考えるのではなく、色を分類し表現する言葉をもった人類の文化や社会に由来する現象として考えることができる。
2) 文章や画像、映像など、人間が創り出す表現を検討する際に、単に表現を感覚的に捉えるだけでなく、そうした表現に影響をおよぼす政治・経済的な条件について想像をめぐらせることができる。
3) 検討する時代や、社会階級が異なれば、ヨーロッパ地域における「青」のような、ひとつの文化要素についても、それがもつ意味合いに、さまざまな違いやニュアンス、価値の逆転などが生じるという前提に立って、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練り上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（ア）この科目は基本的に「対面」です。ただし、参加者の皆さんの個別の事情や状況により、Zoomを使った参加を積極的に認めています。
（イ）毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。
（ウ）【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめまして！	シラバスの説明や自己紹介、美術館見学に興味があるかどうか、など
第2回	サマルカンドの青	ドームを建築する文化を中央アジアとヨーロッパは共有しています。ウズベキスタン、なかでもサマルカンドは、寺院や廟にあざやかな青をもちいた装飾が多いことで世界的に有名です。
第3回	ヴェネツィア：商人貴族たちがまとう黒服とアラブ・イスラーム世界	14世紀まで、最高級の布は黒ではなく、赤、青、紫の染料で染められていた。しかし、高品質の黒染料が登場し、色彩に富む衣服は貴族のみに限る法律（奢侈禁止法）が施行されたことで、イタリアの裕福な銀行家たちは、重要性の証として黒い服を着るようになった。
第4回	「満ちたりし時」と豪華さの嫌悪	16世紀初頭、ローマにおける盛期ルネサンスと、北方ヨーロッパにおける宗教改革が相次いで発生します。色彩への見方に、これらの出来事はどうかかわるのでしょうか。
第5回	17世紀：カメラ・オブスクラとラピス・ラズリ	小説や映画でとりあげられて有名な画家フェルメール。しかし残された作品は謎めいており、さまざまな解釈をすることができます。
第6回	18世紀：プルシアン・ブルーと江戸時代の日本	葛飾北斎《富嶽三十六景》中の〈神奈川沖浪裏〉をとりあげます。太平洋の波に翻弄される船と、遠景にどっしりと安定した富士山。青が印象的な絵ですが、この青は「日本の浮世絵に独特の神秘的な青」なのでしょうか？
第7回	中間ふりかえり①	作品鑑賞
第8回	ドイツ・ロマン派の夢と青	カスパー・ダーヴィト・フリードリヒの風景画と後ろ姿の人物たち
第9回	革命とナショナリズム	革命とナショナリズム共和主義（青）とその敵たち（白、赤）
第10回	マネの青	～表層の美しさと「スキャンダル」～
第11回	グローバル化する青①	～「デニム」とは何か～
第12回	中間ふりかえり②	作品鑑賞
第13回	グローバル化する青②	～ドガからクラインへ～
第14回	音楽と色	まとめ。シラバス第13回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
下記【その他の重要事項】にあるリンク先をご覧ください。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への毎週の参加（平常点）50%（※１）
2. 授業中における発言や、掲示板等への書き込み　50%（※２）
3.【希望者のみ】この授業に関連する作品の鑑賞や話題提供など（※３）

（※１）この科目「多言語社会論」は対面の授業とカリキュラム上位置づけられています。そのため、教室で授業に出席することが基本となりますが、１学期１４回のうち、７回まではZoomでのリアルタイム・オンラインによる授業参加をすることができます。Zoomで参加する場合は、Zoomで参加する授業回ごとに、事前に担当教員までメールで連絡をください。ただし、Zoomで参加する場合、対面授業（教室）において共有されている資料を共有できない場合があります。
（※２）項目2.は、授業内容に対する学生さんひとりひとりの反応を主に念頭においています。
（※３）項目3.は、100%の枠外で5～20%程度の加点をします。学外の美術展を訪問し、その内容についてこの科目「多言語社会論」で運用しているGoogle ClassroomやHoppiiに、学生さんひとりひとりが投稿する場合を主に想定しています。また、その学生さんにとって第１言語（その人が受けてきた学校教育で最も長い期間使ってきた言語）ではない言語を参照した場合、基本的に加点します。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパ地域のさまざまな文化をめぐる学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この多言語社会論Bは、「青」という、多くの人が知る色を軸とした組み立てとすることにより参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。
・致所有中国留学生：☒我☒用日☒了解欧洲文化（谷歌翻☒）

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやタブレット、ノートパソコンのような情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品、参考書については、次のリンク先をご覧ください。https://x.gd/9hu6b

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 政治学、政治思想
< 研究テーマ> 言語や文化のはざまにいる人たちや、そうした人たちがどのように主体になっていくのかについて関心があります。
< 主要研究業績> 法政大学学術研究データベースをご覧ください。
https://x.gd/BbudE

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.
[Learning Objectives]
1) By taking this course, students, including those who have not necessarily studied modern Europe in a specialized way, will acquire the knowledge necessary to conduct independent research at the graduate level.
2) Textbook readings will provide students with a basic knowledge of French history and culture.
3) Students will watch video clips in class to help them relate historical knowledge from the textbook readings to contemporary political, social, and cultural topics in Europe.
[Learning activities outside of classroom]
(a) Read the textbook assigned each session.
(b) Post a link and a text for your topic in the classroom on the designated LMS (Learning Support System - Hoppii or Google Classroom) before each session.
(c) The study time required for preparation and review for this course will be the time required to do (a) and (b) above. Since this course is taken by students with different levels of proficiency in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be indicated. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for a two-credit lecture or seminar should be at least four hours per session.
[Grading Criteria/Policy]
1. Class participation 50%
2. Remarks and questions in class 50%
3. [For those who wish to do so] Presentation of a topic involving preparation outside of class (*)
4. Contribution to class management (*)
(*) Items 3. and 4. will be added as an extra 10% outside of the total of items 1. and 2. for each topic or contribution.

SOS500G1 – 208（その他の社会科学 / Social science 500）

多民族共生論ⅠA

松本　悟

サブタイトル：東南アジア・日本の開発と民族

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「開発と民族」をテーマとし、民族概念、東南アジアの開発と民族、日本の民族問題という3つのモジュールで議論を行う。それを通して、民族という視点から開発や国家を捉えられるようにする。

【到達目標】
（1）民族、人種、少数民族、部族、先住民族をめぐる議論を理解し説明できる。
（2）言語、健康、教育、インフラ整備など、開発課題と民族の関係を批判的に理解し、東南アジアや日本の事例を使って論理的に自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：入国できない留学生に配慮しつつ、対面で行う。
■進め方：
（1）履修者全員が事前課題文献（20頁程度を想定）を熟読し、①「この文献から重要だと考えた点」を3つ程度とそう考えた理由、②そこから導いた論点（履修者同士で議論したい点）を発表する。
（2）（1）を共有した上で、履修者の間でその日議論したい点を絞り（全ての論点でもよい）議論する。
（3）必要に応じて教員が補足授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の狙いを説明し、履修者の関心を聞き取る。それにしたがって授業内容を変更・確定する。また、文献の読み方や論点の意味について解説する。
2	概念①民族理論の展開と課題	1980年代の社会学の文献を通して民族という概念について考える。
3	概念②少数民族を考える座標	東南アジアの少数民族に関する文献をもとに、少数民族を考える視点について考える。
4	概念③民族・国家・言語	19世紀以降のヨーロッパでの議論を通じて、民族と言語を繋げることの背景と問題について考える。
5	概念④先住民族の登場	開発学で先住民族が着目されるようになった歴史的背景を理解し、この概念との付き合い方を考える。
6	総合討論Ⅰ	第2回～第5回の学びをもとに、「開発と民族」を考える上で留意すべきことを議論する。
7	東南アジアの開発と民族①タイ	タイの山地民をめぐる論争を通して開発と民族について考える。
8	東南アジアの開発と民族②ラオス	北ラオスの焼き畑民の調査を通して開発と民族について考える。
9	東南アジアの開発と民族③メコンデルタ	民族が混在するメコンデルタのベトナム戦争の記憶を通して開発と民族について考える。
10	東南アジアの開発と民族④	ミャンマーを追われるロヒンギャの歴史を通して開発と民族について考える。
11	日本の民族問題①単一民族国家論	なぜ、いつから日本が単一民族国家と言われるようになったのかを通して、国と民族の関係を考える。
12	日本の民族問題②アイヌ民族の健康問題	健康の社会的決定要因からアイヌ民族差別について考える。
13	日本の民族問題③自ら語ること	とかく調査対象とされやすいアイヌ民族が自ら記録することの意味について考える。
14	総合討論Ⅱ	総合討論Ⅰ及びその後の授業を踏まえた論点を抽出し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題文献は時間をかけて読み、内容を十分理解したうえで事前課題に取り組むこと。
・毎回の授業で学んだことを短く学習支援システムに投稿すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
課題文献（英語、日本語）は学習支援システムを通じて配布。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
（1）事前課題・発表60%（文献の正しい理解、説得力のある論点の抽出）
（2）平常40%（授業での積極的な発言20%、授業後課題20%）

【学生の意見等からの気づき】
過去2年間開講していないので特になし。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってはCanva等のツールを使うため、大学のネットワークに接続可能なパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
・少数民族が多く暮らす東南アジアの開発現場に長く関わっている教員が、自らの経験をもとに課題文献や発表者へのコメントを行う。
・履修者の人数や語学力、研究テーマによって課題文献は柔軟に対応する。また履修者の研究に関する発表や議論を柔軟に組み入れる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際開発研究
＜研究テーマ＞影響評価、国際組織、開発援助、NGO、メコン地域の開発と環境
＜主要研究業績＞
『国際協力と想像力』（主編者、日本評論社、2021年）
『調査と権力』（単著、東大出版会、2014年）
『NGO と世界銀行』（主編者、ミネルヴァ書房、2012年）
『人々の資源論』（分担執筆、明石書店、2008年9月）
『シリーズ国際開発　生活と開発』（分担執筆、日本評論社、2005年9月）
※詳しい研究業績は以下を参照のこと。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002838/detail.html?lang=ja&achievement=chosho

【Outline (in English)】
【Course outline】
The theme of this course is "development and ethnic groups" focusing on the concepts, the ethic groups in development in Southeast Asia and the history of the ethnicity issues in Japan. The course aims to discuss and analyze development from the perspectives of ethnic groups.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding and explaining the controversy over the concept of ethnic group, race, ethnic minorities, tribe and the indigenous people.
2) Express her/his opinion critically on the social/historical/interactive relations between development issues and ethnic groups.
3) Applying the cases of development in Southeast Asia and in Japan for 1) and 2) above.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the assigned literature. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
1) Extent of understanding about the assigned literature including the presentation based on your reading: 60%
2) Short reports on your own research: 20%
3) In class contribution: 20%

SOS500G1 – 209（その他の社会科学 / Social science 500）

多民族共生論ⅠB

松本　悟

サブタイトル：先住民族と国際規範ー国際文化からのまなざしー

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「先住民族と国際規範」をテーマとし、国際連合や国際開発機関、民間銀行の国際協会などの宣言や政策が形成された過程やその実効性を批判的に読み解きながら、先住民族など多民族が共生できる国際社会に向けた規範のあり方を考える。

【到達目標】
（1）先住民族の権利を守る国際規範の形成史を説明できる。
（2）実際の規範がどのように実務に適用されているかを批判的に分析できる。
（3）当該分野の専門的な文献を読んで要点を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：入国できない留学生に配慮しつつ、対面で行う。
■進め方：
（1）履修者全員が事前課題文献（20頁程度を想定）を熟読し、①「この文献から重要だと考えた点」を3つ程度とそう考えた理由、②そこから導いた論点（履修者同士で議論したい点）を発表する。
（2）（1）を共有した上で、履修者の間でその日議論したい点を絞り（全ての論点でもよい）議論する。
（3）必要に応じて教員が補足授業を行う。
（4）学期の後半に、それぞれが課題文献を提示し、1回分の授業を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の狙い、課題文献を説明し履修者の関心を聞き取る。それにしたがって授業内容を変更・確定する。発表の担当者を決める。また、文献の読み方や論点の意味について解説する。
2	先住民（族）について	多民族共生論IAの復習を兼ねて先住民（族）という概念について考える。
3	国際開発金融機関の政策変化	国際開発金融機関の過去と現在の先住民（族）配慮政策を比較して何が変わり、何が変わらなかったかを考える。
4	先住民（族）と開発政策	国際開発金融機関が融資したプロジェクトで影響を受ける先住民（族）にどのように配慮政策（国際機関）を伝えるべきかを考える。
5	日本の開発援助と先住民族	日本の開発援助機関の先住民（族）配慮政策についてその歴史と妥当性を国際開発金融機関と比較して議論する。
6	学生による発表①	履修者による研究発表と議論。
7	先住民族の権利に関する国連宣言	2007年の画期的な宣言の意義とそこに至るプロセスから国際規範形成の難しさを考える。
8	自由で事前に十分な情報が提供された合意（FPIC）	先住民（族）と開発を考える上で重要なFPICの概念の成り立ちと葛藤から主体的な関与について考える。
9	企業の海外進出を支援する輸出信用機関の政策	企業を支援する公的金融機関の環境社会配慮政策を世界銀行やODAと比較して考える。
10	学生による発表②	履修者による研究発表と議論。
11	プロジェクトを通して考える①カンボジア	実際の開発協力プロジェクトにここまでの学びを適用して考える。1回目はカンボジア北東部の事業。
12	プロジェクトを通して考える②フィリピン	2回目は先住民族に関わる2つのタイプのNGO（プロジェクト、アドボカシー）の事業から市民社会の影響について考える。
13	プロジェクトを通して考える③ダム開発	中国などの新興ドナーの先住民（族）配慮について、世界銀行と比較して考える。
14	総合討論	ここまでの授業を横断的に捉えなおし、先住民族の権利を守るための国際規範について考える際の重要な視点について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前課題文献は時間をかけて読み、課題に取り組むこと。
・毎回の授業で学んだことを短く学習支援システムに投稿すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
課題文献（英語、日本語）は学習支援システムを通じて配布。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
（1）事前課題・発表60%（文献の正しい理解、説得力のある論点の抽出）
（2）平常20%（授業後課題）
（3）授業運営20%（課題文献の提示、授業のファシリテーション）

【学生の意見等からの気づき】
過去2年間開講していないので、特にない。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってはCanva等を使うため、大学のネットワークに接続可能なパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
・国際金融機関の先住民族政策を含むセーフガード政策の改善を働きかける活動にNGO職員として関わっていた教員が、その経験を発表へのコメントや補足講義に活かす。
・履修者の人数や語学力、研究テーマによって課題文献は柔軟に対応する。また履修者の研究に関する発表や議論を柔軟に組み入れる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際開発研究
＜研究テーマ＞影響評価、国際機構論、国際協力学
＜主要研究業績＞
『国際協力と想像力』（編著、日本評論社、2021年）
『調査と権力』（単著、東京大学出版会、2014年）
『NGOから見た世界銀行』（編著、ミネルヴァ書房、2013年）
『映画で学ぶ国際関係II』（共著、法律文化社、2013年）
『人々の資源論』（共著、明石書店、2008年9月）
『シリーズ国際開発　生活と開発』（共著、日本評論社、2005年9月）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The theme of this course is indigenous people and international norms. It will enable students to critically understand the historical development and the application for the projects of international norms to protect indigenous peoples' rights in relation to not only international development cooperation but also international finance or foreign investment.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Explaining how the International Laws or Norms to protect the rights of the indigenous people have been developed.
2) Analyzing critically how the International Laws or Norms to protect the rights of the indigenous people have been applied for actual cases.
3) Explaining the summary of the relevant academic literatures to international laws/norms and the rights of indigenous people.
【Learning Activities】
Before each class meeting, students will be expected to have read the assigned literature. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
1) Extent of understanding about the assigned literature including the presentation based on your reading: 60%
2) Facilitating one class: 20%
3) Reaction papers after each class: 20%

HIS500G1 – 210（史学 / History 500）

多民族共生論ⅡA

髙柳　俊男

サブタイトル：人物でたどる日本近現代史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「多民族共生論Ⅱ」は、春学期と秋学期で学ぶ内容を変えている。
春学期のⅡAでは、朝鮮やアジアと関係の深い日本人個人に関する伝記的著作を読んで、アジアをめぐる近現代日本の思想や社会運動の潮流を振り返っている（秋学期のⅡBは、在日朝鮮人をめぐる日本の多民族共生について考察）。
ⅡAではこれまで、鶴見俊輔・和田春樹・石田雄・富山妙子・岡部伊都子・日高六郎・松本昌次・上田正昭・茨木のり子・柳瀬正夢などを扱ってきた。今年度は、優れたアジア映画の発掘・紹介に尽力した映画評論家、佐藤忠男（1933～2022年）を取り上げたい。
①佐藤忠男という一個人の歩んだ道や、その中で身につけた思想・ものの見方を知る
②佐藤忠男や彼と関わりのあった他の人物を通して、近現代日本の社会・思想・文化などの潮流をたどる
③とくに、アジアとの関わりの中で、どのような社会運動・思想潮流があったかに着目する
④特定の個人に関する伝記的著作の中から追究すべき課題を見出し、調査・探求する
⑤これまでの各人の研究や関心に応じて、受講者相互間に有益な討論を成立させる

【到達目標】
上記「授業の概要と目的」にある各項目について、大学院修士課程の学生として求められるレベルに達することを目標とする。
具体的には、歴史の中を生きる個人の伝記的記述を読むことを通して、日本近現代史をアジアとの関わりの中で再検証するための契機をつかめるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」と「DP3」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
今回のテキストは、「読書と私の人生」というサブタイトルを冠した、読書を中心とした佐藤忠男による自伝的回想である。本来は、佐藤忠男に関する本格的な評伝をテキストにしたかったが、没後数年の現在、あいにくまだ刊行されていないものと思われる。
1回につき約30頁の分量を、レポーターの報告と全員の討論により、ゼミのような形で読み進める。レポーターは、登場する人物や事件などの事象のうち、大切と思われる点や関心のある点を中心に事実調べをし、授業で議論すべき論点を提出すること。近年格段に検索が容易になった各種のデータベースを駆使し、当時の新聞・雑誌記事や、膨大にある佐藤忠男の関連著作などにも目配りをしながら、時代を実証的に再現するよう努めること。
受講者数が少ない場合は、負担が極端に多くなることを避け、レポーター無しで進める回も設ける。
毎回、冒頭に前回の振り返りを入れることでフィードバックとする。また、関連する映像を観ながら既習事項を定着させる回も、数回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（その1）	受講者各自の自己紹介、授業計画の解説、参考文献の紹介などのガイダンス
第2回	導入（その2）	年譜や各種新聞記事などを使いながら、佐藤忠男の伝記的な事項をあらかじめ整理する
第3回	テキスト　「はじめに」、第1章①	少年時代
第4回	テキスト　第1章②	青年時代、とくに映画との出会い
第5回	テキスト　第2章①	雑誌『思想の科学』と鶴見俊輔
第6回	関連映像の上映①	鶴見俊輔に関する映像を観る
第7回	テキスト　第2章②	アジア・アフリカ映画への開眼
第8回	テキスト　第2章③	柳田国男と宮本常一
第9回	テキスト　第3章①	小松川事件と朴寿南
第10回	テキスト　第3章②	松本清張と司馬遼太郎
第11回	関連映像の上映②	柳田国男や宮本常一に関する映像を観る
第12回	テキスト　第4章①	波多野完治ほか
第13回	テキスト　第4章②	山田洋次ほか
第14回	全体のまとめ	巻末の「独学派に進める99冊」をもとに

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示する関連文献の講読、関連映像視聴、関連箇所への訪問など。
とくに、最近完成したドキュメンタリー映画『佐藤忠男、映画の旅』の上映会場を調べて、授業期間中にぜひ視聴してほしい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐藤忠男『独学でよかった：読書と私の人生』（チクマ秀版社、2007年；新版は中日映画社、2014年）。

【参考書】
150冊あるといわれる佐藤忠男の著作から、関連するものを適宜参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
レポーター時の報告30％、普段の授業への貢献度40％、学期末に提出する授業総括報告書30％を目安とし、総合的に判断する。本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
私の授業では教員を含む参加者全員が、最後に自分なりの授業総括報告書を作成し共有化しており、それを次年度の授業改善に活かすよう努めている。
近年、留学生の受講も増えてきたが、一般学生も留学生も、ともに意義を感じるような授業を目指したい。

【その他の重要事項】
本書は、きわめて平易な日本語で書かれている。読みやすいので、映画表現を専攻する留学生なども大いに参加して、議論に加わってほしい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
朝鮮近現代史、とくに在日朝鮮人（広義）の歴史や文化の研究
＜研究テーマ＞
在日朝鮮人の歴史や文化を、従来の「差別問題」という視角からでは抜け落ちてしまう諸側面も含めて、多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること。そのために文献収集や聞き書きを行ない、これまで光が当てられなかったような個人の事例を数多く集めること。
＜主要研究業績＞
・「渡日初期の尹学準―密航・法政大学・帰国事業」（法政大学国際文化学部『異文化』第5号論文編、2004年）
・「短歌と在日朝鮮人―韓武夫を手がかりとして」（日本社会文学会『社会文学』第26号、2007年）
・「飯田・下伊那研修を意義あるものとするために―国際系学部の事前学習授業の実際から」（「学輪IIDA」機関誌『学輪』第2号、2016年）
＊詳細は、「学術データベース」をご参照のこと。

【Outline (in English)】
This class aims to study about the trends of contemporary Japanese thought and social movements over Asia, by reading of a biographical work on Japanese individual closely related to Korea or Asia. In this year,we will focus on works concerning Sato Tadao.
Final grade will be calculated according to the following process. In-class presentation 30%, in-class contribution 40%, and term-end report 30%.

HIS500G1 – 211（史学 / History 500）

多民族共生論 II B

髙柳　俊男

サブタイトル：朝鮮・在日朝鮮人と日本社会

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本と朝鮮半島との関係史や、在日朝鮮人（総称）が経てきた歴史を明らかにする。その際、政治史や運動史のみならず、生活史・文化史・精神史の解明にも重点を置く。
日朝関係や在日朝鮮人の事例を追うことが、広く国際関係や日本国内の多民族・多文化共生全般について考える際、示唆が得られるようにしたい。
なお、一次資料を含めた各種文献に関して、当時と現在の2つの視点から丁寧な読解ができるよう努める。

【到達目標】
上記「授業の概要と目的」にある各項目について、大学院修士課程の学生として求められるレベルに達することを目標とする。
具体的には、日韓・日朝関係史や、文化史も含めた在日朝鮮人の歩みやその日本社会との関わりを、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解し、受け売りや図式的把握ではなく、自らの言葉で具体的・実証的に語れるようになることを目指す。
また、「研究」という自らの行為を、より客観的・多面的に眺める契機を得るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」と「DP3」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
秋学期のこの授業では、日本社会に大きな比重を占める「異民族集団」である在日朝鮮人を素材に、日本における異文化摩擦や多民族共生の姿を具体的に考察している。
2012年度から8年間、戦後、各種の民族団体・政党・社会運動団体ないし日本政府関係機関などが出した朝鮮関係のパンフレット・小冊子を読み解きながら、戦後の朝鮮・在日朝鮮人をめぐる論調や運動の系譜を追う作業を行った。
定年前最後のサバティカルを経た2021年度からは、私自身が大学生以来、このテーマで執筆してきた各種の文章を取り上げている。研究者としての自己の歩みを俎上に載せるのは、必ずしも受講者に範を垂れる意味ではなく、その試行錯誤や紆余曲折の歩みを示すことで、同じく「研究」に携わる立場にいる受講生に、何らかの参考や示唆を与えることを期待するからである。
今年度は、前半は導入も含めて、近代日本が植民地を所有した事実が現在に及ぼす影響や痕跡を考察する。後半は在日朝鮮人も含めた朝鮮民族のディアスポラ状況や、法政大学史における多文化・多民族的要素を多角的な視野で考える。
取り上げるそれぞれの著作は、その時代の社会潮流や研究動向の産物であり、また当然のこととしてその後のことは書かれていないので、現在からみたら不十分な箇所もある。受講者は、テキスト内容を正確に読み解くとともに、それらを「当時」と「現在」という２つの文脈の中に置いて、客観的・学術的に分析していく。すなわち、なぜこのような主張がなされたか、「当時」の背景を明らかにすると同時に、「現在」の目から見た認識の問題点や、当該課題のその後の展開、さらには研究史の進展などもフォローしつつ報告するよう努めること。
授業の進め方としては、テキストをレポーターの報告と全員の討論で読んでいく。受講者が少なければ、レポーター無しの回も設けたい。毎回、冒頭で前回の振り返りをすることでフィードバックとし、また関連する映像を観ながら既習事項を定着させる回も、数回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	受講者の自己紹介、授業計画の解説、レファレンスブック紹介、当面のテキスト配付、など
第2回	東京にある朝鮮関係の史跡①	日韓合邦記念塔、北朝鮮帰国事業
第3回	東京にある朝鮮関係の史跡②	伊藤博文と安重根、歴代の朝鮮総督
第4回	東京にある朝鮮関係の史跡③	関東大震災、枝川町の集合住宅ほか
第5回	映像による学習内容の振り返り①	学んだ内容の映像による振り返り（関東大震災時の朝鮮人虐殺、ほか）
第6回	朝鮮民族のディアスポラ①	海峡を越えた在日朝鮮人の形成史
第7回	朝鮮民族のディアスポラ②	中国の朝鮮族、とくに金学鉄
第8回	朝鮮民族のディアスポラ③	旧ソ連の高麗人とその言論活動
第9回	朝鮮民族のディアスポラ④	SJ国内研修を振り返る
第10回	映像による学習内容の振り返り②	学んだ内容の映像による振り返り（崔健、ほか）
第11回	法政大学史①	椋鳩十と正木ひろし
第12回	法政大学史②	尹学準の生涯
第13回	法政大学史③	学徒出陣とそのモニュメント
第14回	まとめ	SJ国内研修における「負の歴史」の語り継ぎも含めて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに登場する文献や授業中に指示する関連文献の講読、関連映像の視聴、関連箇所への訪問など。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
その都度、紙媒体もしくはpdfで配付する。

【参考書】
『韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）、『朝鮮人物事典』（大和書房）、『在日コリアン辞典』（明石書店）などの事典類で、韓国・朝鮮を本格的に研究したい人は購入すること。

【成績評価の方法と基準】
レポーター時の報告35％、普段の授業への貢献度30％、および学期末の授業総括報告書35％を目安に、総合的に判断する。本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
私の授業では教員を含む参加者全員が、最後に自分なりの授業総括報告書を作成し共有化しており、それを次年度の授業改善に活かすよう努めている。
近年、留学生の受講も増えてきたが、一般学生も留学生もともに意義を感じ、自身の研究にも役立つような授業を目指したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
朝鮮近現代史、とくに在日朝鮮人（広義）の歴史や文化の研究、日朝関係史
＜研究テーマ＞
在日朝鮮人の歴史や文化を、従来の「差別問題」という視角からでは抜け落ちてしまう諸側面も含めて、多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること。そのために文献収集や聞き書きを行ない、これまで光が当てられなかったような個人の事例を数多く集めること。
＜主要研究業績＞
・「渡日初期の尹学準―密航・法政大学・帰国事業」（法政大学国際文化学部『異文化』第5 号論文編、2004 年）
・「短歌と在日朝鮮人―韓武夫を手がかりとして」（日本社会文学会『社会文学』第26 号、2007 年）
・「飯田・下伊那研修を意義あるものとするために―国際系学部の事前学習授業の実際から」（「学輪IIDA」機関誌『学輪』第2号、2016年）
＊詳細は、本学の「学術研究データベース」をご参照のこと。

【Outline (in English)】
This class aims to study about Japanese multicultural coexistence, by reading of my own papers on Japan-Korea relations or Korean minority in Japan.
This year, we plan to begin with satirical cartoon from newspapers, with a view to continuity from the spring semester, followed by tanka poems and other articles.
Final grade will be calculated according to the following process. In-class presentation 35%, in-class contribution 30%, and term-end report 35%.

SOC500G1 – 213（社会学 / Sociology 500）

国際ジャーナリズム論

神林　毅彦

サブタイトル：国際報道の役割

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要と目的　―　国際社会が、戦争、気候危機、移民・難民問題、経済・貿易などグローバルな問題に直面するなか、国際ジャーナリズムの役割がますます重要視されている。国際ジャーナリズムの現状、問題点、対策、SNS、AIの活用等を重点的に議論する。下記が主な内容となる。
１．複雑化する国際情勢とジャーナリズム　２.外交、国際政治とジャーナリズム　３．報道にみられる政治的、経済的、社会的影響

【到達目標】
ジャーナリズムの役割、倫理、直面する問題、その対策や国際報道の背景などに理解を深めることができるようになる。また、ジャーナリズムにおけるSNSやAIの活用、効果的な情報発信等を学ぶことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」と「DP4」の達成のために特に重要であり，「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国内外の問題に関する日本、海外メディアの報道に目を通し、報道を検証しながら、国際ジャーナリズムの役割等について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジャーナリズムの役割
第2回	メディアの特性（Ⅰ）	ジャーナリズムの使命と倫理問題
第3回	メディアの特性（Ⅱ）	国際報道と国際政治、外交（1）
第4回	メディアの特性（Ⅲ）	国際報道と国際政治、外交（2）
第5回	メディアの特性（Ⅳ）	国際報道とその影響
第6回	メディアの特性（Ⅴ）	国際報道と倫理問題、プロパガンダ、PR、フェイクニュース
第7回	国際ジャーナリズム（Ⅰ）	戦争報道
第8回	国際ジャーナリズム（Ⅱ）	自然災害、気候危機に関する報道
第9回	国際ジャーナリズム（Ⅲ）	原子力発電などエネルギー問題に関する報道
第10回	国際ジャーナリズム（Ⅴ）	国際経済、貿易問題に関する報道
第11回	フィールドワーク	インタビュー、取材
第12回	ワークショップ	記事等作成
第13回	国際ジャーナリズム（Ⅵ）	移民、難民問題と報道
第14回	今後の国際報道	高度情報化とジャーナリズム、SNS、AIの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国際情勢に関する報道に目を向け、批評を行う。また、ジャーナリズムの実践、問題点などを考える。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくになし。担当者が資料等を配布する。

【参考書】
ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール「ジャーナリストの条件：時代を超える10の原則」新潮社　２０２４年　（原書 The Elements of Journalism）
The New York Times, The Atlantic, The Christian Science Monitor, BBC, 新華社通信, Tansa、他

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、授業での発表や議論 40%、レポート（内容評価）30%

【学生の意見等からの気づき】
学生は、The New York Times、BBCやThe Atlanticなどの記事を積極的に読んでいた。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジャーナリズム論
＜研究テーマ＞　国際ジャーナリズム論、ジャーナリズム倫理
＜主要研究業績＞1) “Why Japan’s prime minister is gambling with snap elections,” 2026, The Christian Science Monitor.
2）“Japan’s new PM promised to ‘work, work, work.’ For some, that’s now a red flag.” 2025, The Christian Science Monitor.
3）「DV問題を概観する ―支援者たちの証言から」「部落解放」2024年3月号、解放出版社

【Outline (in English)】
（Course outline）
The theme of this course is theories of international journalism in the internet age. This course provides opportunities for students to critique news coverage in Japanese and foreign media outlets and discuss mainly the impact of social media and generative AI; journalism and diplomacy; and political, economic and social factors influencing media content.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to do the followings:
A. Have a clear understanding of the principles of journalism.
B. Have a clear understanding of the integral role of international journalism, especially in the face of complex global issues such as conflicts, migration, refugees and climate crisis.
C. Discuss the most pressing issues facing international journalism today.
（Learning activities outside of classroom）
Students will read articles in major Japanese and foreign media regularly about diplomatic and global issues.
（Grading Criteria /Policy)
Grading will be determined by 30% participation, 30% presentations, 40% writing assignments

HIS500G1 – 215（史学 / History 500）

国際文化交流論 II A

木村　真

サブタイトル：人の移動現象にアプローチするさまざまな方法

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、さまざまな形態の人の移動が地域社会やさまざまな人間集団に与えた影響を考察します。人の移動は近現代の世界に限られた現象ではありませんが、とくに、19世紀以降の国民国家形成過程、都市化や近代化の過程、世界各地の紛争のなかで見られた出稼ぎ、国外・国内移住、強制的な住民交換、政治的亡命などの移動現象と人々のネットワーク、人々の帰属意識、さらに国家による政策の関係に注目します。それによって、現代社会で生じている多様な、多面的な移動現象の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
①国民国家形成過程の人の移動について、多面的な理解を修得すること
②住民交換政策の地域社会に与える影響についての知見を得ること
③人々の多様な形態の移動にともなう送り出し地域、受け入れ地域の人々の文化的影響に関する知見を得ること
④以上のテーマについて、とくに歴史研究や地域研究の方法を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
近代バルカン、東欧の事例を中心に担当者が講義も行いますが、受講者全員で関連文献、論文を読み、発表をしてもらいます。また、受講者の専門地域もしくは関心を持つ地域の事例について報告発表もしてもらう予定です。各授業の内容について質問、意見をリアクションペーパーの形で提出してもらいます。なお、対面式を前提としますが、状況によってオンラインとなるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	近代の東欧、バルカン社会（1）	東欧、バルカン地域における国民国家形成以前の人の移動
第3回	近代の東欧、バルカン社会（2）	帝国内の各地、ならびに帝国内外を結ぶさまざまな人の移動
第4回	国民国家形成過程と人の移動（1）	バルカン地域における国民国家形成のプロセス
第5回	国民国家形成過程と人の移動（2）	国家形成にともなう人の移動（武装勢力、軍隊、住民移動など）
第6回	国民国家形成過程と人の移動（3）	国家形成にともなう人の移動（出稼ぎ、季節労働など）
第7回	国民国家形成過程と人の移動（4）	国家形成にともなう人の移動（さまざまな移民形態）
第8回	国民国家形成過程と人の移動（5）	国家形成にともなう人の移動（亡命など）
第9回	紛争と人の移動（1）	紛争にともなう人の移動と国家の対応（住民交換）
第10回	紛争と人の移動（2）	紛争にともなう人の移動と国家の対応（強制移住）
第11回	紛争と人の移動（3）	紛争にともなう人の移動と国家の対応（難民）
第12回	移動する人々の帰属意識（1）	帰属意識の構築
第13回	移動する人々の帰属意識（2）	重層的な帰属意識
第14回	人の移動をめぐる研究から得られる知見	人の移動をめぐる歴史学的な研究アプローチの可能性と限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告発表に際しては、あらかじめ、関連する文献を読み、レジュメを作成準備することが求められます。また、発表者以外の参加者も、関連する概念、事象などについて調べることを期待されます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の関心に即して決めるつもりです。さしあたり、下記の文献を素材とする予定です。テキストはこちらでコピーを準備します。

Ulf Brunnbauer(ed.) Transnational Societies, Transnational Politics. Migration in the (Post-)Yugoslav Region, 19th-20th Century. Munchen, 2009.

【参考書】
授業において指示します。さしあたり、以下のものを挙げます。
ノーマン・M・ナイマーク『民族浄化のヨーロッパ史』刀水書房、2014年
山本明代、パプ・ノルベルト編『移動がつくる東中欧・バルカン史』刀水書房、2017年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業における発表、ならびに議論への参加）（50％）、レポート課題（50％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面式、オンラインのどちらの場合でも、なるべくコミュニケーションを取り合うよう努力したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉バルカン近現代史、東欧地域研究
〈研究テーマ〉近現代東欧地域の強制的移動を含む人の移動、移民現象
ブルガリア史、南スラヴ地域を中心に、バルカン近現代史、東欧地域研究を専門としております。現在は授業のテーマでもある南東ヨーロッパ地域の近現代の人の移動を研究しています。また、東欧地域の史学史研究にも関心を持っております。
〈主要研究業績〉
『バルカン史と歴史教育』（共著）2008年　明石書店
『東欧地域研究の現在』（共著）2012年　山川出版社
『移動がつくる東中欧・バルカン史』（共著）2017年　刀水書房

【Outline (in English)】
【Course outline 】This course introduces a historical approach for a diversity of migrations after the 19th century to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are required to obtain knowledge about various patterns of migrations after the 19th century.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on in-class contribution（50%）, and term-end report （50%）.

ARSk500G1 – 217（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 500）

比較宗教文明論

臼杵　陽

サブタイトル：イスラームなどの一神教と日本

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラム国（IS) は壊滅したものの、宗教・宗派・民族紛争は世界中で続いている。ウクライナ情勢は解決の見通しがついておらず、中東地域では大地震に襲われて先行きが見通せな状況が続いている。今後世界がどんな方向に向かうのか、見えてこない。授業では、日本社会で宗教がどんな意味をもっているのかを出発点として、世界の宗教紛争の現状、とりわけ現代中東の具体的な問題を取り上げながら検討していく。

【到達目標】
受講者がイスラーム世界を含む現代の宗教紛争を考える際に重要な点は、欧米社会に特徴的に見られる宗教を個人の信仰として捉えるのではなく、共同体あるいは社会における機能に注目して考えることである。文明として宗教を捉えるということはわれわれが現代社会における宗教現象を理解するうえでも重要な視点である。宗教文明における衝突はその教義のちがいというよりも、それぞれの宗教文明がそれぞれの歴史的過程を経て、その現在が形成されてきたということでもある。したがって、宗教文明を比較の視点から捉えるということは、現在の状況を歴史的な観点からプロセスとして読み直す作業でもある。したがって、宗教の名の下でのテロなどをたんに野蛮で時代錯誤的としてみるのではなく、現代における歴史的過程の帰結という観点からも考え直してみるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
出席者数によるが、テキストを決めて演習の形式で進めていくことを原則としたい。必要に応じて、ＤＶＤなどの映像資料などを用いながら、「宗教」に関していったい何が問題なのかを含めて考えていくことにしたい。まずは「多神教」といわれる日本社会にとって「宗教」とは何かを考えていき、参加者の関心によってイスラームやユダヤ教などの「一神教」の世界へと話を移していきたい。毎回、授業に関する小レポートを書いて提出してもらう。授業冒頭で小レポートに対するフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業で何を学んでいくのか。
第2回	なぜ日本人は無宗教なのか？ ①日本人の宗教観	近現代に注目して日本人の宗教観がいかなるものなのかについて考える。
第3回	なぜ日本人は無宗教なのか？ ②明治期から太平洋戦争まで	明治期から太平洋戦争までの日本人にとっての「宗教」とは何かを考える。
第4回	なぜ日本人は無宗教なのか？ ③ 戦後日本	戦後日本の日本人にとっての「宗教」の変容について考える。
第5回	なぜ日本人は無宗教なのか？ ④９・１１事件後	９・１１事件後の日本人のイスラーム観を考える。
第6回	日本と中東イスラーム世界の関係①明治・大正期	明治・大正期の日本・イスラーム関係史を考える。
第7回	日本と中東イスラーム世界の関係②戦前昭和期	戦前昭和期の日本・イスラーム関係史を考える。
第8回	日本と中東イスラーム世界の関係③大川周明の初期イスラーム研究	国家主義者の大川周明の青年期のイスラーム神秘主義研究について考える。
第9回	日本と中東イスラーム世界の関係④大川周明晩年のコーラン研究	国家主義者の大川周明の晩年のコーランの翻訳、その研究について考える。
第10回	日本人のユダヤ人観①戦前期	戦前日本のユダヤ人観と反ユダヤ主義
第11回	日本人のユダヤ人観②戦後期	日本人のユダヤ人観②戦後期
第12回	日本人のユダヤ人観③欧米との相違	キリスト教徒の多い欧米と日本のユダヤ人観はどのように違うのか？
第13回	欧米世界とイスラーム世界のユダヤ人観の相違	同じ一神教のイスラーム世界のユダヤ人観はキリスト教世界とどのように違うのか？
第14回	まとめ	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中東イスラーム世界、とりわけイスラーム主義あるいはテロはいつ起こるかわからない。したがって、毎日、新聞、テレビ、インターネットでニュースをチェックする習慣をつけてほしい。また、日々起こる事件の表層だけではなく、その底流に流れる事態の本質をきちんと見極める眼力を養ってほしい。 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
阿満利麿『日本人はなぜ無宗教なのか』ちくま新書、1996 年。
島薗進『国家神道と日本人』岩波新書、2010 年。
臼杵陽『イスラームはなぜ敵とされたのか』青土社、2009 年。
臼杵陽『大川周明ーイスラームと天皇のはざまで』青土社、2010 年。

【参考書】
井筒俊彦『イスラーム文化』岩波文庫、1991 年。
井筒俊彦『コーランを読む』岩波現代文庫、2013 年。
大川周明『回教概論』ちくま学芸文庫、2008 年。
大川周明『復興亜細亜の諸問題』中公文庫、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
授業内における報告および質疑応答など積極的な姿勢をもって参加しているかによって評価する（４０%）。期末にはレポートを提出してもらう（６０%）。

【学生の意見等からの気づき】
院生諸君との授業内でのコミュニケーションによって授業のあり方を検討する機会をもつことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞中東地域研究、宗教・エスニック問題
＜研究テーマ＞パレスチナ／イスラエル紛争、日本の対中東関係、とりわけ聖地問題
＜主要研究業績＞『見えざるユダヤ人』(平凡社)『原理主義』(岩波書店)、『大川周明』(青土社)、『イスラエル』(岩波新書)、『イスラー ムはなぜ敵とされたか』(青土社)、『アラブ革命の衝撃』(青土社)、『世界史の中のパレスチナ問題』(講談社現代新書)、『「中東」の世界史』(作品社)、『「ユダヤ」の世界史』(作品社）など。

【Outline (in English)】
Learning activities outside of classroom

In the Muslim societies or Middle Eastern world, nobody can anticipate what would happen such as terror attacks. Therefore, students attending this class are asked to follow news in newspapers, television or internet so on. Students are also asked to improve their abilities to grab the underlying cause of what are happening every day. Preparation and review are needed for two hours as a standard.
Grading Criteria /Policy
Grading Criteria is to participate actively in reports and questions &answer in class (40%). Semester-end reports are needed to submit (60%).

FRI500G1 – 301（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

多文化情報空間論ＩＡ

森村　修

サブタイトル：現代哲学研究（フッサール現象学研究）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要と目的】
本授業では、国内外の思想に多大な影響を及ぼしている哲学者・思想家のテキストを取り上げ、それを精読することを通じて、現代社会が置かれている状況を哲学的に考察することを目的とする。

【到達目標】
① 哲学テキストを精読することによって、哲学的思考を鍛錬することができる。
② 哲学テキストを通じて、私たちが生きている社会の深層構造を哲学的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」の達成のために特に重要であり，「DP1」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的に演習形式で授業を進める。
① 各回に発表担当者を決め、限られた箇所を精読し、レジュメを作成する。
② 発表者のレジュメをもとに、発表者がプレゼンテーションを行う。
③ 発表者と発表者以外の受講生は、発表者のプレゼンテーションに対して質疑を行い、議論を行う。
④ 質疑応答が終わったり、議論が紛糾したりした場合に、授業担当者が当該箇所について解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業内容の概説 ・発表者の当番を決める ・レジュメの書き方などを説明する
第2回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む①	第1章　自然一般の理念 第1節　自然の概念と経験の概念の暫定的限定
第3回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む②	第1章　自然一般の理念 第2節　理論的な見方としての自然科学的な見方
第4回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む③	第1章　自然一般の理念 第3節　理論的な見方ないしは理論的な関心の分析
第5回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む④	第1章　自然一般の理念 第4節　理論的諸作用と〈あらかじめ与える〉志向的諸体験
第6回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑤	第1章　自然一般の理念 第5節　自発性と受動性。意識の顕在性と非顕在性
第7回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑥	第1章　自然一般の理念 第6節　理論的な見方への移行と反省への移行との相違
第8回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑦	第1章　自然一般の理念 第7節　客観化作用と非客観化作用、およびこれら両者の各相関者
第9回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑧	第1章　自然一般の理念 第8節　構成の原対象としての感覚的対象
第10回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑨	第1章　自然一般の理念 第9節　範疇的綜合と感性的（〈感覚的〉）綜合
第11回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑩	第1章　自然一般の理念 第10節　事物と空間幻像と感覚与件
第12回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑪	第1章　自然一般の理念 第11節　単なる諸事象の領野としての自然
第13回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑫	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第12節　物質的な自然と有心的な自然
第14回	エトムント・フッサール『イデーンⅡ」を読む⑬	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第13節　〈事物〉一般の構造、特に物質的事物の構造に対する延長の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各二時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・エトムント・フッサール『イデーンⅡ」みすず書房、2001年
・同『イデーンI-1』みすず書房、1979年
・同『イデーンI-2』みすず書房、1984年
※ テキストは高価なので、こちらでコピーを配布する予定。また『イデーンI』については、講義中で触れるので、必ずとも用意しなくてもよい。
※ ドイツ語版原書についてはこちらで用意する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（50％）（レジュメを作成し、発表すること）
（2）期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・授業は演習形式で行うため、各自が該当箇所をきちんと読んでくること。

【Outline (in English)】
Outline and Purpose of the Course
The purpose of this class is to read texts by philosophers and thinkers who have had a great influence on domestic and international thought. This is because learning about the thoughts of the philosophers who are leading contemporary thought will lead to a philosophical consideration of the contemporary society in which we live.
【Goals】
(1) Through close reading of philosophical texts, students will be able to develop their philosophical thinking.
(2) Through philosophical texts, students will be able to philosophically examine the deeper structure of the society in which we live.

FRI500G1 – 302（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

多文化情報空間論ＩＢ

森村　修

サブタイトル：現代哲学研究（フッサール現象学研究）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要と目的】
本授業では、国内外の思想に多大な影響を及ぼしている哲学者・思想家のテキストを取り上げ、それを精読することを通じて、現代社会が置かれている状況を哲学的に考察することを目的とする。

【到達目標】
① 哲学テキストを精読することによって、哲学的思考を鍛錬することができる。
② 哲学テキストを通じて、私たちが生きている社会の深層構造を哲学的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP2」の達成のために特に重要であり,「DP1」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的に演習形式で授業を進める。
① 各回に発表担当者を決め、限られた箇所を精読し、レジュメを作成する。
② 発表者のレジュメをもとに、発表者がプレゼンテーションを行う。
③ 発表者と発表者以外の受講生は、発表者のプレゼンテーションに対して質疑を行い、議論を行う。
④ 質疑応答が終わったり、議論が紛糾したりした場合に、授業担当者が当該箇所について解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業内容の概説 ・発表者の当番を決める ・レジュメの書き方などを説明する
第2回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む①	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第14節　有心的存在者の構造に対する延長の意義
第3回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む②	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第15節　物質性の本質（実体） a 〈物質的事物〉の本質を規定する方途としての、事物の所与性の現象学的分析
第4回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む③	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第15節　物質性の本質（実体） b 物質的事物の構成要素としての可動性と可変性。事物の図式
第5回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む④	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第15節　物質性の本質（実体） c 状況への事物の依存関係による事物の物質性の証明
第6回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑤	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第15節　物質性の本質（実体） d 物質的事物の実在的な規定性としての図式
第7回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑥	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第15節　物質性の本質（実体） e 経験による事物の詳細な規定と規定の変更および廃棄
第8回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑦	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第16節　多様な依存関係の中での事物の諸特性の構成
第9回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑧	第2章　直観される事物そのものの存在的な意味の諸層 第17節　物質性と実体性
第10回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑨	第3章　感性的な身体との関係における感覚的事物 第18節　事物構成の主観的に制約された諸要因と客観的な物質的事物の構成 a 物質的事物の直観可能な諸性質は経験する主観の身体に依存している
第11回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑩	第3章　感性的な身体との関係における感覚的事物 第18節　事物構成の主観的に制約された諸要因と客観的な物質的事物の構成 b 直観される事物の構成に対する正常な知覚の諸条件の意義と種々の異常（身体の変化と事物における変化）
第12回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑪	第3章　感性的な身体との関係における感覚的事物 第18節　事物構成の主観的に制約された諸要因と客観的な物質的事物の構成 c さまざまな構成の段階における心理物理的な制約的関係の意義
第13回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑫	第3章　感性的な身体との関係における感覚的事物 第18節　事物構成の主観的に制約された諸要因と客観的な物質的事物の構成 d 物理学的な事物
第14回	エトムント・フッサール『イデーンII」を読む⑬	第3章　感性的な身体との関係における感覚的事物 第18節　事物構成の主観的に制約された諸要因と客観的な物質的事物の構成 e 独我論の段階で〈客観的な自然〉を構成する可能性 f 独我論的な経験から間主観的な経験への移行 g 物理学的な事物の詳細な特性記述 h 間主観的な経験の段階で〈客観的な自然〉を構成する可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各二時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・エトムント・フッサール『イデーンII』みすず書房、2001年
・同『イデーンⅠ-1』みすず書房、1979年
・同『イデーンⅠ-2』みすず書房、1984年
※ 授業のテキストは高価なので、こちらでコピーを用意する。
※ ドイツ語版原書はこちらで用意する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（50％）（レジュメを作成し、発表すること）
（2）期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
・テキストの厳密な読み方の徹底

【Outline (in English)】
Outline and Purpose of the Course
The purpose of this class is to read texts by philosophers and thinkers who have had a great influence on domestic and international thought. This is because learning about the thoughts of the philosophers who are leading contemporary thought will lead to a philosophical consideration of the contemporary society in which we live.
【Goals】
(1) Through close reading of philosophical texts, students will be able to develop their philosophical thinking.
(2) Through philosophical texts, students will be able to philosophically examine the deeper structure of the society in which we live.

FRI500G1 – 305（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

多文化情報メディア論ＩＡ

大嶋　良明

サブタイトル：ソーシャルメディアの調査と分析

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のネット社会をメディアとしての諸特性においてとらえ、文化情報学的なアプローチで分析するなかから、異文化理解に資する視点の開拓を試みる。これまで社会科学的な発展の中で構築されたメディア論や人文科学分野での文化理論とも関連させた検討を試みている。とくにインターネット上の言説に着目し、その分析手法やメディアデータとしての特徴や書物との違いについて学ぶ。

【到達目標】
この科目では現代のテキストを最新の手法によって分析できるようになる。現代のネット社会をテキストの計量的・統計的な諸特性においてとらえる。英米文化の理解と異文化理解の観点から、インターネット上の言説や文化表象に関連するメディアに着目し、その主要な分析手法やモデル化について説明できるようになる。また実際のデータに適用して分析することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と輪講により行う。
・複数レポータ制による輪講とパソコンを用いたインターネット上のデータの分析を試みる。
・各自が学習内容を相互閲覧可能な形でWebに記録する。
・日本語のみならず各国語文化圏のWebテキストに関する各自の話題提供を通じて、視野を拡げ問題意識を深化させる。
・教員と履修者全員によるオープンなディスカッションを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション: 社会と機械学習	Webから海外社会を観察することと分析の課題を学ぶ。
2	即時性の検出	時系列のテキストからキーワードの出現傾向を検出する方法を学ぶ。
3	単語の出現頻度	形態素解析に基づく単語の出現頻度の分析、Bag of Words(BoW)の構築を学ぶ。
4	共起関係と表現の連鎖	単語の連なり、N-gram、共起関係（コロケーション）の分析方法を学ぶ。
5	文書中の単語の重要性とTF-IDF	Tf-IDFによる単語の重要性の分析手法を学ぶ。
6	関連性の評価	テキストから関連性の高い文書を見つける手法を学ぶ。
7	潜在的意味論と話題性の抽出	LDA(潜在的ディリクレ分割)法によるトピックモデルと言説空間の分析法を学ぶ。
8	感情分析、ネガポジ分析	感情分析とは何かを理解し文章から意見の抽出方法を学ぶ。
9	推薦の仕組み	予測とレコメンド手法、バスケット分析の手法を学ぶ。
10	ジャンルの抽出	テキストのジャンル分類を学ぶ。
11	クラスの分類	テキストのクラス分類の方法を学ぶ。
12	特徴抽出	大規模データからの特徴抽出の手法を学ぶ。
13	特徴量の圧縮と次元削減	大規模データからの特徴量圧縮の手法を学ぶ。
14	学習のまとめ	クラス内ディスカッションをおこない、得られた知識をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業終了後、受講生はクラス内での発表および討議について各自の発表内容、発言、担当教員のコメント、クラス内での質疑応答などを学内ネット（後述【情報機器】の項を参照のこと）にアップロードしてオンライン記録として情報共有すること。
予習復習として、テキストおよび毎回の授業で担当教員が指定する文献を熟読し、気づいた論点や疑問点については学内ネットにアップロードし授業内での発言に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。必要な資料は授業内で配布する。

【参考書】
全体を通じての参考書は特に指定しない。
必要に応じて提示する。領域的な理解の助けとなる参考書は以下の通り：
【多言語環境】三上喜貴ほか、「言語天文台からみた世界の情報格差」、慶應義塾大学出版会(2014)、ISBN: 978-4-7664-2178-1
【英米言語文化】Swiss, T., “Unspun,” NYU Press(2001), ISBN: 978-0814797594
【ネット社会の文化的特性】川上量生（監修）、「ネットが生んだ文化」、角川学術出版(2014)、ISBN: 978-4-04-653884-0
【言語分析の手法】
(1) ボレガラ、岡崎、前原、「ウェブデータの機械学習」、講談社(2016)、ISBN:978-4-06-152918-2
(2) Richart, W. and Coelho, L.,P.,(著)、齋藤康毅（訳）、「実践　機械学習システム」、オライリー・ジャパン（2014）、ISBN:978-4-87311-698-3

【成績評価の方法と基準】
平常点25%
輪講25%
課題20%
学期末レポート30%
を総合的に評価する。
設定した達成目標を60％以上達成している場合に合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2018年度より日本語および中文のテキストマイニングに取り組んでいる。留学生も含めてテキストの分析への履修学生の関心を喚起したい。また履修者少数の場合にも効率よく学習できるよう常に心がける。2021年度は担当教員が国内研究を取得したので、2022年度以降はこの間の深化を盛り込んだ内容とした。2026年度もその発展的な継続を目指す。
2023年度はTwitter（X）が研究利用に関する運営方針を制限したことでオンラインでの授業内容の実習が困難であった。この点については課題内容を変更することで対応する。

【学生が準備すべき機器他】
授業においてノートPC、プロジェクタ、インターネット接続環境を使用する。また言語Pythonを用いた機械学習の問題解決に親しんで欲しい。学習成果の記録性を確保し各自の学習内容の相互参照性を高めるため、担当教員と履修者全員が編集するWikiやポートフォリオツール等のCMSを個々の研究科科目において使用する。各自の学習内容のポートフォリオ化に十分に活用して欲しい。

【その他の重要事項】
ジャンルキーワード：　テキストマイニング、**Web**、機械学習、データサイエンス、ビッグデータ、インターネット、オンラインデータ

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/hosei/detail.html?systemId=6bfb3150cb08858a&lang=ja

【担当教員の実務経験】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course provides with perspectives on the Internet in the context of multi-cultural cyberspace.　It also covers well-known research methodology and basic analysis techniques for online text data as well as various types of media data on the Internet.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 25%
Analysis report on reading assignment: 25%
Homework: 20%
Term paper: 30%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI500G1 – 306（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

多文化情報メディア論ＩＢ

大嶋　良明

サブタイトル：行動データから知る人間社会と心理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のネット社会をメディアとしての諸特性においてとらえ、文化情報学的なアプローチで分析するなかから、異文化理解に資する視点の開拓を試みる。これまで社会科学的な発展の中で構築されたメディア論や人文科学分野での文化理論とも関連させた検討を試みている。とくにインターネット上のユーザの行動の分析から人間社会と心理について何が解明できるのかを学ぶ。

【到達目標】
この科目ではソーシャルメディアを最新の手法によって分析できるようになる。現代のネット社会をテキストの計量的・統計的な諸特性においてとらえる研究事例から、ネット社会に参加するユーザの行動や心理について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」の達成のために特に重要であり,「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と輪講により行う。
・複数レポータ制による輪講とパソコンを用いたインターネット上のデータの分析を試みる。
・各自が学習内容を相互閲覧可能な形でWebに記録する。
・日本語のみならず各国語文化圏のWebテキストに関する各自の話題提供を通じて、視野を拡げ問題意識を深化させる。
・教員と履修者全員によるオープンなディスカッションを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	Webの誕生、発展からソーシャルメディアの出現までを学ぶ。
2	Webとソーシャルメディア	知識源としてのWeb、人文社会科学におけるソーシャルメディア、Webとソーシャルメディアの社会性を学ぶ。
3	ソーシャルメディアの分類	Webとソーシャルメディアの発展形態、サービスからみたソーシャルメディアの分類を学ぶ。
4	集合知とWeb2.0	集合知とは何か、Web2.0の出現とその影響、社会の変容について学ぶ。
5	情報検索	情報検索の仕組み、クローリング、インデクシング、ランキングを学ぶ。
6	情報推薦	情報推薦の仕組み、カスタマイズ、コンテンツフィルタリング、ユーザー協調について学ぶ。
7	ネットワークとしての社会	スモールワールド実験、ネットワークの評価指標、ネットワーク生成のモデルを学ぶ。
8	ソーシャルメディアによる社会分析	実ネットワークの分析と社会イベントの検出について学ぶ。
9	ソーシャルメディアにおけるユーザの心理(1)	コミュニケーション媒体としてのソーシャルメディアの特性と利用目的とユーザー心理との関係を学ぶ。
10	ソーシャルメディアにおけるユーザの心理(2)	ソーシャルメディアがパーソナリティ、対人関係、ユーザー行動に及ぼす影響を学ぶ。
11	Web社会における印象形成	Webと現実世界での印象形成、SNSにおける印象形成について学ぶ。
12	SNSプロフィールからの印象形成	SNSプロフィール、写真画像、身体的魅力の効果などについて学ぶ。
13	ソーシャルメディアの将来	大規模データからの特徴量圧縮の手法を学ぶ。
14	まとめ	学習内容を総括するディスカッションをおこない、得られた知識をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業終了後、受講生はクラス内での発表および討論について各自の発表内容、発言、担当教員のコメント、クラス内での質疑応答などを学内ネット（後述【情報機器】の項を参照のこと）にアップロードしてオンライン記録として情報共有すること。
予習復習として、テキストおよび毎回の授業で担当教員が指定する文献を熟読し、気づいた論点や疑問点については学内ネットにアップロードし授業内での発言に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
土方 嘉徳 (著)、「ソーシャルメディア論: 行動データが解き明かす人間社会と心理」、サイエンス社 (2020)、ISBN-13 ：978-4781914862

【参考書】
全体を通じての参考書は特に指定しない。
必要に応じて提示する。領域的な理解の助けとなる参考書は以下の通り：
【多言語環境】三上喜貴ほか、「言語天文台からみた世界の情報格差」、慶應義塾大学出版会(2014)、ISBN: 978-4-7664-2178-1
【ネットワーク構造の分析】村田剛志、「Pythonで学ぶネットワーク分析：ColaboratoryとNetworkXを使った実践入門」、オーム社(2019), ISBN:978-4-2742-2425
【ソーシャルメディアの特性】
土方 嘉徳 (著)、「Webでつながる―ソーシャルメディアと社会/心理分析」、サイエンス社 (2018)、ISBN: 978-4781914367
藤代 裕之 (著)、「ソーシャルメディア論・改訂版 つながりを再設計する」、青弓社(2019)、ISBN-13: 978-4787234490

【成績評価の方法と基準】
平常点25%
輪講25%
課題20%
学期末レポート30%
を総合的に評価する。
設定した達成目標を60％以上達成している場合に合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2018年度より日本語および中文のソーシャルメディア分析に取り組んでいる。留学生も含めてテキストの分析への履修学生の関心を喚起したい。また履修者少数の場合にも効率よく学習できるよう常に心がける。2021年度は担当教員が国内研究を取得、2022年度以降にはこの間の深化を盛り込んだ内容とした。最新の研究動向についても理解を深めるために2023年度には内外の研究論文を参考資料としても追加した。2025年度もその発展的な継続を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業においてノートPC、プロジェクタ、インターネット接続環境を使用する。また言語Pythonを用いた機械学習の問題解決に親しんで欲しい。学習成果の記録性を確保し各自の学習内容の相互参照性を高めるため、担当教員と履修者全員が編集するWikiやポートフォリオツール等のCMSを個々の研究科科目において使用する。各自の学習内容のポートフォリオ化に十分に活用して欲しい。

【その他の重要事項】
ジャンルキーワード：　**SNS**、**Web**、ビッグデータ、インターネット、ネット社会

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/hosei/detail.html?systemId=6bfb3150cb08858a&lang=ja

【担当教員の実務経験】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、統計モデルによる音声認識)、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course provides with perspectives on the Internet in the context of multi-cultural cyberspace. It focuses on social media and covers research methods and techniques to analyze user community and behavior as networked entity.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 25%
Analysis report on reading assignment: 25%
Homework: 20%
Term paper: 30%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI500G1 – 307（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

多文化情報メディア論 II

重定　如彦

サブタイトル：人工知能について学ぶ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　現在、大きな社会的注目を集めている人工知能について、古典的なチェスなどのゲームを題材とするAIからはじめ、近年注目を浴びている画像を認識するディープラーニングを用いたAIなどを題材とした実習を行いながらその仕組みについて学び、人工知能ができる事、できない事について理解できるようにする。
　また、人工知能が社会に与える影響などについて考察する。

【到達目標】
人工知能の基礎を学ぶ。
人工知能が社会に与える影響について自分なりの考察を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　人工知能について、古典的なチェスのようなゲームにおける手法から始め、最近注目を浴びてきているディープラーニングを使った画像認識に至るまで、具体的にその仕組みについて実習を行いながら学習していく。
　授業では、あらかじめ与えたテーマについて各自が発表し、その内容についての議論なども行う。
　学生の理解度に応じて、実際に動作する、簡単な人工知能のプログラミングの実習などを行うことも考えている。
　リアクションペーパーや課題などを課した場合、提出は学習支援システムで行う。また、そのフィードバックは必要に応じて提出後の授業の冒頭で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	人工知能の定義と歴史	授業の導入及び、人工知能の定義や歴史について学ぶ
2回	ゲームの人工知能	○×ゲームやチェスなど、ゲームにおける人工知能の考え方について学ぶ
3回	ゲーム木と探索	ゲームを題材とした人工知能における、古典的な手法であるゲーム木とその探索について学ぶ
4回	αβ法と、枝刈り	ゲーム木の探索を効率的に行うための手法の一つであるαβ法と、ゲーム木の枝刈について学ぶ
5回	様々な探索手法	ゲーム木の様々な探索手法について学ぶ
6回	評価関数	状況を数値化するための手法（評価関数）について学ぶ
7回	機械学習とディープラーニング	機械学習の基礎とその種類について学ぶ
8回	ニューラルネットワーク	ディープラーニングの基礎となるニューラルネットワークについて学ぶ
9回	画像の分類	機械学習を用いた画像認識について学ぶ
10回	ディープラーニングによる学習	人工知能がディープラーニングにおいて、どのように学習していくかについて学ぶ
11回	機械学習における様々な手法	機械学習で用いられる様々な手法について学ぶ
12回	人工知能の問題点	人工知能が抱える問題点や、限界などについて学ぶ
13回	社会に与える影響	人工知能が社会に与える影響について議論する
14回	まとめ	授業で学んだことのまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　前半は教科書を指定しないが、授業で学んだことをしっかりと復習し、授業内で提示する次回の授業のテーマについて予習する。
　後半は教科書を読んで予習を行い、授業で学んだことをしっかりと復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
下記のPythonで○×ゲームのAIを作成する記事。
https://qiita.com/ysgeso/items/04deccdfe7ec15314c48
「ゼロから作るDeep Learning ―Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装」　斎藤 康毅　オライリー・ジャパン
その他、必要に応じて授業内で提示する。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
「配分」
　平常点25％、授業内での発表や議論50％、レポート25％
「評価基準」
　発表及びレポートは、読解の正確さ、発表資料またはレポートの適切さ等によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
　プログラミングを行うのでノートパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞情報科学
＜研究テーマ＞ユビキタスコンピューティング、分散OS、ユーザインタフェース
＜主要研究業績＞
「デジタルミュージアムのためのキオスク型WWWブラウザ」、電子情報通信学会論文誌, vol.J85-D1, No.3, 2002年3月
「分散ハイパーメディアOS Net-BTRONにおけるハイパーメディアサービス管理機構」、情報処理学会論文誌,2001年6月
A Distributed Hypermedia Operating System: Net-BTRON, In Proceedings of the 2000 International Conference on Communication Technology, IFIP ICCT2000/WCC2000, vol.2 (Aug.2000)
Yukihiko Shigesada, Shinsuke Kobayashi, Noboru Koshizuka, and Ken Sakamura, "ucR Based Interoperable Spatial Information Model for Realizing Ubiquitous Spatial Infrastructure," 34th Annual IEEE Computer Software and Application Conference (COMPSAC2010), pp. 303 - 310, July
19 - 23, 2010.

【Outline (in English)】
The objectives of this class are to learn about basics of artificial intelligence, and disscuss about influence of artificial intelligence on our society.
　In the first half of the class, the textbook is not specified, but students are expected to review what they have learned in the class and prepare for the next class topic to be presented in class.
　In the second half, students are expected to read the textbook and review what they have learned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
　Ordinary points: 25%, presentations and discussions in class: 50%, reports: 25%.
Evaluation Criteria
　Presentations and reports will be evaluated on the basis of accuracy of reading, appropriateness of presentation materials and reports, etc.

LNG500G1 – 308

外国語実践研究A（英語）

MARK E FIELD

備考（履修条件等）：初回授業に出席し、受講許可を得ること

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. Most graduate students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country. Study Abroad experiences like those the faculty's undergraduates experience or when foreign students do their graduate studies outside their home countries are sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students and graduate students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline (in English)】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. Most graduate students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country. Study Abroad experiences like those the faculty's undergraduates experience or when foreign students do their graduate studies outside their home countries are sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

LNG500G1 – 308

外国語実践研究A（ドイツ語）

小川　敦

備考（履修条件等）：初回授業に出席し、受講許可を得ること

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。
今後専門的な文献を読んでいくためのドイツ語力を身につけます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
内容を吟味しながらテクストを読んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容をある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その４	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その５	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その６	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いてzu不定詞句の使い方に注意して読みます。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その７	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その８	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その９	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その１０	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その１１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。予習・復習ともに重要です。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加30％、中間試験30％、期末試験40％とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできると思います。授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。
大学院生には学部学生とは別の試験を用意します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 30%
Midterm examination 30%
Final examination 40%

LNG500G1 – 308

外国語実践研究A（ロシア語）

佐藤　千登勢

備考（履修条件等）：初回授業に出席し、受講許可を得ること

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし、維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画を視聴してロシアやエストニアの文化や社会に触れ、ロシア語の文法力とリスニングの力を高めると同時に慣用表現、決まった口語表現を覚えて使えるようにします。

【到達目標】
ロシア語能力検定試験３級程度、またロシア語検定試験（ＴＲＫИ）基礎レベル（A2）から第1レベル（B1）のロシア語運用能力（聴解と文法）を身につけること、その能力の維持を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ロシア語の動画を視聴して質疑応答に答え、文法とリスニングの力がつくように進めます。映像や説明文を通して、ロシアやエストニアの文化や慣習を楽しみながら知ることも可能となります。小テストのフィードバックは翌週の教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	What Estonians Think about Russian? 1	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタヴュー。リスニングと質疑応答。
第3回	What Estonians Think about Russian? 2	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタヴューの続き。リスニングと質疑応答。
第4回	What Estonians Think about Russian? 3	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタヴューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第5回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 1	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタヴュー。リスニングと質疑応答。
第6回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia?　2	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタヴューの続き。リスニングと質疑応答。
第7回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 3	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタヴューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第8回	ЭСТОНЦЫ - "БАЛТИЙСКИЕ ТИГРЫ". ПОЧЕМУ ОНИ ТАК УСПЕШНЫ? 1	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説。リスニングと質疑応答。
第9回	ЭСТОНЦЫ - "БАЛТИЙСКИЕ ТИГРЫ". ПОЧЕМУ ОНИ ТАК УСПЕШНЫ? 2	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。
第10回	ЭСТОНЦЫ - "БАЛТИЙСКИЕ ТИГРЫ". ПОЧЕМУ ОНИ ТАК УСПЕШНЫ? 3	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第11回	Минусы жизни в Эстонии 1	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説。リスニングと質疑応答。
第12回	Минусы жизни в Эстонии 2	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。
第13回	Минусы жизни в Эстонии 3	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第14回	これまでのまとめ	これまで培ってきたロシア語の表現を確認する簡単な小テストの実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で視聴した動画内容の習得のために、１回につき1.5時間程度の予習・復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付、もしはくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテクスト選びを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
予習と復習の際、ネット上の動画を視聴する環境が必要となります。教場では、PC持参の必要はありません。

【Outline (in English)】
●Course outline
The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and listening skills. We would like to share the pleasure of learning about the culture and customs of Russia and Estonia through the short movies in Russian.
●Learning Objectives
The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far (A2 to B1 in the CEFR).
●Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours for class review.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (80 %) and quizzes (20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LNG500G1－309

外国語実践研究Ｂ（ロシア語）

佐藤　千登勢

備考（履修条件等）：初回授業に出席し、受講許可を得ること

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア映画を３編とりあげ、それぞれの作品に関する解説文をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。ロシア語の読解力と聴解力を身につけること、維持することが目的となります。読解についてはＴＲＫИ第１レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアやウクライナの日常や慣習、歴史について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】
読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア(ソ連）映画の解説文・作品論をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、ＴＲＫИ第１レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や世相に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ロシア（ソ連）映画の３つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を部分的に鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。『火の馬』（1964）は、ウクライナの少数民族の神秘的な伝説を描いた不朽の名作。『太陽に灼かれて』（1994）はスターリン体制下の人間模様を描いた歴史的心理ドラマ。『夏の終止符』（2010）はソ連時代を象徴する上司と新生ロシアを象徴する実習生の青年、ただ二人によって展開される驚くべき心理劇です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第2回	映画"Тени забытых предков" について1	"Тени забытых предков"の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第3回	映画"Тени забытых предков"について2	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画"Тени забытых предков"について3	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画"Утомлённые солнцем"について1	"Утомлённые солнцем"の概要と内容について読解。映画を鑑賞。
第6回	映画 "Утомлённые солнцем"について2	"Утомлённые солнцем" の内容について続きを読解。映画の一部を鑑賞。
第7回	映画 "Утомлённые солнцем"について3	"Утомлённые солнцем" の内容、反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第8回	映画 "Утомлённые солнцем"について4	"Утомлённые солнцем" の反響について続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画 "Утомлённые солнцем"について5	"Утомлённые солнцем" の反響について続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画 "Какя провёл этим летом"について1	"Какя провёл этим летом" を分析した論文を読解。映画の一部を鑑賞。
第11回	映画 "Какя провёл этим летом"について2	"Какя провёл этим летом" を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第12回	映画 "Какя провёл этим летом"について3	"Какя провёл этим летом" を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第13回	映画 "Какя провёл этим летом"について4	"Какя провёл этим летом" を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第14回	まとめと確認	小テストと解説（フィードバック）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
映画作品に関するテクスト読解の予習に、１回につき２時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【その他の重要事項】
生成AI翻訳機能等の使用は、履修者の読解力向上にはまったく役に立ちません。辞書をひき、考えながら読む努力を惜しまないでください。

【Outline (in English)】
●Course outline
We will pick up some Russian film works, read the texts about them in Russian, and watch some scenes from the films while checking the texts. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about the daily life, customs and history of Russia and Ukraine.
●Learning Objectives
Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and social conditions.
●Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80％) and quizzes (20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

OTR500G1 – 401（その他 / Others 500）

Thesis Writing A

MAXIM WOOLLERTON

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a writing and presentation course with a focus on enabling students to produce long-form academic writing in English. The aim of this course is to assist students in becoming effective writers who are able to express their critical thinking and organisational skills and present those ideas to others in English.

【到達目標】
The main goals are as follows:
1. Students will develop the skills to conceive and organise ideas for writing;
2. Students will develop the ability to research information to use in long-form pieces of academic writing;
3. Students will work on writing and editing long-form pieces of academic writing;
4. Students will examine ways to present their writing to an audience.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students' work will include the following activities:
1. Writing various kinds of academically-oriented material;
2. Asking and answering questions with a partner or in small groups about the material;
3. Reading comprehension and analysis of paragraphs, essays and presentation scripts;
4. Researching and evaluating information to use in written work;
5. Peer editing the written work of students;
6. Reading and responding to the written ideas of other students in the class.
Feedback will be provided by email, through the messaging system in the Study Centre website, and face-to-face in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 / Week 1	Orientation	Course introduction and explanation; getting information on students' backgrounds and needs; level checking of students' English
第 2 回 / Week 2	Textbook, Unit 1: What is a Research Paper?	Characteristics of research papers; primary vs secondary research papers; research paper structure and length; using formal English
第 3 回 / Week 3	Textbook, Unit 2: Topics for Research Papers	Finding topics; narrowing topics; deciding on suitable topics; using objective language
第 4 回 / Week 4	Supplementary material 1	Understanding brainstorming methods and processes
第 5 回 / Week 5	Textbook, Unit 3: Research (part 1)	Beginning research; secondary research steps; third stage research steps; using appropriate sources
第 6 回 / Week 6	Textbook, Unit 3: Research (part 2)	Notetaking while researching; assessing quantity/quality of information; creating a record of information; changing topic and focus
第 7 回 / Week 7	Research Week 1	Students will spend the week doing independent research on a topic of their choice.
第 8 回 / Week 8	Research Week 2	Students will spend a second week doing independent research on a topic of their choice.
第 9 回 / Week 9	Textbook, Unit 4: The Beginning Thesis Statement	Understanding the purpose, format, content and structure of thesis statements; evaluating thesis statements
第 10 回 / Week 10	Textbook, Unit 5: The Working Outline	Using appropriate working outlines at different stages of the organizational process
第 11 回 / Week 11	Supplementary material 2 / Textbook, Unit 6: Revising the Thesis Statement and Working Outline	Understanding logical organizational patterns / Checking that the thesis statement and working outline match; making changes if necessary
第 12 回 / Week 12	Textbook, Unit 7: Writing the First Draft	Preparing to write; understanding the requirements; basic formatting
第 13 回 / Week 13	Writing Week 1	Students will spend the week writing on a topic of their choice.
第 14 回 / Week 14	Writing Week 2	Students will spend a second week writing on a topic of their choice.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to do homework, mainly in the form of writing based on activities and content covered in the class and preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】
Basic Steps to Writing Research Papers (Second Edition) by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. Published by National Geographic Learning/Cengage Learning. ISBN: 978-4-86312-308-3

【参考書】
Not applicable.

【成績評価の方法と基準】
In-Class Performance 100% The evaluation criteria are as follows: The total percentage will be accumulated from student classwork participation scores (35%), homework scores (35%), finished written submissions (30%). There is an absence limit of 3 classes and a lateness limit of 20 minutes. Lateness in excess of 20 minutes is counted as absence. Three times late is counted as one absence. Students who exceed the limit will not pass the course. Absences and lateness will result in a reduction in points from the classwork score.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a digital device with the ability to connect to the Internet. A laptop computer or a tablet would be the best kind of device to use.

【その他の重要事項】
In order to prevent the misuse of generative AI and provide equality all writing and speaking activities will be conducted only in class and without the use of AI. For further information about any of the points in this syllabus, please contact the instructor by email at hosei2026@woollerton.com.

【担当教員の専門分野等】
1. Education technology and English Language Teaching (ELT); 2. British social, political and economic history. A list of publications can be found here: https://researchmap.jp/MaximJpn310887

OTR500G1 – 402（その他 / Others 500）

Thesis Writing B

MAXIM WOOLLERTON

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a writing and presentation course with a focus on enabling students to produce long-form academic writing in English. The aim of this course is to assist students in becoming effective writers who are able to express their critical thinking and organisational skills and present those ideas to others in English.

【到達目標】
The main goals are as follows:
1. Students will develop the skills to conceive and organise ideas for writing;
2. Students will develop the ability to research information to use in long-form pieces of academic writing;
3. Students will work on writing and editing long-form pieces of academic writing;
4. Students will examine ways to present their writing to an audience.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students' work will include the following activities:
1. Writing various kinds of academically-oriented material;
2. Asking and answering questions with a partner or in small groups about the material;
3. Reading comprehension and analysis of paragraphs, essays and presentation scripts;
4. Researching and evaluating information to use in written work;
5. Peer editing the written work of students;
6. Reading and responding to the written ideas of other students in the class.
Feedback will be provided by email, through the messaging system in the Study Centre website, and face-to-face in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 / Week 1	Orientation to Semester 2	This schedule assumes that the students who were enrolled in Thesis Writing A continue in Semester 2 in Thesis Writing B. If this is not the case, a revised schedule will be used, incorporating elements from Thesis Writing A. Course introduction and explanation; getting information on any new students' backgrounds and needs; level checking of (new) students' English
第 2 回 / Week 2	Textbook, Unit 8: Writing the Title	The format and content of titles for research papers; practice title writing; writing a title for the paper written in Semester 1 or a new paper for Semester 2
第 3 回 / Week 3	Textbook, Unit 9: Writing the Introduction / Writing Week 1	The purpose of the introduction; components, length and structure of the introduction; writing an introduction for the paper written in Semester 1 or a new paper for Semester 2
第 4 回 / Week 4	Textbook, Unit 10: Support, Accuracy, Logic and Relevance	Understanding different kinds of support; the importance of good support, accuracy, logic and relevance
第 5 回 / Week 5	Textbook, Unit 11: Writing the Body / Writing Week 2	Using support, accuracy, logic and relevance when writing the body of a research paper; re-writing the body for the paper written in Semester 1 or a new paper for Semester 2
第 6 回 / Week 6	Writing Week 3	Re-writing the body for the paper written in Semester 1 or a new paper for Semester 2
第 7 回 / Week 7	Textbook, Unit 12: Writing the Conclusion	The purpose of the conclusion; components, length and structure of the conclusion; writing a conclusion for the paper written in Semester 1 or a new paper for Semester 2
第 8 回 / Week 8	Textbook, Unit 13: Avoiding Plagiarism; Citing and Quoting Sources	Understanding what plagiarism is; understanding how to avoid plagiarism; what citations and quotations are and how to use them in research papers
第 9 回 / Week 9	Textbook, Unit 14: Writing the Reference List	What reference lists look like and the correct ways to write references
第 10 回/ Week 10	Textbook, Unit 15: Evaluating and Rewriting Your Paper	Why evaluating a paper is important; the stages to follow when evaluating a paper
第 11 回/ Week 11	Evaluation Week	Students will spend the week evaluating written work created in Semester 1 or Semester 2.
第 12 回/ Week 12	Re-writing Week 1	Students will spend the week re-writing work created in Semester 1 or Semester 2.
第 13 回/ Week 13	Re-writing Week 2	Students will spend a second week re-writing work created in Semester 1 or Semester 2.
第 14 回/ Week 14	Re-writing Week 3	Students will spend a third week re-writing work created in Semester 1 or Semester 2.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to do homework, mainly in the form of writing based on activities and content covered in the class and preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】
Basic Steps to Writing Research Papers (Second Edition) by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. Published by National Geographic Learning/Cengage Learning. ISBN: 978-4-86312-308-3

【参考書】
Not applicable.

【成績評価の方法と基準】
In-Class Performance 100% The evaluation criteria are as follows: The total percentage will be accumulated from student classwork participation scores (35%), homework scores (35%), finished written submissions (30%). There is an absence limit of 3 classes and a lateness limit of 20 minutes. Lateness in excess of 20 minutes is counted as absence. Three times late is counted as one absence. Students who exceed the limit will not pass the course. Absences and lateness will result in a reduction in points from the classwork score.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a digital device with the ability to connect to the Internet. A laptop computer or a tablet would be the best kind of device to use.

【その他の重要事項】
In order to prevent the misuse of generative AI and provide equality all writing and speaking activities will be conducted only in class and without the use of AI. For further information about any of the points in this syllabus, please contact the instructor by email at hosei2026@woollerton.com.

【担当教員の専門分野等】
1. Education technology and English Language Teaching (ELT); 2. British social, political and economic history. A list of publications can be found here: https://researchmap.jp/MaximJpn310887

OTR500G1 － 403（その他 / Others 500）

Oral Presentation

MARK　E　FIELD

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Good communication skills are necessary for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students with a strong desire to improve their English language presentation skills. The course will focus on helping students talk about their current research theme in English and acquiring the language skills used in Oral Presentations given in English.

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' communications skills and confidence as public speakers. Course content will include listening and vocabulary development, as well as extensive practice in using spoken English as a presentation tool. The main theme of students' presentations will be based on their current research interests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP3」と「DP4」の達成のために特に重要であり,「DP2」の達成のために重要である。また,「DP1」の達成のために望ましい。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review and practice at home for in-class presentations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Presentations and Speeches: What is the Difference?
2 回	Structure:	The Types of Language Used in an Oral Presentation
3 回	Presentation #1:	Presenting Your Background & Research Interests
4 回	Learning Strategy:	Assessing Your Skills
5 回	Types of Communication:	Thinking About and Using Visual Aids Part I
6 回	Presentation #2:	Introducing Geographical Locations
7 回	Expanding Discourse:	Exchanging Information
8 回	Reflective Communication:	Planning Your Presentation
9 回	Presentation #3:	Presenting Books and Research Material
10 回	Types of Communication:	Thinking About and Using Visual Aids Part II
11 回	Expanding Discourse:	Controlling Your Presentation Environment
12 回	Putting It All Together:	Talking About Main Points
13 回	Putting It All Together:	Clearing up Confusing Ideas
14 回	Final Assessment:	Presentation of Your Research Theme

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. Effective presentations depend on sufficient preparation and practice, so students will need to prepare and practice outside of class before giving their in-class presentations.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some reading materials related to Oral Presentation Skills.

【参考書】
Students will be expected to bring in reading materials related to their current research interests.

【成績評価の方法と基準】
30% On-going Evaluation participation, discussions etc.
20% Homework
50% In-class Presentations
** Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the academic semester.

【学生の意見等からの気づき】
Previous students were happy with this course and currently no data is available to support changing it. However, the instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
We will use some OHC (Over Head Camera) and/or PC (Personal Computer) equipment to Present Visual Aids.

【その他の重要事項】
The instructor reserves the right to change or alter this syllabus as needed.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
異文化間コミュニケーション、西洋思想史、経済学、言語学
＜研究テーマ＞
文化の変化と西洋思想の進化
＜主要研究業績＞
国際線の代わりとなるスロートラベルは存在するか？
"Is There a 'Slow Travel' Alternative to Intercontinental Flight?" 異文化 13, 117-182, 2012/04
ピネチェト政治後のチリにおける文化的ヒーローの発見 "Discovering a Cultural Hero in Post-Pinochet" 異文化 9, 113-166, 2008/04
Communication, Culture, Diffusion and Education: The Complexity of Intercultural Communication, Learning from the Past and Looking to the Future 法政大学 教養部紀要 111/ 外国語学　外国文学, 141-166, 2000/02

SOS500G1 – 405（その他の社会科学 / Social science 500）

国際協力論

松本　悟

サブタイトル：協力とは何かを考える

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、国際開発協力で取り上げられる様々な「当たり前」を問い直し、「当たり前」の背景に存在する優位・劣位に立つ文化について考える。授業を通じて、履修した学生は、当初思いこんでいた「善い開発」を批判的に捉える分析軸を修得する。

【到達目標】
(1) 授業で取り上げた概念や術語（テクニカルターム）について説明できる。
(2) 当該分野の文献を批判的に読むことができる。
(3) 課題文献や授業内の議論を踏まえて論理的に自分の考えを述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：入国できない留学生に配慮しつつ対面で行う。
■第1回は教員が担当し、第2回からは事前課題文献（日本語）をもとに学生が発表・議論する。進め方は以下の通り。
（1）履修者全員が事前課題文献（20頁程度を想定）を熟読し、①「この文献から重要だと考えた点」を最低3つ、②そう考えた理由、③そこから導いた論点（履修者同士で議論したい点）を発表する。
（2）（1）を共有した上で、履修者の間でその日議論したい点を絞り（全ての論点でもよい）議論する。
（3）必要に応じて教員が補足授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容についての説明、発表担当者の割り振りなど。
第2回	質を測ること	国際協力の前提である「不足」は測ることの意味を考える。
第3回	貧しい人が持っているもの	貧しい人は何も持っていないわけではない。「不足」ではなく「充足」に目を向けてみる。
第4回	1つの事例から言えること	国際文化研究では事例を扱うことが多い。1つの事例から言えることは何か、考える。
第5回	分業が生み出したもの	分業はどういう社会を作ったのかを考える。
第6回	予想できないこと	開発協力では事前調査が重要だと言われる一方で「想定外」も多い。開発協力の「想定外」について考える。
第7回	支援が届かないこと	緊急援助物資が届かないという批判はよく耳にする。そのメカニズムを考える。
第8回	資源があること	資源がないことが問題だと思われがちだが、資源があることは幸せなのか、考える。
第9回	「貧しい国」が援助すること	「先進国」ではない国も対外協力を行っている。援助は余裕のある国や人がやることなのか考える。
第10回	必要な組織ができないこと	国際協力を効果的に行うための組織がなかなか作られない背景を考える。
第11回	お手本を示すこと	国際協力にとって、お手本（モデル）とは何かを考える。
第12回	成功すること	失敗して止めれば失敗、成功するまで続ければ成功。国際協力の成功とは何かを考える。
第13回	依存すること	開発協力の目的は「自立」だというが、依存することは問題なのか、考える。
第14回	総合討議	春学期の授業全体を振り返った論点を抽出し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前課題文献は時間をかけて読み、課題に取り組むこと。
・毎回の授業で学んだことを短く学習支援システムに投稿すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐藤仁（2016）『野蛮から生存の開発論―越境する援助のデザイン―』（ミネルヴァ書房）

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）事前課題・発表60%（文献の理解、批判的考察、説得力のある論点抽出）
（2）授業後課題20%（授業内容の理解度）
（3）平常点20%（授業での積極的な発言・議論のファシリテート）

【学生の意見等からの気づき】
2025年度は休講としたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってはCanva等を使用するため、大学のネットワークに接続できるパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
・国際協力に15年近く携わった教員が具体的な経験に基づく事例も紹介しながらコメントする。
・履修者の研究関心によって、授業内容や課題文献を若干変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際開発研究
＜研究テーマ＞影響評価、国際組織、開発援助、NGO、メコン地域の開発と環境
＜主要研究業績＞
『国際協力と想像力』（主編者、日本評論社、2021年）
『調査と権力』（単著、東大出版会、2014 年）
『NGO と世界銀行』（主編者、ミネルヴァ書房、2012 年）
『人々の資源論』（分担執筆、明石書店、2008 年9 月）
『シリーズ国際開発　生活と開発』（分担執筆、日本評論社、2005 年9 月）
※詳しい研究業績は以下を参照のこと。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002838/detail.html?lang=ja&achievement=chosho

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to question our common sense related to international development cooperation and to discuss the superior/inferior "culture" behind it.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) to explain the concept of the technical terms covered at the class
2) to read the relevant literature critically
3) to express her/his opinion logically reflecting the literature or other opinions
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant literature assigned beforehand, and after the class, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
-Reading assignments and presentation at the class meeting: 60%
-Short reports after each class meeting: 20%
-Class contribution: 20%

POL500G1 – 406（政治学 / Politics 500）

国際人権論

藤岡　美恵子

サブタイトル：マイノリティの視点から考える人間の尊厳

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権は現代世界で常に重要な問題として扱われてきた。その保障は国際的に普遍的な課題として認識されており、何よりも、社会的に周縁化されてきた人々が自らの人間の尊厳を回復するための重要な手立てとして活用してきたのが人権であった。人権保障制度の発展は、そうした周縁化された立場の人々の尊厳を求める運動を契機に発展してきたと言ってよい。
しかし近代の国民国家体制とともに生まれた人権思想と制度は、その枠組みの中で排除や搾取の対象となってきた集団（先住民族、マイノリティ、移民）の尊厳を守るためには不十分、もしくは根源的な矛盾をはらむという課題に直面している。それに関係するのが植民地主義の継続である。植民地主義が終焉するどころか、新たな形態で継続しているという認識が広く支持されるようになっている現在、近代の人権保障の思想と制度が植民地主義の観点から再考されるようになっている。この課題は、ヘイトスピーチの台頭という重大な挑戦に直面する日本社会にとっても、きわめて重要な課題である。
また、「テロリズム」や移民・難民問題が焦点化し、排外主義が世界各国で高まるなか、国際的な人権保障体制に新たな課題が突きつけらている。本授業では、国際人権保障体制の発展を踏まえた上で、それが日本を含め世界のマイノリティや先住民族の人権にどのような影響をもたらしたのかを考察し、現代世界が直面する人権をめぐる危機を人種主義と植民地主義をキーワードに考えていく。とくに現代日本におけるレイシズムと多文化主義に焦点をあてる。
人権がともすれば「思いやり」の問題として考えられがちな日本において、人権が差別され周縁化されてきた集団による公正と尊厳を求める運動を契機に発展してきたことを理解することは、今後の日本社会の在り方を考えて行く上で意義が多い。どうすればあらゆる人々の尊厳を保障することができるのかを、人権を侵害されてきた／いる人々の立場から考える思考態度を身につけ、人権をめぐって生じている国際的な課題について批判的な理解・思考能力を養う。

【到達目標】
国際的な人権保障の体制や考え方がどのように進展してきたかを踏まえた上で、それが国内の人権保障とどのように関係しているかを理解し、20世紀終盤から21世紀にかけての国際秩序の変容の中で、人権の保障という課題がどのような矛盾や問題を抱えているのかを、植民地主義と人種主義というキーワードを使って整理し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」の達成のために特に重要であり，「DP2」と「DP3」の達成のために重要である

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業とする。各回の指定テキストの報告発表と討論で進める。期末に小論文形式の試験を行う。初回授業を含め、授業参加の方法、各種お知らせは学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：日本における人権に関する認識／国際人権の発展とマイノリティ	授業内容・授業計画の説明。人権とは何か。人権がなぜ必要なのか。人権は人間社会においてどのような位置をもつのか、第2次大戦後の国際人権の発展とマイノリティの関係を考える。
第2回	国際人権の発展と21世紀の課題 [テキスト] 阿部（2010）「国際法への眼差し――序にかえて」、阿部（2010）第2章「愚かしき暴力と、国際人権の物語」	国際法の起源と国際人権の誕生、国際法と植民地主義の関係を考える。
第3回	変容する世界と国際人権 [テキスト] 阿部（2010)第1章「「人間の終焉」――国際法における〈再びの19世紀〉」	冷戦終結と９・１１以降、「テロリズム」という記号が動員される中での人権の後退と新たな問題を考える。
第4回	日本におけるマイノリティの権利①～戦後の旧植民地出身者の権利に関する政府の対応 [テキスト] 岡本（2024）第2部第3章「戦後日本のマイノリティ・ライツ回避」	在日朝鮮人の権利保障の欠如の歴史的経過をたどる。
第5回	日本におけるマイノリティの権利②～マイノリティの権利侵害と国連人権保障制度 [テキスト] 岡本（2024）第2部第6章「マイノリティ・ライツの無視と侵害～同化政策への補償と回復措置」	在日朝鮮人の権利がどのように侵害されているか、その是正のために国際人権制度がどう活用されているかを知る。
第6回	植民地主義と先住民族の自決権 [テキスト]上村（2015）（第4章「日本と「北海道」「沖縄」の植民地化」、第5章「「尖閣諸島」問題と琉球民族の領土的権利）	日本によるアイヌ・沖縄への植民地支配の歴史と先住民族の自決権を理解する。
第7回	日本社会における先住民族の権利 [テキスト]上村（2024）第3部第1章「先住民族の権利の特徴――集団の権利と歴史の権利（近代史の修復）」、第3章「日本社会は先住民族の権利をどう扱ってきか――単一民族国家神話との闘い」、第4章「アイヌ民族と琉球民族の現状――多くの課題と多数者の義務・責任」第5章「脱植民地化の文脈で法的拘束力と自己決定権を考える」	国際人権法における先住民族の権利の進展およびアイヌ民族と琉球民族への植民地化がどのように行われ、現在、先住民族としての権利がどのように侵害されているのを理解し、自己決定権をめぐる現代日本社会の課題を考える。
第8回	ヘイトスピーチの被害と人権 [テキスト]朴「京都朝鮮学校襲撃事件」、鄭「ヘイトスピーチ被害の非対称性」	近年問題になっているヘイトスピーチがどのような被害をもたらすのかを理解する。
第9回	ヘイトスピーチへの対応 [テキスト]阿部（2019）「国際人権法によるヘイトスピーチの規制」、中村「ヘイトスピーチの修復的アプローチを考える」	ヘイトスピーチに対して国際人権法がどう規制しているか、またヘイトスピーチを乗り越える一つの方法としての修復的アプローチを考える。

第10回	シティズンシップとレイシズム [テキスト]梁「シティズンシップに潜むレイシズム」	シティズンシップとレイシズムがどのような関係にあるのか、日本の市民権制度・入管制度を取り上げて考える。
第11回	植民地主義の克服と「多文化共生」論 [テキスト]藤岡「第1章　植民地主義の克服と「多文化共生」論」	北朝鮮バッシングを手がかりに、日本の「多文化共生」論と植民地主義の克服という課題の関係を考える。
第12回	「多文化共生」におけるマジョリティとマイノリティ [テキスト]高谷「移民・多様性・民主主義――誰による、誰にとっての多文化共生か」、塩原「多文化共生がヘイトを超えるために」	「多文化共生」政策が移民、マイノリティへのレイシズムをなくすことにつながるのかを考える。
第13回	多文化主義と人権の未来 [テキスト]阿部（2010）第4章「要塞の中の多民族共生／多文化主義」」	EUを例に多文化主義を標榜する社会における新たな排除の問題を考える。
第14回	まとめ／期末試験講評	授業のまとめと期末試験講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキストを事前に読み、報告者に指定された回は要約を作成し授業当日に発表する。毎回、授業でのディスカッションに備えて準備を行う。本授業の準備時間は各4,5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
★印は指定書　要購入。その他はプリントを配布
①★阿部浩己『国際法の暴力を超えて』岩波書店、2010年（「序に変えて」、第1章、第2章、第4章）
②阿部浩己「国際人権法によるヘイトスピーチの規制」法学セミナー編集部編『別冊法学セミナー　ヘイトスピーチに立ち向かう』日本評論社、2019年
③上村英明『新・先住民族の「近代史」：植民地主義と新自由主義の起源を問う』平凡社、2015年（第4章「日本と「北海道」「沖縄」の植民地化」、第5章「「尖閣諸島」問題と琉球民族の領土的権利）
④上村英明「第3部第1章　先住民族の権利の特徴――集団の権利と歴史の権利（近代史の修復）」、　「第3部第3章　日本社会は先住民族の権利をどう扱ってきか――単一民族国家神話との闘い」、「第3部第4章　アイヌ民族と琉球民族の現状――多くの課題と多数者の義務・責任」「第3部第5章　脱植民地化の文脈で法的拘束力と自己決定権を考える」岡本・上村・窪・朴金・朴『マイノリティ・ライツ　国際基準の形成と日本の課題』現代人文社、2024年
⑤岡本雅享「第2部第3章　戦後日本のマイノリティ・ライツ回避」、「第2部第6章　マイノリティ・ライツの無視と侵害～同化政策への補償と回復措置」岡本・上村・窪・朴金・朴『マイノリティ・ライツ　国際基準の形成と日本の課題』現代人文社、2024年
⑥塩原良和「多文化共生がヘイトを超えるために」岩渕功一『多様性との対話――ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社、2021年
⑦高谷幸「移民・多様性・民主主義――誰による、誰にとっての多文化共生か」岩渕功一『多様性との対話――ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社、2021年
⑧鄭暎惠「ヘイトスピーチ被害の非対称性」法学セミナー編集部編『別冊法学セミナー　ヘイトスピーチとは何か――民族差別被害の救済』日本評論社、2019年
⑨中村一成「ヘイトクライムへの修復的アプローチを考える」法学セミナー編集部編『別冊法学セミナー　ヘイトスピーチに立ち向かう』日本評論社、2019年
⑩朴貞任「京都朝鮮学校襲撃事件――心に傷、差別の罪、その回復の歩み」法学セミナー編集部編『別冊法学セミナー　ヘイトスピーチとは何か――民族差別被害の救済』日本評論社、2019年
⑪藤岡美恵子「植民地主義の克服と「多文化共生」論」中野憲 志編『制裁論を超えて――朝鮮半島と日本の〈平和〉を紡ぐ』新評論、 2007年
⑫梁　英聖「シティズンシップに潜むレイシズム」『思想』2021年9月号

【参考書】
①石原真衣『〈沈黙〉の自伝的民族誌――サイレント・アイヌの痛みと救済の物語』北海道大学出版会、2020年
②岩崎稔他『継続する植民地主義―ジェンダー/民族/人種/階級』青弓社、2005年
③植木哲也『植民学の記憶――アイヌ差別と学問の責任』緑風出版、2015年
④岡和田晃／マーク・ウィンチェスター『アイヌ民族否定論に抗する』河出書房新社、2015年
⑤グッドマン、ダイアン・J『真のダイバーシティをめざして　特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』出口真紀子監訳、田辺希久子訳、上智大学出版、2017年
⑥塩原良和『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義――オーストラリアン・マルチカルチュラリズムの変容』三元社、2005年
⑦永原陽子編『「植民地責任」論―脱植民地化の比較史』青木書店、2009年
⑧西川長夫『〈新〉植民地主義論――グローバル化時代の植民地主義を問う』平凡社、2006年
⑨樋口直人『日本型排外主義―在特会・外国人参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会、2014年
⑩松島泰勝『琉球　奪われた骨――遺骨に刻まれた植民地主義』岩波書店、2018年
⑪アルベール・メンミ『人種差別』法政大学出版局、1996年
⑫テッサ・モーリス＝鈴木『辺境から眺める――アイヌが経験する近代』みすず書房、2000年
⑬梁英聖『日本型ヘイトスピーチとは何か』影書房、2016年

【成績評価の方法と基準】
・平常点50%（発表、討論への参加）、期末試験50％
・発表については、指定テキストの内容の報告だけでなく、討論のための論点の提示を求める。
・討論への参加については、内容の理解に加え、討論の進行を助け、他の参加を促すような積極的な疑問の提示、意見表明を評価する。
・期末試験は、予め提示する２，３題の質問に対する小論文形式で行う。答案の提出日は第13回授業と第14回授業の間で後日指定（学習支援システムを通じて提出）。

【学生の意見等からの気づき】
本授業を受講する以前は人権問題についてよく知らなかったため、当初は内容を理解するのに精一杯だったが、次第に知的関心を刺激されるようになり、授業をとってよかったという受講生の意見を踏まえ、日本国内の問題を中心に、できるだけ具体的な問題を取り上げて関心をもてるように工夫した。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際人権論（マイノリティ、先住民族の権利）、NGO論、植民地主義
＜研究テーマ＞人種主義と植民地主義と平和
＜主要研究業績＞
「部落女性の「不可視化」とフェミニズム―レイシズムとしての無関心」（『部落フェミニズム』エトセトラブックス、2025年）
'Condemning J. Mark Ramseyer's Paper "On the Invention of Identity Politics: The Buraku Outcastes in Japan" ' in The Asia-Pacific Journal: Japan Focus, Volume 19, Issue 9, Number 8, 2021.
「戦争を止めることが人権を守ること」（『終わりなき戦争に抗う』新評論、2014年）
『脱「国際協力」――開発と平和構築を超えて』（新評論、2011年）
「資源開発への異議申し立てと先住民族の自己決定権」（東日本部落解放研究所『明日を拓く』第80号、2009年）、
「「植民地主義の克服と「多文化共生」論」（『制裁論を超えて――朝鮮半島と日本の〈平和〉を紡ぐ』新評論、2007年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The guarantee of human rights has been considered an issue of universal importance in the modern world. More importantly, socially marginalized groups of people have used human rights to restore their human dignity, contributing to the development of the international human rights systems.
However, the ideas and systems of human rights which were born along with the development of the modern nation-state system now face serious challenges: one is that they are insufficient in, or in fundamental contradictions with, the protection of human dignity of groups of people who have been excluded or exploited in that system. One factor behind it is the continuation of colonialism. The human rights protection systems are now being reconsidered from that perspective.

In this course, the participants will learn how the international human rights protection systems have developed and what impact they have brought to minority and indigenous groups in Japan and elsewhere. They will consider the challenges posed to the international human rights protection systems using racism and colonialism as key concepts. A particular focus will be put on the issues of racism and multiculturalism in present-day Japan. The course provides the participants an opportunity to acquire critical thinking abilities on the issues of human rights and the perspective of the marginalized/discriminated against in thinking about how human rights can be respected for all.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to develop an understanding of how the international human rights system has developed and how it is related to the protection of human rights within national borders, what kind of challenges the world is facing in the changes of the international order since the end of the 20th century and how those issues can be explained with the keywords of colonialism and racism.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to have read the relevant text, prepare a summary (when designated) and be ready for class discussion. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the following. Term-end examination: 50%; In-class contribution: 50%

OTR500G1 – 501（その他 / Others 500）

国際文化研究日本語論文演習Ａ

板井　美佐

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、日本語の論理的文章を読んだり書いたりする練習を通じて日本語を読み書きする能力を拡充し、専門分野の修士論文を書くための基礎力を身につける。

【到達目標】
・一定分量の専門的レベルの日本語の文章の論旨を正確に読み取ることができる。
・一定分量の専門的レベルの日本語の文章を指定された字数で要約できる。
・与えられたテーマで800～1200字程度の小論文を書くことができる。
・自分の修士論文についてレジュメを作成し、定められた時間で口頭発表できる。
・専門的レベルの日本語の文章やテーマについて、日本語で自分の感想や意見を述べ、他の意見を良く理解して、議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP4」の達成のために特に重要であり,「DP1」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
第１回の授業では、受講生に作文を書いてもらい日本語レベルを確認します。第2回では、自己紹介と修士論文のテーマについて作文し、日本語の文章力と研究テーマ等を確認します。第3回から第８回は、学術的・専門的な日本語の文章を課題文として配布し、正確に読めるよう確認した後、指示された字数で要約文を書く練習をします。提出された各人の要約文は、すべて添削して返却します。その後、課題文のテーマについて、全員が感想や意見を出し合い討議します。以上の要約練習により、文章の論理的展開の筋道を読み取ることから、論文の論理的構成の重要性を学びます。第９回から第12回は、小論文を書く練習をします。400字から始め、1200字程度の小論文を書くことを目標に練習しつつ、論理展開や段落構成の基礎を学びます。提出された小論文は、すべて添削して返却します。第13回と第14回は、必要に応じて、7月の概要発表会の準備をします。レジュメの書き方を学び、口頭発表の練習をします。学習内容・方法や難易度は、受講する学生の日本語の水準や希望等に合わせて適宜変更します。
学習支援システムを利用する際は、添削した課題に説明を加えて返却します。対面授業では、次回授業までに添削して返却し、必要に応じて説明をします。各回の授業の内容に応じて、受講生が積極的に意見交換を行う時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介スピーチ・作文	授業の目的と方針、学び方の説明 受講者の日本語レベル確認、受講者の希望確認
第2回	自己紹介と修士論文のテーマについて作文する	前回の作文を添削して返却、添削部分について質疑応答、受講生の修士論文のテーマを作文によって確認
第3回	課題文①	【演習１】前回の作文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文①の音読確認、要約文の書き方を講義、要約文を書き提出
第4回	課題文②	【演習２】前回の要約文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文①について討議、課題文②音読確認、要約文を書き提出
第5回	課題文③	【演習３】前回の要約文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文②について討議、課題文③音読確認、要約文を書き提出
第6回	課題文④	【演習４】前回の要約文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文③について討議、課題文④音読確認、要約文を書き提出
第7回	課題文⑤	【演習５】前回の要約文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文④について討議、課題文⑤音読確認、要約文を書き提出
第8回	課題文⑤、まとめ	【演習６】前回の要約文を添削して返却、添削部分について質疑応答、課題文⑤について討議、要約文を書くことで何が学べたか自己評価した後、感想や考えを出し合いまとめる。
第9回	小論文を書く①	【演習７】小論文のテーマ設定・論理展開・段落構成等について講義、次回の小論文テーマ指示
第10回	小論文を書く②	【演習８】小論文を書き提出
第11回	小論文を書く③	【演習９】前回の小論文を添削し返却、添削部分について質疑応答、感想・意見交換、次回の小論文テーマ指示
第12回	小論文を書く④	【演習10】小論文を書き提出
第13回	小論文を書く⑤、まとめ 概要発表会のレジュメ作成準備	【演習11】前回の小論文を添削し返却、添削部分について質疑応答、感想・意見交換、概要発表会のレジュメの書き方について講義
第14回	概要発表会の口頭発表練習	【演習12】レジュメ提出、概要発表会の口頭発表練習、感想・意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①課題文や添削された文章を正確に音読する練習をする。
②添削された文章は必ず見直し、何をどう直されたか確認する。
③正確に読み、書くために、日常生活においても、つねに正確に聞き、話すことに留意する。
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
板井美佐『中国人留学生のためのアカデミック・ライティング　ー大学院からのライティング・スキルズ』正文社（1540円）非売品（教室で配布予定）
＊＊上記テキストは、中国国籍以外の学習者からも好評を得ています。

【参考書】
・アカデミックジャパニーズ研究会『改訂版　大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（2015）アルク（1800円＋税）
・二通信子『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』（2020）スリーエーネットワーク（1540円＋税）
・二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（2009）東京大学出版会（2750円＋税）
・村岡貴子他『論文作成のための文章力向上プログラム』大阪大学出版社（2800円＋税）

【成績評価の方法と基準】
平常点50パーセント（出席状況、発表・討議の内容や積極的姿勢）

提出物50パーセント（各回の提出物の内容の充実度）

【学生の意見等からの気づき】
・毎回、日本語で発表し、日本語の文章を書く機会を設けます。
・提出された文章は全て添削して返却し、必要に応じて説明をします。
・留学生の間違いやすい語法等の例を挙げ、説明します。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞言語、誤用分析、アカデミック・ライティング、対照分析、中日翻訳
＜研究テーマ＞中国人日本語学習者の論文草稿に現れた誤用の傾向・要因と指導方法
＜主要研究業績＞板井美佐（2024）「博士後期課程日本語学習者の博士論文草稿に現れたアカデミック・ライティングの誤用の傾向・要因と指導方法－中国語を母語とする大学院生の調査から－」『城西国際大学大学院紀要』27号, pp. 65-85.
板井美佐（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク.
板井美佐（2000）「中国人学習者の日本語学習に対するBELIEFSについて－香港４大学のアンケート調査から－」『日本語教育』104号, pp. 69-78.

【Outline (in English)】
Foreign students whose mother tongue is not Japanese read logical sentences written in Japanese and write sentences in Japanese to improve their basic ability to write their own master's thesis in Japanese.
【Grading criteria】
attitude toward class 50% (attendance state, positive attitude)
assignment 50%

OTR500G1 – 502（その他 / Others 500）

国際文化研究日本語論文演習Ｂ

板井　美佐

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、専門分野の論理的文章を読んだり書いたりする練習を通じて日本語を読み書きする能力を向上させ、専門分野の修士論文を書くための基礎力を拡充する。

【到達目標】
・専門的レベルの日本語の文章を指定された字数で要約し、口頭で発表できる。
・自分の修士論文のテーマに関して、4000字程度の小論文を書くことができる。
・専門的レベルの日本語の文章やテーマについて議論できる。（発言者ひとりひとりの意見を正確に聴き取り、テーマの方向性に沿った論理的な意見を述べたり問題点を指摘したりして、テーマを深化し発展させることができる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP4」の達成のために特に重要であり,「DP1」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
第1回の授業で、各受講生は自分の研究テーマについてスピーチします。第2回の授業では、全員が自分の研究テーマについてまとめた作文を提出し、添削を受けた後、音読発表します。第３回から第７回までは、各受講生が自分の研究テーマに沿った書籍や文献から一定の長さの日本語の文章を抜粋して全員に配布し、その要約を書いて発表し、全員でその内容や研究テーマとの関連性について感想・意見を出し合います。第8回から第13回は、各自の研究テーマに沿った小論文を書きます。1200字程度から書き始め、第13回では、4000字程度の小論文を完成させます。第14回は、完成した4000字の小論文を口頭発表し、相互評価をします。提出された要約文・小論文は、すべて添削して返却します。学習内容・方法や速度・難易度は、受講生の水準に合わせて適宜変更します。学習支援システムを利用する際は、添削した課題に説明を加えて返却します。対面授業では、次回授業までに添削して返却し、必要に応じて説明をします。各回の授業の内容に応じて、受講生が積極的に意見交換を行う時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・研究テーマについてスピーチ	演習の目的と方針の説明、受講者の日本語レベル、研究テーマ、受講者の希望確認
第2回	作文「私の研究テーマ」	【演習1】作文後、添削された作文を各人が音読して発表し、添削内容について質疑応答
第3回	課題文①	【演習2】要約文を書いて提出、要約文の添削後、添削内容を確認し、課題文①について討議
第4回	課題文②	【演習3】要約文を書いて提出、要約文の添削後、添削内容を確認し、課題文②について討議
第5回	課題文③	【演習4】要約文を書いて提出、要約文の添削後、添削内容を確認し、課題文③について討議
第6回	課題文④	【演習5】要約文を書いて提出、要約文の添削後、添削内容を確認し、課題文④について討議
第7回	課題文⑤	【演習6】要約文を書いて提出、要約文の添削後、添削内容を確認し、課題文⑤について討議
第8回	小論文を書く①	【演習7】小論文を書く際のテーマ設定・論理展開・段落設定等について講義
第9回	小論文を書く②	【演習8】小論文提出、口頭発表、添削、相互評価、感想・意見交換
第10回	小論文を書く③	【演習9】小論文提出、口頭発表、添削、相互評価、感想・意見交換
第11回	小論文を書く④	【演習10】小論文提出、口頭発表、添削、相互評価、感想・意見交換
第12回	小論文を書く⑤	【演習11】小論文提出、口頭発表、添削、相互評価、感想・意見交換
第13回	小論文を書く⑥	【演習12】小論文提出、口頭発表、添削、相互評価、感想・意見交換
第14回	小論文を書く⑦（まとめ）	【演習13】4000字の小論文を口頭発表・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①課題文や添削された文章を正確に音読する練習をする。
②添削された文章は必ず見直し、何をどう直されたか確認し、正確に音読できるよう練習する。
③正確に読み、書くために、日常生活においても、つねに正確に聞き、話すことに留意する。
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
板井美佐『中国人留学生のためのアカデミック・ライティング　ー大学院からのライティング・スキルズ』正文社（1540円）非売品（教室で配布予定）
＊＊上記テキストは、中国国籍以外の学習者からも好評を得ています。

【参考書】
・アカデミックジャパニーズ研究会『改訂版　大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（2015）アルク（1800円＋税）
・二通信子『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』（2020）スリーエーネットワーク（1540円＋税）
・二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（2009）東京大学出版会（2750円＋税）
・村岡貴子他『論文作成のための文章力向上プログラム』大阪大学出版社（2800円＋税）

【成績評価の方法と基準】
平常点50パーセント（出席状況、発表・討議の内容や積極的姿勢）

提出物50パーセント（各回の提出物の内容の充実度）

【学生の意見等からの気づき】
・毎回、日本語の論理的文章を書き、日本語で発表する機会を設けます。
・提出された文章は全て添削して返却します。
・留学生の間違いやすい語法等の例を挙げ、説明します。

【学生が準備すべき機器他】
各自、パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】
来年度の国際文化研究日本語論文演習Ｃの履修を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞言語、誤用分析、アカデミック・ライティング、対照分析、中日翻訳
＜研究テーマ＞中国人日本語学習者の論文草稿に現れた誤用の傾向・要因と指導方法
＜主要研究業績＞板井美佐（2024）「博士後期課程日本語学習者の博士論文草稿に現れたアカデミック・ライティングの誤用の傾向・要因と指導方法－中国語を母語とする大学院生の調査から－」『城西国際大学大学院紀要』27号, pp. 65-85.
板井美佐（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク.

板井美佐（2000）「中国人学習者の日本語学習に対するBELIEFSについて－香港４大学のアンケート調査から－」『日本語教育』104号, pp. 69-78.

【Outline (in English)】
Foreign students whose mother tongue is not Japanese practice writing in Japanese to improve their ability to write master's thesis on each specialized field.
【Grading criteria】
attitude toward class 50％（attendance state, positive attitude）
assignment 50％

OTR500G1 – 505（その他 / Others 500）

国際文化研究日本語論文演習Ｃ

板井　美佐

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、日本語で修士論文を書き始める準備を整え、実際に執筆しながら論文の書き方や日本語表現について学ぶ。

【到達目標】
・修士論文完成までのスケジュール（概要発表会・中間発表会等）を確認する。
・従来の修士論文の体裁（構成・分量・注の付け方・図表の入れ方・参考資料の掲載方法・文体・印字体等）を確認する。
・修士論文の主題と副題を決める。
・修士論文の構成（章立て・各章の分量・各章の内容と節の数やその分量）を決める。
・目次を書く。
・概要発表会の準備をする（レジュメの準備、口頭発表・質疑応答の練習等）
・修士論文の序論、あるいは第1章を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP4」の達成のために特に重要であり,「DP1」の達成のために重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最初の7回で修士論文を書き始めるための具体的な準備を行い、その後、実際に修士論文を書き始めます。準備の段階では、まず、今まで国際文化研究科に提出された修士論文の体裁を確認し、各自のテーマに従って修士論文の構想を具体的にまとめます。次に、7月末の概要発表会、10月末の中間発表会のレジュメの書き方を学び、口頭発表・質疑応答の練習をすることによって、修士論文の構想・テーマを具体化し深化させます。第8回からは、各自修士論文の序論あるいは第1章を書き始めます。段落と段落、節と節がそれぞれ文章としてのまとまりを持ち、論理的構成の下で互いに関連し合うことを学ぶことを目標として、一つの章を完成させることを目標とします。受講生の希望と実態に合わせて内容を変更する可能性があります。
学習支援システムを利用する場合は、添削した課題に説明を加えて返却します。対面授業では、次回授業までに添削して返却し、必要に応じて説明を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と内容・方針の説明 ・各受講生の修士論文のテーマと進捗状況の確認
第2回	従来の修士論文の体裁を確認する	・構成、分量、注の付け方、図表の入れ方、参考資料の掲載方法、文体、印字体等
第3回	概要発表会のレジュメの書き方	・概要発表会のレジュメの書き方について講義 ・レジュメを書く
第4回	レジュメ提出・添削	・各人のレジュメを添削 ・質疑応答
第5回	レジュメに基づいて口頭発表の練習①	・声の出し方、話し方 ・時間の使い方 ・質疑応答の対応の仕方
第6回	レジュメに基づいて口頭発表の練習② スケジュール確認	・概要発表会、中間発表会、学会発表等のスケジュールを確認
第7回	修士論文の主題・副題、論文構成を確認する	・主題と副題、章立てと分量配分を書いて提出
第8回	修士論文を書く①	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出
第9回	修士論文を書く②	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答
第10回	修士論文を書く③	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答
第11回	修士論文を書く④	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答
第12回	修士論文を書く⑤	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答
第13回	修士論文を書く⑥	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答
第14回	修士論文を書く⑦	・序論あるいは第1章の書いたところまで提出 ・添削、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の内容については、随時指導教員から指導を受けてください。本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
板井美佐『中国人留学生のためのアカデミック・ライティング　ー大学院からのライティング・スキルズ』正文社（1540円）非売品（教室で配布予定）
＊＊上記テキストは、中国国籍以外の学習者からも好評を得ています。

【参考書】
・アカデミックジャパニーズ研究会『改訂版　大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（2015）アルク（1800円＋税）
・二通信子他『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』（2020）スリーエーネットワーク（1540円＋税）
・二通信子『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』
（2009）東京大学出版会（2750円＋税）
・村岡貴子他『論文作成のための文章力向上プログラム』大阪大学出版社（2800円＋税）

【成績評価の方法と基準】
平常点50パーセント（出席状況、発表・討議の内容や積極的姿勢）

提出物50パーセント（各回の提出物の内容の充実度）

【学生の意見等からの気づき】
修士論文を書き始める準備をし、実際に論文を書き進めながら、論文の論理的構成や日本語表現について、逐次アドバイス・添削を受けることができます。修士論文執筆のペースメーカーとして利用できます。

【学生が準備すべき機器他】
各自パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】
国際文化研究日本語論文演習Ａ・Ｂ受講者が継続履修することを推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞言語、誤用分析、アカデミック・ライティング、対照分析、中日翻訳
＜研究テーマ＞中国人日本語学習者の論文草稿に現れた誤用の傾向・要因と指導方法
＜主要研究業績＞板井美佐（2024）「博士後期課程日本語学習者の博士論文草稿に現れたアカデミック・ライティングの誤用の傾向・要因と指導方法－中国語を母語とする大学院生の調査から－」『城西国際大学大学院紀要』27号, pp. 65-85.
板井美佐（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク.

板井美佐（2000）「中国人学習者の日本語学習に対するBELIEFSについて－香港４大学のアンケート調査から－」『日本語教育』104号, pp. 69-78.

【Outline (in English)】
This class help and give some advice to foreign students whose mother tongue is not Japanese to write their master's thesis in Japanese.
【 Grading criteria】
attitude toward class 50％（attendance state, positive attitude）
assignment 50％

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

浅川　希洋志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

浅川　希洋志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

大嶋　良明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

大嶋　良明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

佐藤　千登勢

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

佐藤　千登勢

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

張　勝蘭

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

張　勝蘭

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

佐々木　一惠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

大野　ロベルト

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

大野　ロベルト

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

髙柳　俊男

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

髙柳　俊男

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

今泉　裕美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

今泉　裕美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 503（その他 / Others 600）

修士論文演習Ａ

粟飯原　文子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を7月の構想発表会で発表し，広くコメントを受けることを当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」と連携を図って進めていきます.
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士１年の研究成果を基に，指導教員と研究計画を練る.
2	研究計画の検討	履修者は，修士１年の研究成果を基に，引き続き指導教員と研究計画を練る.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を検討する.
4	論文執筆指導②	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，春学期の研究計画を引き続き検討する.
5	研究発表準備①	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について議論する.
6	研究発表準備②	履修者は，構想発表会を意識し，指導教員と具体的な春学期の研究について引き続き議論する.
7	研究発表準備③	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論する.
8	研究発表準備④	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，指導教員と議論を重ねる.
9	研究発表準備⑤	履修者ごとに構想発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの構想について，引き続き指導教員と議論を重ねる.
10	研究発表準備⑥	履修者ごとに構想発表会の準備．履修者は，修士論文/リサーチペーパーの構想について指導教員と議論を重ねる．必要な場合には，発表会のリハーサル等も行う.
11	研究発表会の振り返り	履修者は構想発表会を振り返りつつ，具体的な春学期の研究について指導教員と議論する.
12	論文執筆指導③	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を議論・再検討する.
13	論文執筆指導④	履修者は，構想発表会でのコメントを受けて，指導教員と修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を，更に議論・検討する.
14	まとめ	履修者は残された課題を抽出し，指導教員とともに，夏季休暇中の論文完成に向けた計画を立てる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），構想発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組みで（35%），総合的に評価します.
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR600G1 – 504（その他 / Others 600）

修士論文演習Ｂ

粟飯原　文子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査をもとに修士論文/リサーチペーパーを執筆します.

【到達目標】
１．修士論文/リサーチペーパーを完成することができる.
２．修士論文/リサーチペーパーの内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文/リサーチペーパーに必要な補足調査や文献サーベイ，論文執筆，口頭発表について指導します．論文の骨子を11月の中間発表会で発表し広くコメントを受けることを，当座の目標とします．修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」と連携を図って進めていきます.
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究成果の共有	履修者は，修士2年春学期及び夏季休暇中の研究成果を指導教員と共有する.
2	研究計画の検討	履修者は，修士論文/リサーチペーパー完成に必要な補足調査や文献の洗い出し，秋学期の研究計画を指導教員とともに検討する.
3	論文執筆指導①	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの一部を執筆し，指導教員に提出，議論する.
4	論文執筆指導②	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを，指導教員と引き続き議論・検討する.
5	研究発表準備①	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と検討する.
6	研究発表準備②	履修者ごとに中間発表会の準備．修士論文/リサーチペーパーの全体構成を指導教員と更に詳細に議論する.
7	研究発表準備③	履修者は，指導教員とともに中間発表会での発表内容の目処を立てる.
8	研究発表準備④	履修者は，指導教員とともに中間発表会の具体的な発表内容について検討する.
9	研究発表準備⑤	履修者は、中間発表会の具体的内容を指導教員に提示し，確認する．必要な場合は，発表会のリハーサルも行う.
10	研究発表会の振り返り	履修者は，中間発表会でのコメントを受けて修士論文/リサーチペーパーの全体構成や結論を再検討し，指導教員と議論・確認する.
11	論文執筆指導③	履修者は，修士論文/リサーチペーパーの初稿を指導教員に提出し，それをもとに指導教員と議論する.
12	論文執筆指導④	履修者は，指導教員に提出した修士論文/リサーチペーパーを指導教員と検討し，最終稿の目処を立てる.
13	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備①	指導教員とともに，提出した修士論文/リサーチペーパーを再検討する.
14	修士論文/リサーチペーパー口述試験の準備②	修士論文/リサーチペーパー口頭発表に向けての準備を行う．履修者は指導教員とともに提出論文の内容の詳細な確認を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　与えられた課題への取り組み，必要な関連文献の精読，学内Web等を活用した情報共有を積極的に行なうことが求められます.
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これはあくまでも標準としての授業外学習時間とご理解ください.

【テキスト（教科書）】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【参考書】
履修者のテーマにより，必要な文献をその都度紹介します.

【成績評価の方法と基準】
毎週の指導内容に関する取組み（30%），中間発表会での評価（35%），それを受けた論文完成に向けた最終的な取り組み（35%）で，総合的に評価します．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
個々の担当教員より，授業，学習支援システム等を通じて，適宜情報共有されます.

【学生が準備すべき機器他】
PCおよび学内Web，インターネットを活用したオンラインによる情報共有を常に行うことが重要ですので，それに合わせた機器を用意してください.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The seminar is designed to assist students in writing up the Master's thesis/ Research paper.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own MA thesis/research paper.
2. to be able to orally present the contents and also significances of your MA thesis/research paper.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise your ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Based on daily learning activities (30%), presentations (35%), and effort to write up the Master's thesis/Research paper (35%), students who are considered to successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 001（その他 / Others 700）

博士論文演習ＩＡ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関わる文献サーベイを行うことで，博士論文のテーマ，関連する研究領域，必要な専門知識，コアとなる文献，研究方法を明確化します．それと同時に，博士論文に関係する投稿論文の執筆を進めます．

【到達目標】
１．博士論文のテーマ．研究方法，研究計画をおおむね明確にする．
２．博士論文に関係する投稿論文の執筆を開始する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析を通じて，博士論文の執筆に必要な専門知識や方法論を身につけていきます．指導教員や他の大学院生との議論を通して，より高度な分析力や批判的な考察力を修得し，研究者としての素養を磨いていきます．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	これまでの研究の振り返り	修士論文など今までの研究成果を再検討し，博士論文との関連や発展の方向性を検討する．
2回	研究テーマの確認	第１回の検討結果をもとに博士論文のテーマを洗練させ，確認する．
3回	文献サーベイ①	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
4回	文献サーベイ②	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを引き続き，修得する．
5回	文献サーベイ③	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルの修得を，更に進める．
6回	文献サーベイ④	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
7回	文献サーベイ⑤	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを，引き続き修得する．
8回	文献サーベイ⑥	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを，更に高次のレベルで修得するよう努める．
9回	研究報告①	修士論文や文献サーベイに基づき，投稿論文の準備を進める．
10回	研究報告②	修士論文や文献サーベイに基づき，投稿論文の準備を引き続き進める．
11回	研究報告③	指導教員の指導の下で，修士論文や文献サーベイに基づいた投稿論文の準備を進める．
12回	研究報告④	指導教員の指導の下で，修士論文や文献サーベイに基づいた投稿論文の準備を，引き続き進める．
13回	研究計画作成①	博士ワークショップの発表準備等を通して，研究計画を検討する．
14回	研究計画作成②	博士ワークショップの発表準備等を通して，研究計画を引き続き検討する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどして，自らが積極的に対応していくことが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of ideas for the doctoral dissertation. While taking this course, students are expected to conduct a literature survey, acquire the requisite methodology, and also make part of future dissertation into a publishable journal article.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing a paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 － 001（その他 / Others 700）

博士論文演習ＩＡ

副島　健作

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関わる文献サーベイを行うことで，博士論文のテーマ，関連する研究領域，必要な専門知識，コアとなる文献，研究方法を明確化します．それと同時に，博士論文に関係する投稿論文の執筆を進めます．

【到達目標】
１．博士論文のテーマ．研究方法，研究計画をおおむね明確にする．
２．博士論文に関係する投稿論文の執筆を開始する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析を通じて，博士論文の執筆に必要な専門知識や方法論を身につけていきます．指導教員や他の大学院生との議論を通して，より高度な分析力や批判的な考察力を修得し，研究者としての素養を磨いていきます．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	これまでの研究の振り返り	修士論文など今までの研究成果を再検討し，博士論文との関連や発展の方向性を検討する．
2回	研究テーマの確認	第１回の検討結果をもとに博士論文のテーマを洗練させ，確認する．
3回	文献サーベイ①	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
4回	文献サーベイ②	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを引き続き，修得する．
5回	文献サーベイ③	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルの修得を，更に進める．
6回	文献サーベイ④	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
7回	文献サーベイ⑤	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを，引き続き修得する．
8回	文献サーベイ⑥	必要があれば，他の研究分野の文献なども利用しながら，博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを，更に高次のレベルで修得するよう努める．
9回	研究報告①	修士論文や文献サーベイに基づき，投稿論文の準備を進める．
10回	研究報告②	修士論文や文献サーベイに基づき，投稿論文の準備を引き続き進める．
11回	研究報告③	指導教員の指導の下で，修士論文や文献サーベイに基づいた投稿論文の準備を進める．
12回	研究報告④	指導教員の指導の下で，修士論文や文献サーベイに基づいた投稿論文の準備を，引き続き進める．
13回	研究計画作成①	博士ワークショップの発表準備等を通して，研究計画を検討する．
14回	研究計画作成②	博士ワークショップの発表準備等を通して，研究計画を引き続き検討する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどして，自らが積極的に対応していくことが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of ideas for the doctoral dissertation. While taking this course, students are expected to conduct a literature survey, acquire the requisite methodology, and also make part of future dissertation into a publishable journal article.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing a paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 － 002（その他 / Others 700）

博士論文演習ＩＢ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関わる文献サーベイを通して，博士論文のテーマ，関連する研究領域，必要な専門知識，コアとなる文献，研究方法を明確化します．それと同時に，博士論文に関係する研究発表及び投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
１．博士論文のテーマ，研究方法，研究計画を明確にする．
２．学内外の学会で博士論文に係る研究発表を行う．
３．博士論文に関係する最初の学術論文を投稿する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析を通じて，博士論文の執筆に必要な専門知識や方法論を身につけていきます．指導教員や他の大学院生との議論を通して，より高度な分析力や批判的な考察力を修得し，研究者としての素養を磨いていきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返りと計画の見直し	春学期及び夏季休暇中の研究結果を報告し，必要に応じて研究計画を見直す．
2回	文献サーベイ①	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
3回	文献サーベイ②	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
4回	文献サーベイ③	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
5回	研究発表①	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
6回	研究発表②	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
7回	研究発表③	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容の検討・発表・振り返りを行う．
8回	文献サーベイ④	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
9回	文献サーベイ⑤	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
10回	論文執筆指導①	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
11回	論文執筆指導②	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
12回	論文執筆指導③	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
13回	論文執筆指導④	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
14回	まとめ	秋学期の研究成果のまとめと次年次に向けた春季休暇中の計画を立てる．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどして，自らが積極的に対応していくことが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of ideas for the doctoral dissertation. While taking this course, students are expected to conduct a literature survey, acquire the requisite methodology, and also make part of future dissertation into a publishable journal article.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing a paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course.　Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 002（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅠB

副島　健作

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関わる文献サーベイを通して，博士論文のテーマ，関連する研究領域，必要な専門知識，コアとなる文献，研究方法を明確化します．それと同時に，博士論文に関係する研究発表及び投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
１．博士論文のテーマ，研究方法，研究計画を明確にする．
２．学内外の学会で博士論文に係る研究発表を行う．
３．博士論文に関係する最初の学術論文を投稿する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析を通じて，博士論文の執筆に必要な専門知識や方法論を身につけていきます．指導教員や他の大学院生との議論を通して，より高度な分析力や批判的な考察力を修得し，研究者としての素養を磨いていきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返りと計画の見直し	春学期及び夏季休暇中の研究結果を報告し，必要に応じて研究計画を見直す．
2回	文献サーベイ①	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
3回	文献サーベイ②	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
4回	文献サーベイ③	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
5回	研究発表①	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
6回	研究発表②	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
7回	研究発表③	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容の検討・発表・振り返りを行う．
8回	文献サーベイ④	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
9回	文献サーベイ⑤	博士論文執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する．
10回	論文執筆指導①	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
11回	論文執筆指導②	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
12回	論文執筆指導③	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
13回	論文執筆指導④	修士論文や文献サーベイに基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
14回	まとめ	秋学期の研究成果のまとめと次年次に向けた春季休暇中の計画を立てる．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどして，自らが積極的に対応していくことが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of ideas for the doctoral dissertation. While taking this course, students are expected to conduct a literature survey, acquire the requisite methodology, and also make part of future dissertation into a publishable journal article.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing a paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course.　Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 003（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅡA（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究計画に沿って必要な調査（文献，一次資料収集，アンケート，フィールドワーク等）を実施します．調査結果をふまえて研究計画の修正及び2本目の投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
1．博士論文に必要な調査を進めることができる．
2．博士論文に関係する2本目の投稿論文の執筆を開始できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
定期的に履修者が調査の進捗を報告し，それをもとに議論を行い，調査の進め方，分析の方法，追加的に必要な専門知識，論文の方向性，追加調査の必要性等について，指導教員が助言を行います．
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返り	1年次及び2-3月の研究成果を報告し，春学期の研究計画を議論する．
2回	調査報告①	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
3回	調査報告②	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
4回	調査報告③	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
5回	調査報告④	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
6回	調査報告⑤	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
7回	調査報告⑥	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
8回	調査報告⑦	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
9回	調査報告⑧	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
10回	調査報告⑨	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
11回	調査報告⑩	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
12回	調査報告⑪	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
13回	研究まとめ	博士ワークショップの発表準備等を通して，春学期の研究成果をまとめる．
14回	秋学期及び夏季休暇の計画	春学期の進展を振り返り，秋学期の研究計画を検討し，夏季休暇中にすべき調査・研究内容を明確化する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．特に，博士課程2年目は博士論文執筆のための調査に注力します．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどしながら，自ら対応することが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist in research for the dissertation. While taking this course, students are expected to make another part of their dissertation into a journal article for publication.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing another paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 004（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅡＢ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究計画に沿って必要な調査（文献，一次資料収集，アンケート，フィールドワーク等）を実施します．調査結果をふまえて研究計画の修正及び2本目の投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
1．博士論文の一部にあたる2本目の学術論文を投稿できる．
2．学内外の学会で博士論文に係る研究発表を行う．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
定期的に履修者が調査の進捗を報告し，それをもとに議論を行い，調査の進め方，分析の方法，追加的に必要な専門知識，論文の方向性，追加調査の必要性等について指導教員が助言を行います．学術論文の投稿や学内外の学会での発表を推奨し，その準備や指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて，研究者としての素養を磨いていきます．
また，履修者の報告に関しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返りと計画の見直し	春学期及び夏季休暇中の研究結果を報告し，必要に応じて研究計画を見直す．
2回	調査報告①	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
3回	調査報告②	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
4回	調査報告③	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
5回	研究発表①	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
6回	研究発表②	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
7回	研究発表③	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容の検討・発表・振り返りを行う．
8回	調査報告④	研究計画に従って文献，一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
9回	調査報告⑤	研究計画に従って文献，一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
10回	論文執筆指導①	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
11回	論文執筆指導②	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
12回	論文執筆指導③	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
13回	論文執筆指導④	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
14回	まとめ	2年間の研究成果のまとめを行うとともに，博士論文の構成や目次を検討し，不足する調査内容を明確にする．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．特に，博士課程2年目は博士論文執筆のための調査に注力します．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどしながら，自ら対応することが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です．

【Outline (in English)】
授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist in research for the dissertation. While taking this course, students are expected to make another part of their dissertation into a journal article for publication.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing another paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 005（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＡ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文の要旨を完成させる.
２．博士論文の予備論文（草稿）を完成させる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献サーベイや調査結果に基づいた博士論文を章ごとに執筆・報告し，議論していきます．必要に応じて追加的な文献サーベイを行い，追加調査を実施します.
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	執筆・調査計画の立案	2-3月の研究成果の報告を行うとともに，追加調査が必要な項目の洗い出し，博士論文の執筆計画を立案する.
2回	博士論文執筆指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
3回	博士論文執筆指導②	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
4回	博士論文執筆指導③	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
5回	予備論文（草稿）への指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．この頃までに予備論文（草稿）を完成させる.
6回	予備論文（草稿）への指導②	完成した予備論文（草稿）について，指導教員と議論・検討を行う.
7回	予備審査結果を踏まえた検討	予備審査での各指導教員の指摘を整理し，追加調査や文献サーベイを検討する.
8回	追加調査報告・文献サーベイ①	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
9回	追加調査報告・文献サーベイ②	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
10回	追加調査報告・文献サーベイ③	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
11回	口頭発表準備①	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
12回	口頭発表準備②	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
13回	口頭発表準備③	博士ワークショップの口頭発表準備等を通して，博士論文の全体の構成を固める.
14回	博士論文の骨子の確定	博士ワークショップでのコメントをふまえ，博士論文全体の構成と内容を見直し，本格的な執筆を行なう.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 － 005（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＡ

森村　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文の要旨を完成させる.
２．博士論文の予備論文（草稿）を完成させる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献サーベイや調査結果に基づいた博士論文を章ごとに執筆・報告し，議論していきます．必要に応じて追加的な文献サーベイを行い，追加調査を実施します.
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	執筆・調査計画の立案	2-3月の研究成果の報告を行うとともに，追加調査が必要な項目の洗い出し，博士論文の執筆計画を立案する.
2回	博士論文執筆指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
3回	博士論文執筆指導②	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
4回	博士論文執筆指導③	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
5回	予備論文（草稿）への指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．この頃までに予備論文（草稿）を完成させる.
6回	予備論文（草稿）への指導②	完成した予備論文（草稿）について，指導教員と議論・検討を行う.
7回	予備審査結果を踏まえた検討	予備審査での各指導教員の指摘を整理し，追加調査や文献サーベイを検討する.
8回	追加調査報告・文献サーベイ①	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
9回	追加調査報告・文献サーベイ②	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
10回	追加調査報告・文献サーベイ③	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
11回	口頭発表準備①	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
12回	口頭発表準備②	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
13回	口頭発表準備③	博士ワークショップの口頭発表準備等を通して，博士論文の全体の構成を固める.
14回	博士論文の骨子の確定	博士ワークショップでのコメントをふまえ，博士論文全体の構成と内容を見直し，本格的な執筆を行なう.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 006（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＢ（代表シラバス）

重定　如彦、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文を完成することができる.
２．博士論文の内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ，その内容と意義を公開審査会の場で発表します．また，審査委員からの助言を受けて必要な改善を行います.
履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	博士論文執筆指導	博士学位請求論文完成に向けて，最終的な指導を指導教員より受ける.
2回	投稿論文・学会発表準備①	指導教員より，提出した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
3回	投稿論文・学会発表準備②	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
4回	投稿論文・学会発表準備③	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
5回	口頭発表指導①	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
6回	口頭発表指導②	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
7回	口頭発表指導③	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
8回	学位請求論文の要旨指導①	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
9回	学位請求論文の要旨指導②	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
10回	学位請求論文公開審査会発表指導①	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
11回	学位請求論文公開審査会発表指導②	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
12回	学位請求論文の修正①	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する.
13回	学位請求論文の修正②	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.
14回	学位請求論文の修正③	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます.
特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 006（その他 / Others 700）

博士論文演習III B

森村　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
1．博士論文を完成することができる.
2．博士論文の内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ，その内容と意義を公開審査会の場で発表します．また，審査委員からの助言を受けて必要な改善を行います.
履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	博士論文執筆指導	博士学位請求論文完成に向けて，最終的な指導を指導教員より受ける.
2回	投稿論文・学会発表準備①	指導教員より，提出した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
3回	投稿論文・学会発表準備②	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
4回	投稿論文・学会発表準備③	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
5回	口頭発表指導①	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
6回	口頭発表指導②	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
7回	口頭発表指導③	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
8回	学位請求論文の要旨指導①	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
9回	学位請求論文の要旨指導②	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
10回	学位請求論文公開審査会発表指導①	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
11回	学位請求論文公開審査会発表指導②	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
12回	学位請求論文の修正①	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する.
13回	学位請求論文の修正②	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.
14回	学位請求論文の修正③	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 003（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅡA

大野　ロベルト

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究計画に沿って必要な調査（文献，一次資料収集，アンケート，フィールドワーク等）を実施します．調査結果をふまえて研究計画の修正及び2本目の投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
1．博士論文に必要な調査を進めることができる．
2．博士論文に関係する2本目の投稿論文の執筆を開始できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
定期的に履修者が調査の進捗を報告し，それをもとに議論を行い，調査の進め方，分析の方法，追加的に必要な専門知識，論文の方向性，追加調査の必要性等について，指導教員が助言を行います．
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返り	1年次及び2-3月の研究成果を報告し，春学期の研究計画を議論する．
2回	調査報告①	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
3回	調査報告②	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
4回	調査報告③	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
5回	調査報告④	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
6回	調査報告⑤	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
7回	調査報告⑥	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
8回	調査報告⑦	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
9回	調査報告⑧	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
10回	調査報告⑨	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
11回	調査報告⑩	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
12回	調査報告⑪	研究計画に従って文献、一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
13回	研究まとめ	博士ワークショップの発表準備等を通して，春学期の研究成果をまとめる．
14回	秋学期及び夏季休暇の計画	春学期の進展を振り返り，秋学期の研究計画を検討し，夏季休暇中にすべき調査・研究内容を明確化する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．特に，博士課程2年目は博士論文執筆のための調査に注力します．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどしながら，自ら対応することが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本となります．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist in research for the dissertation. While taking this course, students are expected to make another part of their dissertation into a journal article for publication.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing another paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 004（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅡB

大野　ロベルト

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究計画に沿って必要な調査（文献，一次資料収集，アンケート，フィールドワーク等）を実施します．調査結果をふまえて研究計画の修正及び2本目の投稿論文の執筆を進めていきます．

【到達目標】
1．博士論文の一部にあたる2本目の学術論文を投稿できる．
2．学内外の学会で博士論文に係る研究発表を行う．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
定期的に履修者が調査の進捗を報告し，それをもとに議論を行い，調査の進め方，分析の方法，追加的に必要な専門知識，論文の方向性，追加調査の必要性等について指導教員が助言を行います．学術論文の投稿や学内外の学会での発表を推奨し，その準備や指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて，研究者としての素養を磨いていきます．
また，履修者の報告に関しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究の振り返りと計画の見直し	春学期及び夏季休暇中の研究結果を報告し，必要に応じて研究計画を見直す．
2回	調査報告①	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
3回	調査報告②	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
4回	調査報告③	研究計画に従って文献，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
5回	研究発表①	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
6回	研究発表②	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容を検討する．
7回	研究発表③	博士ワークショップもしくは学内外の学会での発表内容の検討・発表・振り返りを行う．
8回	調査報告④	研究計画に従って文献，一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
9回	調査報告⑤	研究計画に従って文献，一次資料，アンケート，フィールドワーク等の調査を行い，結果を報告する．
10回	論文執筆指導①	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
11回	論文執筆指導②	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
12回	論文執筆指導③	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
13回	論文執筆指導④	文献サーベイや調査結果に基づき投稿論文を執筆し，指導教員と議論・検討する．
14回	まとめ	2年間の研究成果のまとめを行うとともに，博士論文の構成や目次を検討し，不足する調査内容を明確にする．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行います．特に，博士課程2年目は博士論文執筆のための調査に注力します．なお，専門知識を補強したい場合には，修士課程の講義科目等を履修するなどしながら，自ら対応することが重要です．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します．
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます．

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です．

【Outline (in English)】
授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist in research for the dissertation. While taking this course, students are expected to make another part of their dissertation into a journal article for publication.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing another paper in your relevant field.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 － 005（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＡ

髙柳　俊男

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文の要旨を完成させる.
２．博士論文の予備論文（草稿）を完成させる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献サーベイや調査結果に基づいた博士論文を章ごとに執筆・報告し，議論していきます．必要に応じて追加的な文献サーベイを行い，追加調査を実施します.
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回	執筆・調査計画の立案	2-3月の研究成果の報告を行うとともに，追加調査が必要な項目の洗い出し，博士論文の執筆計画を立案する.
2回	博士論文執筆指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
3回	博士論文執筆指導②	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
4回	博士論文執筆指導③	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
5回	予備論文（草稿）への指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．この頃までに予備論文（草稿）を完成させる.
6回	予備論文（草稿）への指導②	完成した予備論文（草稿）について，指導教員と議論・検討を行う.
7回	予備審査結果を踏まえた検討	予備審査での各指導教員の指摘を整理し，追加調査や文献サーベイを検討する.
8回	追加調査報告・文献サーベイ①	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
9回	追加調査報告・文献サーベイ②	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
10回	追加調査報告・文献サーベイ③	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
11回	口頭発表準備①	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
12回	口頭発表準備②	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
13回	口頭発表準備③	博士ワークショップの口頭発表準備等を通して，博士論文の全体の構成を固める.
14回	博士論文の骨子の確定	博士ワークショップでのコメントをふまえ，博士論文全体の構成と内容を見直し，本格的な執筆を行なう.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 006（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＢ

髙柳　俊男

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文を完成することができる.
２．博士論文の内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ，その内容と意義を公開審査会の場で発表します．また，審査委員からの助言を受けて必要な改善を行います.
履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回	博士論文執筆指導	博士学位請求論文完成に向けて，最終的な指導を指導教員より受ける.
2回	投稿論文・学会発表準備①	指導教員より，提出した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
3回	投稿論文・学会発表準備②	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
4回	投稿論文・学会発表準備③	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
5回	口頭発表指導①	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
6回	口頭発表指導②	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
7回	口頭発表指導③	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
8回	学位請求論文の要旨指導①	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
9回	学位請求論文の要旨指導②	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
10回	学位請求論文公開審査会発表指導①	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
11回	学位請求論文公開審査会発表指導②	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
12回	学位請求論文の修正①	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する.
13回	学位請求論文の修正②	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.
14回	学位請求論文の修正③	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます.
特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 005（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＡ

佐藤　千登勢

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文の要旨を完成させる.
２．博士論文の予備論文（草稿）を完成させる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献サーベイや調査結果に基づいた博士論文を章ごとに執筆・報告し，議論していきます．必要に応じて追加的な文献サーベイを行い，追加調査を実施します.
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	執筆・調査計画の立案	2-3月の研究成果の報告を行うとともに，追加調査が必要な項目の洗い出し，博士論文の執筆計画を立案する.
2回	博士論文執筆指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
3回	博士論文執筆指導②	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
4回	博士論文執筆指導③	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
5回	予備論文（草稿）への指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．この頃までに予備論文（草稿）を完成させる.
6回	予備論文（草稿）への指導②	完成した予備論文（草稿）について，指導教員と議論・検討を行う.
7回	予備審査結果を踏まえた検討	予備審査での各指導教員の指摘を整理し，追加調査や文献サーベイを検討する.
8回	追加調査報告・文献サーベイ①	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
9回	追加調査報告・文献サーベイ②	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
10回	追加調査報告・文献サーベイ③	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
11回	口頭発表準備①	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
12回	口頭発表準備②	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
13回	口頭発表準備③	博士ワークショップの口頭発表準備等を通して，博士論文の全体の構成を固める.
14回	博士論文の骨子の確定	博士ワークショップでのコメントをふまえ，博士論文全体の構成と内容を見直し，本格的な執筆を行なう.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 006（その他 / Others 700）

博士論文演習III B

佐藤　千登勢

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
1．博士論文を完成することができる.
2．博士論文の内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ，その内容と意義を公開審査会の場で発表します．また，審査委員からの助言を受けて必要な改善を行います.
履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	博士論文執筆指導	博士学位請求論文完成に向けて，最終的な指導を指導教員より受ける.
2回	投稿論文・学会発表準備①	指導教員より，提出した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
3回	投稿論文・学会発表準備②	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
4回	投稿論文・学会発表準備③	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
5回	口頭発表指導①	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
6回	口頭発表指導②	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
7回	口頭発表指導③	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
8回	学位請求論文の要旨指導①	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
9回	学位請求論文の要旨指導②	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
10回	学位請求論文公開審査会発表指導①	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
11回	学位請求論文公開審査会発表指導②	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
12回	学位請求論文の修正①	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する.
13回	学位請求論文の修正②	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.
14回	学位請求論文の修正③	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 005（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＡ

浅川　希洋志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文の要旨を完成させる.
２．博士論文の予備論文（草稿）を完成させる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献サーベイや調査結果に基づいた博士論文を章ごとに執筆・報告し，議論していきます．必要に応じて追加的な文献サーベイを行い，追加調査を実施します.
また，履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回	執筆・調査計画の立案	2-3月の研究成果の報告を行うとともに，追加調査が必要な項目の洗い出し，博士論文の執筆計画を立案する.
2回	博士論文執筆指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
3回	博士論文執筆指導②	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
4回	博士論文執筆指導③	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．更に，必要に応じて追加文献サーベイや調査を行い，その内容を指導教員に報告し，議論する.
5回	予備論文（草稿）への指導①	博士論文の一部を執筆し，それをもとに指導教員の指導を受ける．この頃までに予備論文（草稿）を完成させる.
6回	予備論文（草稿）への指導②	完成した予備論文（草稿）について，指導教員と議論・検討を行う.
7回	予備審査結果を踏まえた検討	予備審査での各指導教員の指摘を整理し，追加調査や文献サーベイを検討する.
8回	追加調査報告・文献サーベイ①	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
9回	追加調査報告・文献サーベイ②	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
10回	追加調査報告・文献サーベイ③	予備審査での各指導教員の指摘をふまえ，追加調査や文献サーベイを行い，その成果を報告する.
11回	口頭発表準備①	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
12回	口頭発表準備②	追加調査や文献サーベイの成果をふまえ，博士論文全体の構成と流れを，指導教員と議論・検討する.
13回	口頭発表準備③	博士ワークショップの口頭発表準備等を通して，博士論文の全体の構成を固める.
14回	博士論文の骨子の確定	博士ワークショップでのコメントをふまえ，博士論文全体の構成と内容を見直し，本格的な執筆を行なう.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます．特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です．大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 006（その他 / Others 700）

博士論文演習ⅢＢ

浅川　希洋志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文献サーベイや調査結果をもとに博士論文を執筆していきます.

【到達目標】
１．博士論文を完成することができる.
２．博士論文の内容と意義をわかりやすく口頭で発表できる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」,「DP2」,「DP3」,「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ，その内容と意義を公開審査会の場で発表します．また，審査委員からの助言を受けて必要な改善を行います.
履修者の報告に対して，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行うこともあります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回	博士論文執筆指導	博士学位請求論文完成に向けて，最終的な指導を指導教員より受ける.
2回	投稿論文・学会発表準備①	指導教員より，提出した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
3回	投稿論文・学会発表準備②	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
4回	投稿論文・学会発表準備③	指導教員より，完成した博士学位請求論文をもとにした投稿論文や学外の学会発表に関する指導を受ける.
5回	口頭発表指導①	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
6回	口頭発表指導②	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
7回	口頭発表指導③	博士ワークショップあるいは学内で開催される国際文化情報学会での発表内容の検討を行う.
8回	学位請求論文の要旨指導①	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
9回	学位請求論文の要旨指導②	指導教員より，公開審査会に向けて学位請求論文の要旨に関する指導を受ける.
10回	学位請求論文公開審査会発表指導①	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
11回	学位請求論文公開審査会発表指導②	公開審査会に向けて学位請求論文の発表練習を行う.
12回	学位請求論文の修正①	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する.
13回	学位請求論文の修正②	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.
14回	学位請求論文の修正③	審査小委員会のコメントを受けて，必要であれば学位請求論文を修正する．また，出版に向けた論文の修正を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行っていきます.
特に，博士課程3年目は博士論文執筆に注力します．補強したい専門知識に関しては，指導教員の助言にしたがって自ら対応，補強していくことが重要です.
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，本科目は博士論文作成のためのものであり，それ以上の時間を費やすことは当然のこととご理解ください.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特になし.

【成績評価の方法と基準】
日頃の研究姿勢（50％），研究の進展・投稿論文の執筆状況等（50％）を勘案して，総合的に評価します.
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします.

【学生の意見等からの気づき】
担当の教員ごとの気づきに関しては，授業等で適宜フィードバックされます.

【その他の重要事項】
授業形態については，担当教員より事前に周知されますが，本年度の授業は対面形態が基本です.

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to assist students in writing up their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
They are twofold:
1. to be able to write up your own doctoral dissertation.
2. to start writing preliminary versions of your dissertation.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Study, read, and actively publicise and exchange ideas.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Daily attitude toward own research topic (50%) and steady progress in writing academic papers and doctoral dissertation (50%) are considered as criteria for the grade of this course. Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 101（その他 / Others 700）

博士ワークショップＩＡ

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
１．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
２．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる．
３．博士課程において具体的に調査研究を行っていくための計画書である論文プロポーザルを書き上げ，構想発表会で発表する．論文プロポーザルは，
（１）研究テーマ
（２）研究の目的
（３）研究の方法
（４）研究計画
（５）期待される成果
（６）文献リスト等
が含まれていることをその要件とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，構想発表会において論文プロポーザルを発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「国際文化共同研究A」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに構想発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究A」に討議者として少なくとも５回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，構想発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②論文プロポーザル：80点
・論文プロポーザルの内容：40点　・論文プロポーザルについての発表：40点
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究A」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to present their research proposals and rough design of their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to write up the thesis proposal to serve as a foundation for your doctoral research. It should include:
(1) research theme
(2) research goals
(3) research methods
(4) research plan
(5) possible outcome
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research A as well as Thesis Planning Presentations (TPP). According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four hours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Thesis proposal: 80% (its content: 40%, presentations given in TPP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 102（その他 / Others 700）

博士ワークショップⅠB

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
１．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
２．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる．
３．博士課程において具体的に調査研究を行っていくための計画書である論文プロポーザルを書き上げ，中間発表会で発表する．論文プロポーザルは，
（1）研究テーマ
（2）研究の目的
（3）研究の方法
（4）研究計画
（5）期待される成果
（6）文献リスト等
が含まれていることをその要件とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，中間発表会においてこれまでの研究成果と今後の研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「国際文化共同研究B」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに中間発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究B」に討議者として少なくとも5回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，中間発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②論文プロポーザル：80点
・論文プロポーザルの内容：40点 ・論文プロポーザルについての発表：40点
本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究B」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to present their research proposals and rough design of their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to write up the thesis proposal to serve as a foundation for your doctoral research. It should include:
(1) research theme
(2) research goals
(3) research methods
(4) research plan
(5) possible outcome
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research B as well as Thesis Interim Presentations (TIP). According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four hours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Thesis proposal: 80% (its content: 40%, presentations given in TIP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 103（その他 / Others 700）

博士ワークショップⅡA

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
１．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
２．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる，
３．博士論文の土台となる研究テーマに関する先行研究分析報告書を書き上げる．
先行研究分析報告書は，内外の主要な先行研究の分析を行ない，それをふまえた上で，自身の研究の立ち位置やオリジナリティを示したものであることをその要件とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，構想発表会においてこれまでの研究成果と今後の研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	7月開催の構想発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「国際文化共同研究A」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに構想発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究A」に討議者として少なくとも5回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，構想発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②先行研究分析報告：80点
・先行研究分析報告の内容：40点 ・先行研究分析報告についての発表：40点
本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究A」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to present their Prior research analysis and rough design of their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to write up the prior research analysis to show your progress and originality.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research A as well as Thesis Planning Presentations (TPP). According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four hours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Prior research analysis: 80% (its content: 40%, presentations given in TPP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 104（その他 / Others 700）

博士ワークショップⅡB

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
1．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
2．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる，
3．博士論文の土台となる研究テーマに関する先行研究分析報告書を書き上げる．
先行研究分析報告書は，内外の主要な先行研究の分析を行ない，それをふまえた上で，自身の研究の立ち位置やオリジナリティを示したものであることをその要件とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，中間発表会においてこれまでの研究成果と今後の研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	11月開催の中間発表会で研究成果や研究計画を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「国際文化共同研究B」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに中間発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究B」に討議者として少なくとも5回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，中間発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②先行研究分析報告：80点
・先行研究分析報告の内容：40点 ・先行研究分析報告についての発表：40点
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究B」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to present their Prior research analysis and rough design of their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to write up the prior research analysis to show your progress and originality.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research B as well as Thesis Interim Presentations (TIP). According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four hours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Prior research analysis: 80% (its content: 40%, presentations given in TIP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 105（その他 / Others 700）

博士ワークショップIII A

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
1．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
2．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる，
3．博士論文を構成する章を書き，論文として学術雑誌等に投稿する．構想発表会においては，完成した章（投稿論文原稿）の発表に加え，博士論文の構成（章立て）を示し，博士論文の全体像を説明する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究A」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，構想発表会においてこれまでの研究成果や博士論文の構成（章立て）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究A」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	7月開催の構想発表会で研究成果や予備論文（学位請求論文の草稿）を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「国際文化共同研究A」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに構想発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究A」に討議者として少なくとも5回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，構想発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②博士論文を構成する章：80点
・博士論文を構成する章の内容：40点 ・博士論文を構成する章についての発表：40点
本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究A」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to write up, present, and publicise their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to publish part of your dissertation. In Thesis Planning Presentations (TPP), you have to present what you have written together with the table of contents, as well as to explain the whole thesis structure.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research A as well as TPP. According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four hours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Written-up chapter(s): 80% (its content: 40%, presentations given in TPP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

OTR700G1 – 106（その他 / Others 700）

博士ワークショップIII B

佐藤　千登勢、小川　敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　研究者となった際の後進の指導・教育のトレーニングとして修士課程の学生の研究発表に対するコメンテーターを担うとともに，自ら研究計画や研究成果を発表するスキルを修得していきます．

【到達目標】
1．研究内容の論理性や研究方法の妥当性の観点から，他の院生の研究発表に的確なコメントを行うことができる．
2．他の院生の研究発表を「実践知」の観点からコメントできる，
3．博士論文を構成する章を書き，論文として学術雑誌等に投稿する．中間発表会においては，完成した章（投稿論文原稿）の発表に加え，博士論文の構成（章立て）を示し，博士論文の全体像を説明する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」，「DP2」，「DP3」，「DP4」の達成のために特に重要である

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　修士課程2年次の必修科目である「国際文化共同研究B」の授業に討論者として参加し，その結果をレポートにまとめます．また，中間発表会において博士論文の要旨を発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを提出します．
　履修者の発表などに対しては，授業，学習支援システム，個々のメール等を通じて，適宜フィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	討論者①	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第2回	討論者②	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第3回	討論者③	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第4回	討論者④	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第5回	討論者⑤	「国際文化共同研究B」の討論者として修士課程2年生の発表に対するコメントを行う．
第6回	研究発表とコメント①	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第7回	研究発表とコメント②	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第8回	研究発表とコメント③	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第9回	研究発表とコメント④	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第10回	研究発表とコメント⑤	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第11回	研究発表とコメント⑥	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第12回	研究発表とコメント⑦	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第13回	研究発表とコメント⑧	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．
第14回	研究発表とコメント⑨	11月開催の中間発表会で博士学位請求論文の要旨を口頭発表するとともに，他の院生の発表に対するコメントを文書で作成する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　「国際文化共同研究B」の履修者の発表に対するコメントは，授業内に行うと同時にレポートとしても提出します．さらに中間発表会での他の院生の発表に対するコメントも文書で提出します．また，自らの研究発表については論文演習科目等を活用しながら事前に準備を行います．
　大学設置基準に基づくと，準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります．しかし，科目の性格上，これらはあくまでも標準である，とご理解ください．

【テキスト（教科書）】
　特になし．

【参考書】
　特になし．

【成績評価の方法と基準】
①平常点（コメント・シート）：20点
・「国際文化共同研究B」に討議者として少なくとも5回参加し，コメント・シート（毎回A4のシート1枚）を提出する．加えて，中間発表会で他の院生の発表に対するコメントをまとめ，提出する．
②博士論文を構成する章：80点
・博士論文を構成する章の内容：40点 ・博士論文を構成する章についての発表：40点
　本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
・「国際文化共同研究B」のうち，いつの授業（5回）に討論者として参加するかは，あらかじめ同授業の担当者も含めて相談すること．
・レポートやコメントの提出先は研究科執行部（研究科長，専攻副主任）．

【担当教員の専門分野等】
この科目は研究科執行部が担当します．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
This seminar is designed to facilitate the development of teaching skills and research skills. Students are expected to comment on the presentations given by Masters students, as well as to write up, present, and publicise their dissertations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Three objectives:
1. You are able to grasp the problems and logic of other students' works and to make appropriate comments.
2. You are able to make comments on other students' works from the perspective of 'practical wisdom'.
3. You are able to publish part of your dissertation. In Thesis Interim Presentations (TIP), you have to present what you have written together with the table of contents, as well as to explain the whole thesis structure.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You are required to submit report about presentations made in Intercultural Communication Collaborate Research B as well as TIP. According to the current government requirements, you are expected to 'theoretically' spend four ours or more for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
- Comment sheets submitted: 20%
- Written-up chapter(s): 80% (its content: 40%, presentations given in TIP: 40%)
*Students who successfully achieve 60% or more of goals will be able to earn a passing grade for the course.

法政大学
HOSEI University